

# TR-Rack

EXPANDED ACCESS MODULE



Advanced Control Combined Synthesis System

PCI/F



## ユーザーズ・ガイド

# KORG

## 安全上のご注意



注意  
感電の恐れあり  
キャビネットをあげるな



マークについて

この機器に表示されているマークには、次のような意味があります。



このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。



このマークは、注意喚起シンボルであり取扱説明書などに、一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

## 火災・感電・人身障害の危険を防止するには

以下の指示を守ってください

### 警告



- 本製品を使用する前に、以下の指示をよく読んでください。
- 電源プラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込んでください。
- 本体上面および背面の放熱用スリット(細長い溝状の窓)を塞いだり、異物が入ったりしないように十分注意して御使用ください。
- 次のような場合には、直ちに電源を切って、電源プラグをコンセントから抜き、コルグ営業所またはお買い上げになった販売店に修理を依頼してください。
  - 電源コードが破損したとき
  - 異物が内部に入ったり、液体がこぼれたとき
  - 製品が(雨などで)濡れたとき
  - 製品に異常や故障が生じたとき



- 修理/部品の交換などで、取扱説明書に書かれている以外のことは、絶対にしないでください。必ず最寄りのコルグ営業所またはコルグ営業技術課に相談してください。
- 電源コードを無理に曲げたり、上に重いものを乗せたりしないでください。コードに傷がつき危険です。
- 本体上ケースの上に重いものを載せないでください。本体内部を破損する場合があります。
- 本製品をヘッドフォン、アンプ、スピーカーと組み合わせて使用した場合、設定によっては、永久的な難聴になる程度の音量になります。大音量や不快な程度の音量で、長時間使用しないでください。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
- 本製品に、異物(燃えやすいもの、硬貨、針金など)や液体(水やジュースなど)を絶対にいれないでください。



- 次のような場所での使用や保存はしないでください。
  - 温度が極端に高い場所(直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など)
  - 水気の近く(風呂場、洗面台、濡れた床など)や湿度の高い場所
  - ホコリの多い場所
  - 振動の多い場所



- 本製品を分解したり、改造したりしないでください。

## 注意



● 本製品は正常な通気が妨げられることのない所に設置して、使用してください。

● 本製品はマイクロコンピュータを使用した機器です。このためラジオやテレビなどを接近して同時にご使用になりますと、それらに雑音が入ることがあります。逆にラジオ、テレビ、その他の電子機器から本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。ラジオ、テレビ、その他の電子機器などからは十分に離してご使用ください。

● 他の電気機器の電源コードといっしょのタコ足配線は危険です。本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。

● スイッチやツマミに必要以上の力を加えますと故障の原因となりますので注意してください。



● 長時間使用しない場合は、電源コードをコンセントから抜いてください。



● 外装のお手入れは、必ず乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。ベンジンやシンナー系の液体は絶対にご使用にならないでください。(コンパウンド質、強燃性のポリッシャーも不可)。

● 製品をお買い上げいただいた日より一年間は、保証期間となり、修理は無償となりますが、保証書に購入店での手続きがない場合は無効となります。保証書は必ずお求めになった販売店で所定の手続きを行った後、大切に保管してください。

● 今後の参照のために、この取扱説明書はお読みになった後も大切に保管してください。



● 電源コードをコンセントに抜き差しするときは、絶対にコードを引っばらないでください。故障の原因となります。

## データについて

万一異常な動作をしたときに、メモリーの内容が消えてしまうことがありますので、大切なデータは外部のデータファイラー(記憶装置)等にセーブしておいてください。また、データの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

※Appleの名称、ロゴ及びMacintosh、MIDI Manager、PatchBayは米国アップルコンピュータ社の登録商標及び商標です。IBMは米国IBM社の登録商標です。MS-DOS及びWindowsは米国マイクロソフト社の登録商標及び商標です。NECは日本電気株式会社の登録商標です。その他の社名、製品名などは該当する各社の商標または登録商標です。

# 取扱説明書の活用法について

## TR-Rackの取扱説明書の構成と活用法について

それぞれの取扱説明書の内容や活用法は次のとおりです。

まず、**Basic編**を良く読み、操作する上で必要な事柄や基本的な操作などを覚えてください。パラメータに関しては、**Parameter編**を読んでください。

なお、**TR-Rack**の取扱説明書は、シンセサイザーやMIDIについての基本的な知識を備えていることを前提としています。

※取扱説明書には、機能や操作の解説と共にLCD画面が記載されています。記載されている音色名、各種のパラメータ、数値などは表示の一例ですので、本体のLCD画面の表示と必ずしも一致しない場合があります。また、使用及び外観は、改良のため予告なく変更することがあります。ご了承ください。

## User's Guide

### Basic編

[STEP1]では、**TR-Rack**の主な特長、各部の名称とはたらきについて説明しています。

[STEP2]では、接続方法、演奏するための基礎(音色の選択方法、チューニングやトランスポーズの設定方法)を説明しています。

[STEP3]では、プログラム、コンビネーションの基本的なエディット、MIDIについて等を説明しています。

MIDIの説明において、本誌で使用している「CC#」という記号は、Control Change Number(コントロール・チェンジ・ナンバー)を略したものです。また、MIDIメッセージに関する[ ]内の数字は、すべて16進数で表されています。

### Parameter編

パラメータの説明、設定時の留意点などをページごとに記載しています。各パラメータについて詳しく知りたいときにご覧ください。

## Effect Guide

エフェクトについての説明と各パラメータの説明、設定時の留意点等をエフェクトごとに記載しています。

エフェクトについて詳しく知りたいときにご覧ください。

## Voice Name List

**TR-Rack**に内蔵されているマルチサンプル、ドラムサンプルや出荷時のコンビネーション、プログラム、ドラムキットのボイスネームが掲載されています。

プリロードされている音色について知りたいときにご覧ください。

# Parameter編の見かた

本誌Parameter編の説明記述は、下記のような構成になっています。

(例)

ページ名

モード名

4. Combination Editモード

DISにすると、コントローラ・メッセージを受信しません。  
本体全体のMIDIコントローラ・メッセージの受信の設定は、Globalモードの「Page8: MIDI Filter」のCtrlで行ないます。

ページNO. → **Page19: After Touch (Enable Aftertouch)**

MIDI ティンバー1~8が、MIDIアフタータッチ・メッセージを受信するかどうかを設定します。

パラメータのバリュー(可変範囲)

パラメータ名 → **After Touch** [DIS, ENA]

注意事項のマーク →

After Touch

ENAにすると、MIDIアフタータッチ・メッセージを受信します。  
DISにすると、MIDIアフタータッチ・メッセージを受信しません。  
本体全体のMIDIアフタータッチ・メッセージの受信の設定は、Globalモードの「Page8: MIDI Filter」のA.Tで行ないます。

アフタータッチにはチャンネル・アフターとポリ・アフターがありますがチャンネル・アフターのみを受信します。

MIDIに関する説明文の左側に、このマークがついています。

**Page20: SustainPedal (Enable Sustain Pedal)**

MIDI ティンバー1~8が、MIDI CC#64ホールド(ダンパー・ペダル)メッセージを受信するかどうかを設定します。

SustainPedal [DIS, ENA]

ENAにすると、MIDIホールドを受信します。  
DISにすると、MIDIホールドを受信しません。  
MIDIホールドはコントロール・チェンジに含まれていて、本機全体での受信の設定は、Globalモードの「Page8: MIDI Filter」のCtrlで行ないます。

**Page21: Scale Select (Use Program's Scale)**

ティンバー1~8で使用するスケールを選択します。

Scale Select [CMB, PRG]

PRGにすると、プログラムで設定されているスケールを使用します。

CMBにすると、「Page44: Scale」で設定したコンビネーションのスケールを使用します。

**Page22: Hide OSC2**

ティンバー1~8のオシレータ2を使用するかどうかを設定します。ただし、ダブル・オシレータのプログラムを使用するティンバーに対してのみ、この設定が有効になります。

Hide OSC2 [NO, YES]

YESにすると、OSC2は発音しません(OSC1のみが発音します)。  
NOにすると、プログラムそのものの設定で発音します。  
必要がない限り、通常はNOに設定しておきます。

**Page23: Force Poly**

ティンバー1~8のキー・アサインを、ポリフォニックにするかどうかを設定します。ただし、モノ・アサインのプログラムに対してのみ、この設定が有効になります。

Force Poly [NO, YES]

YESにすると、ポリフォニックで発音します。  
NOにすると、プログラムそのもののキー・アサインで発音します。  
必要がない限り、通常はNOに設定しておきます。

**Page24: Pan**

ティンバー1~8のパン(リアパネルのアウトプット端子1/L/MONO、2/Rへの出力)を設定します。ただし、インサート・エフェクトを使用するときは、インサート・エフェクトへの入力のパンとなります。

Pan [OFF, L000...C064...R127, PROG]

PROGにすると、プログラムで設定されているパンの設定になります。

MIDI Combination Playモードでパンポット(CC#10)を受信すると、パンの設定値が変わります(ただし、この設定がL000~R127のときのみ)。

その他

●本誌で使用している「CC#」という記述は、Control Change Number(コントロール・チェンジ・ナンバー)を略したものです。

## 目次

## Basic編 1

## STEP1 ..... 3

- 1. 主な特長 ..... 3
  - ACCESS ..... 3
  - プログラム音色を手軽に調整できるプログラム・エディット ..... 3
  - 512種のプログラム、コンビネーション内蔵 ..... 3
  - デジタル・マルチ・エフェクター搭載 ..... 3
  - デジタル出力標準装備 ..... 3
- 2. 各部の名称とはたらき ..... 4

## STEP2 ..... 5

- 1. 接続のしかた ..... 5
- 2. MIDIキーボードの設定 ..... 6
  - MIDI送信チャンネル ..... 6
  - MIDI送信フィルター ..... 6
- 3. コンピュータとの接続 ..... 6
  - MIDIによる接続 ..... 6
  - IBM PC(互換機)との接続 ..... 6
  - Apple Macintoshとの接続 ..... 6
  - NEC PC-9800/9821シリーズとの接続 ..... 7
  - HOST BRの設定 ..... 7
- 4. デモ演奏を聴いてみましょう ..... 7
- 5. プログラムを選択し、演奏してみよう ..... 8
  - 本体の操作でプログラムを選択してみよう ..... 8
  - カテゴリによる選択 ..... 8
- 6. コンビネーションを選択し、演奏してみよう ..... 8
  - 本体の操作でコンビネーションを選択してみよう ..... 8
  - カテゴリによる選択 ..... 8
- 7. チューニングの方法 ..... 9
- 8. トランスポーズの設定 ..... 9
- 9. 各モードでのライト ..... 10
  - ライトの方法 ..... 10
  - COMPARE ..... 10
- 10. 出荷時の設定に戻すには ..... 11
- 11. エディットのしかた ..... 11

## STEP3 ..... 13

- 1. Program Playモード ..... 13
  - プログラムの構成 ..... 13
  - 音の要素 ..... 13
- 2. Program Editモード ..... 14
  - プログラムのエディットについて ..... 14
  - プログラムのエディット ..... 14
  - その他のパラメータについて ..... 15
  - 演奏法 ..... 15
- 3. Combination Playモード ..... 16
  - コンビネーションの構成 ..... 16

- ティンバーの発音方法(レイヤー、スプリット、ベロシティ・スイッチ) ..... 16
- 4. Combination Editモード ..... 17
  - コンビネーション・エディット ..... 17
  - コンビネーション・エディットの方法 ..... 17
  - ティンバーで使用するプログラムの選択 ..... 17
  - 音量の設定 ..... 17
  - MIDIチャンネルの設定 ..... 17
  - キー・ゾーンの設定 ..... 17
  - ベロシティ・ゾーンの設定 ..... 18
  - その他のコンビネーション・エディットについて ..... 18
- 5. Multiモード ..... 19
  - TR-Rackのマルチについて ..... 19
  - マルチの構成 ..... 19
  - 画面の選択とパラメータの設定 ..... 19
- 6. エフェクト ..... 19
  - インサート・エフェクト ..... 19
  - マスター・エフェクト ..... 20
  - マスターEQ ..... 20
  - エフェクトのバイパス ..... 20
  - センド/リターンの調整 ..... 20
- 7. Globalモード ..... 21
  - 画面の選択とパラメータの設定 ..... 21
- 8. データの保存 ..... 21
  - 本体へのライト ..... 21
  - MIDIデータ・ダンプ ..... 21
- 9. MIDIアプリケーション ..... 22
  - MIDIチャンネルについて ..... 22
  - ノート・オン/オフについて ..... 22
  - プログラム、バンクを替える ..... 22
  - コンビネーションを変える ..... 22
  - サスティン・ペダルについて ..... 22
  - アフタータッチをかける ..... 23
  - ピッチバンドをかける ..... 23
  - 音量を変える ..... 23
  - ピブラート(オシレータLFO)をかける ..... 23
  - ワウワウ(フィルターLFO)をかける ..... 23
  - 音の定位(パンポット)を変える ..... 23
  - マスター・エフェクトへのセンド量(センド1,2)を変える ..... 23
  - エフェクトのON/OFFを行なう ..... 23
  - エフェクトのダイナミック・モジュレーションについて ..... 24
  - 音色(トーン)を変える ..... 24
  - 音の立ち上がり(アタック・タイム)を変える ..... 24
  - 音の消え方(リリース・タイム)を変える ..... 24
  - RPNでのエディットについて ..... 24
  - チューニングをする ..... 24
  - トランスポーズをする ..... 25
  - ピッチバンドの可変範囲を変える ..... 25
  - 音が消えないとき ..... 25
  - あるチャンネルのすべての音を消すとき ..... 25
  - あるチャンネルのすべてのコントローラをリセットするとき ..... 25
  - システム・エクスクルーシブについて ..... 25
  - 音色等の設定データを送る(データ・ダンプについて) ..... 25
  - 音色等のエディットを行なう ..... 26
  - 外部機器と接続してマルチ・ティンバーで演奏する ..... 26
- 10. こんなことがしたいときは ..... 26
  - チューニングをしたいとき ..... 26
  - 音程を変えたいときは ..... 26

ペロシティの感度を変えたいとき .....	26
Combination PlayモードでProgram Change, Bank Selectを受信し、コンビネーションやティンバーのプログラムを切り替えたいとき .....	26
複数のプログラムを同時に鳴らしたいとき .....	27
左右の手で別の音色で弾きたいとき .....	27
出荷時の設定に戻りたいときは .....	27
コンピュータなどに、直接音色データや設定を保存したいとき .....	27
<b>11. 故障かな?と思ったら .....</b>	<b>28</b>
POWER スイッチを押しても電源が入らない! .....	28
音が出ない! .....	28
MIDIでコントロールできない! .....	28
ライトできない! .....	28
ドラム・オシレータのプログラムで、鍵盤を弾いても思ったようにドラムの音がでない! .....	28
MIDIプログラム・チェンジでプログラムを選ぶことができない! .....	28
Combination Playモードのとき、MIDIプログラム・チェンジでコンビネーションを選ぶことができない! .....	28
Combination Playモードで特定の鍵盤の音がでない! .....	28
TO HOST端子で接続されているコンピュータでコントロールできない! .....	28

## Parameter 編 ..... 29

### 1. Program Playモード ..... 31

Page 1: Program Bank/Program No./Program Name/Category ..... 31

### 2. Program Editモード ..... 32

Page 1: Octave .....	32
Page 2: Amp Level .....	32
Page 3: Filter Fc .....	32
Page 4: Filter EG Int .....	32
Page 5: Resonance .....	32
Page 6: Attack Time .....	33
Page 7: Decay Time .....	33
Page 8: Release Time .....	33
Page 9: Velocity .....	33
Page 10: After Touch .....	33
Page 11: LFO Intensity .....	34
Page 12: LFO Frequency .....	34
Page 13: Pan .....	34
Page 14: Master FX Send 1 .....	34
Page 15: Master FX Send 2 .....	34
Page 16~19: IFX1~IFX4 (Insert Effect Setting) .....	34
Page 20: IFX Copy (Copy Insert Effect) .....	35
Page 21: IFX Swap (Swap Insert Effect) .....	36
Page 22: IFX Chain .....	36
Page 23: IFX Pan (Pan/Width) .....	36
Page 24: IFX Send MFX .....	36
Page 25, 26: MstrFX1-Mod/MstrFX2-Rev (Effect 1/Effect 2 Setting) .....	37
Page 27: Master FX Copy (Copy Master Effect) .....	37
Page 28: Master FX Chain .....	37
Page 29: Master FX Return .....	37
Page 30: Master EQ dB .....	38
Page 31: MFX Pan to Out3/4 (Pan 1/2) .....	38
Page 32: Rename(Program Name) .....	38

Page 33: Set Category .....

38

### 3. Combination Playモード ..... 39

Page 1: Combination Bank/Combination No./Combination Name/Category .....

39

### 4. Combination Editモード ..... 40

Page 1: Program .....	40
Page 2: Level .....	40
Page 3: Channel (MIDI Channel) .....	40
Page 4: Timbre SW .....	40
Page 5: Transpose .....	40
Page 6: Detune .....	40
Page 7: Bend Range .....	40
Page 8: Delay Start [ms] .....	41
Page 9: Key Zone Top (Top Key) .....	41
Page 10: Key Zone Btm (Bottom Key) .....	41
Page 11: KZ Top Slope (Top Slope) .....	41
Page 12: KZ Btm Slope (Bottom Slope) .....	41
Page 13: Vel Zone Top (Top Velocity) .....	41
Page 14: Vel Zone Btm (Bottom Velocity) .....	42
Page 15: VZ Top Slope (Top Slope) .....	42
Page 16: VZ Btm Slope (Bottom Slope) .....	42
Page 17: Prog Change (Enable Program Change) .....	42
Page 18: Ctrl Change (Enable Control Change) .....	42
Page 19: After Touch (Enable Aftertouch) .....	43
Page 20: Sustain Pedal (Enable Sustain Pedal) .....	43
Page 21: Scale Select (Use Program's Scale) .....	43
Page 22: Hide OSC2 .....	43
Page 23: Force Poly .....	43
Page 24: Pan .....	43
Page 25: MFX Send 1 .....	44
Page 26: MFX Send 2 .....	44
Page 27: InsrFX Size .....	44
Page 28~31: IFX1~IFX4 (Insert Effect Setting) .....	45
Page 32: IFX Copy (Copy Insert Effect) .....	45
Page 33: IFX Swap (Swap Insert Effect) .....	46
Page 34: IFX Chain .....	46
Page 35: IFX Pan (Pan/Width) .....	46
Page 36: IFX Send (Send 1, 2) .....	46
Page 37, 38: MstrFX1-Mod/MstrFX2-Rev (Effect 1/Effect 2 Setting) .....	47
Page 39: Master FX Copy (Copy Master Effect) .....	47
Page 40: Master FX Chain .....	47
Page 41: Master FX Return .....	47
Page 42: Master EQ dB .....	48
Page 43: MFX Pan to Out3/4 .....	48
Page 44: Scale .....	48
Page 45: Initialize .....	48
Page 46: Rename (Combination Name) .....	49
Page 47: Set Category .....	49

### 5. Multiモード ..... 50

Page 1: Program (Bank/Program) .....	50
Page 2: Level .....	50
Page 3: Channel (MIDI Channel) .....	50
Page 4: Track SW .....	50
Page 5: Transpose .....	51
Page 6: Detune .....	51
Page 7: Bend Range .....	51

Page8: Prog Change (Enable Program Change).....	51
Page9: Ctrl Change (Enable Control Change) .....	51
Page10: After Touch (Enable Aftertouch).....	52
Page11: SustainPedal (Enable Sustain Pedal) .....	52
Page12: Scale Select (Use Program's Scale) .....	52
Page13: Hide OSC2 .....	52
Page14: Force Poly .....	52
Page15: Pan.....	53
Page16: MFX Send 1 .....	53
Page17: MFX Send 2 .....	53
Page18: InsrtFX Size .....	53
Page19~22: IFX1~IFX4 (Insert Effect Setting).....	54
Page23: IFX Copy (Copy Insert Effect) .....	54
Page24: IFX Swap (Swap Insert Effect) .....	55
Page25: IFX Chain .....	55
Page26: IFX Pan (Pan/Width) .....	56
Page27: IFX Send (Send1, Send2) .....	56
Page28, 29: MstrFX1-Mod/MstrFX2-Rev (Effect1/Effect2 Setting).....	56
Page30: Master FX Copy (Copy Master Effect) .....	56
Page31: Master FX Chain .....	56
Page32: Master FX Return.....	56
Page33: Master EQ dB .....	57
Page34: MFX Pan to Out3/4 (Pan1/2).....	57
Page35: Scale.....	57
Page36: Initialize .....	57
Page37: Copy from Comb.....	57
<b>6. Globalモード .....</b>	<b>58</b>
Page1: Master Tune.....	58
Page2: Key Transpose .....	58
Page3: MIDI Channel .....	58
Page4: Curve .....	58
Page5: Insert FX Off.....	59
Page6: Master FX Off .....	59
Page7: Prog Change (Filter) .....	59
Page8: MIDI Filter .....	60
Page9: Memory Protect.....	60
Page10: Preload .....	61
Page11: All Note Scale/Octave Scale .....	61
Page12: Data Dump .....	61
Page13: Page Memory .....	62
Page14: Prog Category .....	62
Page15: Comb Category .....	62
Page16: P/C Select.....	63
Page17: System Clock .....	63

## 付録 ..... 64

### 1. TR-Rackの構造 ..... 64

Alternate Modulationについて .....	69
Alternate Modulation Source (AMS)について .....	69
Alternate Modulationの設定 .....	70
Alternate Modulationの応用例.....	70
Dynamic Modulation Sourceについて .....	70
ドラムキットのパラメータ .....	71

### 2. TR-Rackの内部パラメータ ..... 72

### 3. Initialize実行時の設定データ ..... 74

Combination .....	74
Multi.....	75

### 4. KORG MIDI Driverのインストールとセッ トアップ ..... 76

KORG MIDI DriverのWindows 3.1へのインストール .....	76
KORG MIDI Driver (Windows)のセットアップ .....	77
KORG MIDI DriverのWindows95へのインストール .....	77
KORG MIDI DriverのWindows95のセットアップを変更する場合 .....	79
KORG MIDI DriverのMacintoshへのインストール .....	79
KORG MIDI Driver (Macintosh)のセットアップ .....	80

### 5. DI-TRI デジタル/Fオプションについて .. 81

接続方法 .....	81
------------	----

### 6. 各種メッセージ ..... 82

### 7. 仕様とオプション ..... 82

仕様.....	82
オプション(別売) .....	82

### MIDIインプリメンテーション・チャート. 83



---

---

# Basic 編

---

---



# STEP 1

## 1. 主な特長

### ACCESS

TR-Rackに搭載されているPCM音源システムは、フル・デジタルでサウンド・メイクできるPCM音源システム、ACCESS (Advanced Control Combined Synthesis System) が採用されています。

音源部は、32M Bytesの大容量のPCM ROMに、415種のマルチサンプル、458種のドラムサンプルをサンプリング周波数48kHzで収録。エフェクト部は、100種のインサート・エフェクトと、センド、リターン形式のモジュレーション系、リバーブ/ディレイ系の14種のマスター・エフェクトを搭載。パワフルなサウンドが得られます。

すべてがデジタルで処理されるので、音質劣化のない高品質なサウンドが楽しめます。

### デジタル出力標準装備

別売のDI-TRIデジタル/Fオプションを搭載すると、Digital OUT端子が追加されます。

Digital OUT端子とADAT Opticalフォーマット対応のミキサー、アンプ、レコーダー等のDIGITAL IN端子を接続すると本体から出力される信号をデジタルのままミキサー、アンプ、レコーダー等で扱うことができます。

### プログラム音価を手軽に調整できるプログラム・エディット

TR-Rackのプログラム・エディターは、プログラムの中にある多数の複雑なパラメータ (TRINITYと同じものを内蔵) を簡単かつ、感覚的にエディットできるようにしました。

なお、MIDIを介してTRINITYやパソコン用のエディターを使えば、TRINITYと同等なパラメータのエディットが行なえます。

### 512種のプログラム、コンビネーション内蔵

TR-Rackには、バンクA、B、C、Dにそれぞれ128種、合計512種のプログラムが内蔵されています。これらの豊富なプログラムで多彩な演奏が行なえます。

TR-Rackには、最大8つのティンバーにプログラムを割り当てることのできるコンビネーションが512種内蔵されています。接続したMIDI機器から受信したノートナンバーやベロシティによって、割り当てたプログラムを重ねたり、弾き分けたりすることもできます。

### デジタル・マルチ・エフェクター搭載

TR-Rackのエフェクターには、100種のインサート・エフェクトと14種のマスター・エフェクトがあります。

インサート・エフェクトはイコライザー、リミッター、エキサイター等のトーンやダイナミクスを変えるもの、アンプシミュレーション、ロータリースピーカー等の楽器特有の効果を出すもの、リングモジュレーター、ポコーダ、ピッチ・シフター等のエフェクトの効果を出すものなどがあります。マスター・エフェクトにはセンド、リターン形式のモジュレーション系、リバーブ/ディレイ系がありエフェクトによって、よりパワフルなサウンドが得られます。

また、エフェクトには各コントローラでエフェクトのパラメータをモジュレートするDynamic Modulation (ダイナミック・モジュレーション) 機能があります。

## 2. 各部の名称とはたらき

### [+PAGE]/[-PAGE]キー

Program Editモード、Combination Editモード、Multiモード、Globalモードのときはページの選択に使用します。Program Playモード、Combination Playモードのときは、プログラム・ナンバー、コンビネーション・ナンバーをカテゴリーによって選択するときに使用します(本誌P.8参照)。

### カーソル[◀]/[▶]キー

Program Editモード、Combination Editモード、Multiモード、Globalモードのときはパラメータの選択に使用します。Program Playモード、Combination Playモードのときは、プログラム・ナンバー、コンビネーション・ナンバーをカテゴリーによって選択するときに使用します(本誌P.8参照)。

### [+1/YES]キー、[-1/NO]キー

Program Playモード、Combination Playモードのときはプログラム・ナンバー、コンビネーション・ナンバーを選択します。  
Program Editモード、Combination Editモード、Multiモード、Globalモードのときは選択されたパラメータの値の設定に使用します。

### VOLUMEツマミ

OUTPUT端子1/L/MONO、2/Rとヘッドホン端子から出力される音量を調整します。

### ヘッドホン端子

ヘッドホン(標準プラグ)を接続します。  
ヘッドホンのLチャンネルからはOUTPUT端子1/L/MONOの信号が、RチャンネルからはOUTPUT端子2/Rの信号が出力されます。

### [PROG]キー、[COMB]キー、[GLOBAL/MULTI]キー、[EDIT]キー

各モードに入るためのキーです。  
キーを押すと、キーの上(または下)にあるLEDが点灯し、押したキーのモードに入ります。  
Program Playモード、Combination Playモードに入っている時に[EDIT]キーを押すとProgram Editモード、Combination Editモードに入ります。  
Globalモード、Multiモードは、[Global/Multi]キーを押すごとにGlobalモード(LEDが点滅)とMultiモード(LEDが点灯)が切り替わります。

### [COMPARE]キー

エディット中にこのキーを押すと、LEDが点灯し、ライトされている設定が呼び出されます。もう一度押すと、LEDは消灯し、元のエディット中の設定に戻ります。

### [A4]キー

このキーを押すと、現在選択されている音色がA4(440Hz)の音程で発音します。  
音色の確認やMIDI接続、オーディオ接続のチェックが簡単に行なえます。  
また、MIDIデータを受信すると、キーの上にあるLEDが点灯しMIDIインジケータとして働きます。

### パワー・スイッチ

電源のON/OFFを行ないます。

### [RESET]キー

何らかの理由で音が出たまま止まらなくなったときに、このキーを押します。

### [WRITE]キー

各モードで、設定をライトするときに使用します。

### AC電源端子

付属の電源コードを接続する端子です。  
電源コードを本体に接続してから、プラグをコンセントに差し込んでください。

### WORD CLOCK IN端子

システム・クロックの入力端子です。  
ただし、別売のDI-TRIデジタルI/Fボードを搭載したときのみ対応します。

### DIGITAL OUT端子(Digital I/Fフォーマット)

OUTPUT端子(1/L/MONO、2/R、3、4)の出力をデジタル信号で出力する端子です。  
ADAT Opticalフォーマット対応のケーブルで、ADAT Opticalフォーマット対応の機器(ミキサー、アンプ、レコーダ等)を接続します。  
ただし、別売のDI-TRIデジタルI/Fボードを搭載したときのみ対応します。

### TO HOST端子

コンピュータ等を接続するときに使用します。

### MIDI THRU端子

MIDI IN端子で受信したMIDIデータをそのまま送信する端子です。  
複数のMIDI機器をMIDIケーブルで接続するときに使用します。

### OUTPUT端子(1/L/MONO、2/R、3、4)

アンプ、ミキサーなどを接続します。  
ステレオで接続するときは1/L/MONO、2/Rを使用します。  
モノラルで接続するときは1/L/MONOを使用します。  
3、4は、マスター・エフェクトの設定によって変わるので、使用する前にそれぞれの設定を確認してください。また3、4は、VOLUMEツマミで音量を調整できません。

### MIDI IN端子

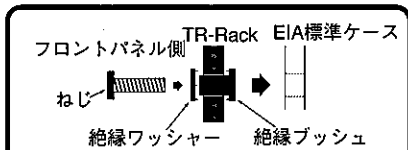
MIDIデータを受信する端子です。  
外部MIDI機器を接続します。

### MIDI OUT端子

MIDIデータを送信する端子です。  
外部MIDI機器を接続します。

# STEP2

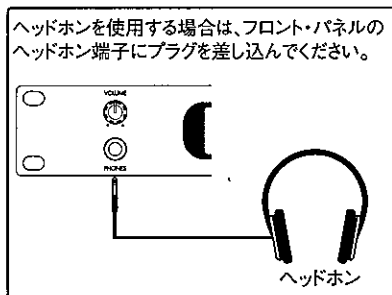
## 1. 接続のしかた



フロントパネル側 TR-Rack EIA標準ケース  
ねじ 絶縁ワッシャー 絶縁ブッシュ

TR-Rackをラックに取付ける場合は、上図のように本機の取付け穴へ絶縁ワッシャーと絶縁ブッシュを入れて取付けてください。

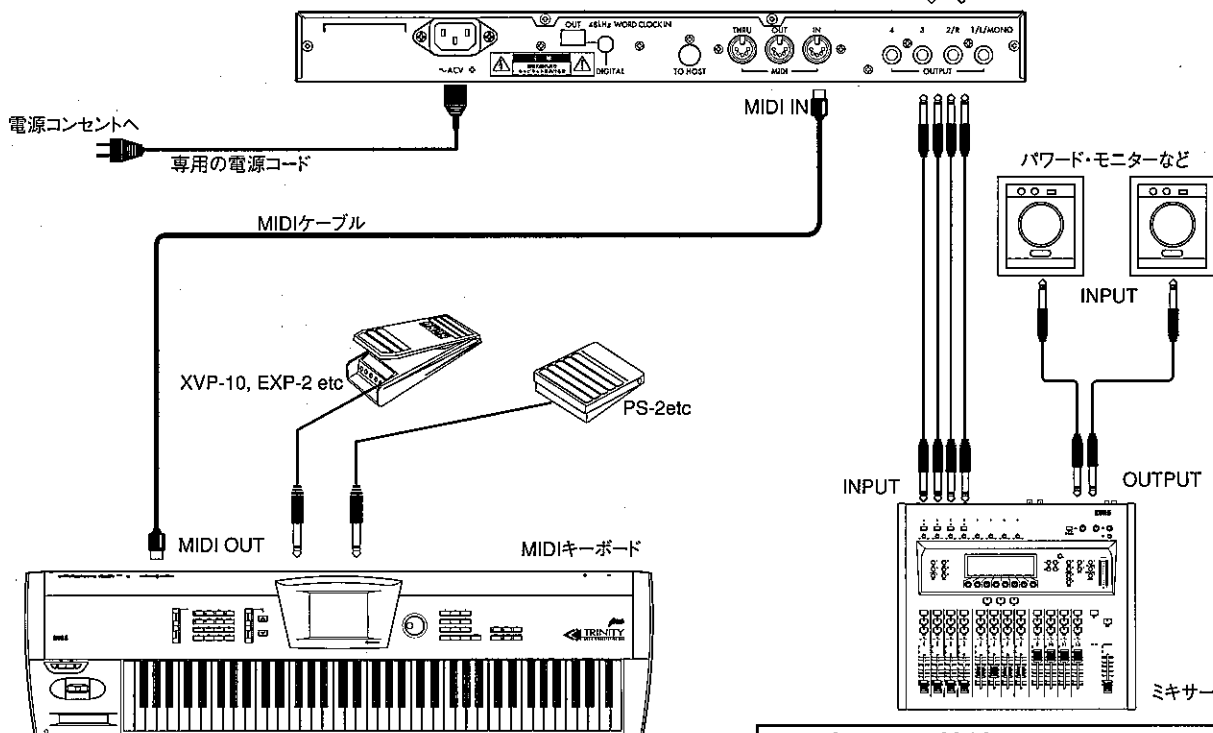
⚠ 机上等へ直接置いて使用する場合は、本機の上に他のラック又はコンピュータ等を積み上げてのご使用はお避けください。



ヘッドホンを使用する場合は、フロント・パネルのヘッドホン端子にプラグを差し込んでください。

### <電源コードの接続>

AC電源端子に専用の電源コードを接続し、コンセントに差し込みます。



### <MIDI端子を使った接続>

接続したMIDI機器で本機をコントロールするときは、本機のMIDI IN端子とMIDI機器のMIDI OUT端子を接続します。(たとえば、本機の音源で外部のシーケンサのデータを再生したいとき)

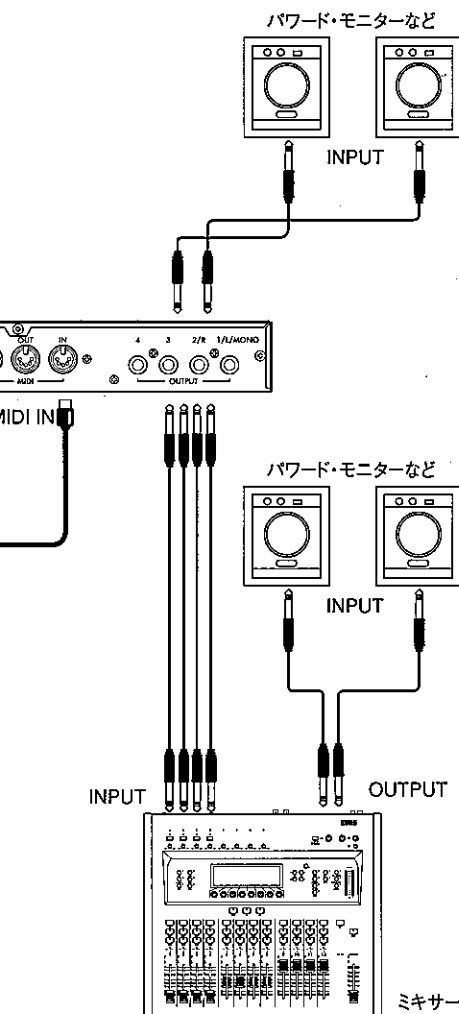
コンピュータを接続する場合は、通常TO HOST端子を使用します。

⚠ MIDI THRU端子を使って接続すれば、何台ものMIDI機器を使用することができますが、誤動作をさけるために2~3台程度の接続にしてください。それ以上のMIDI機器を接続する場合は、MIDIパッチベイを使用してください。

### <パワー・モニター/ステレオ・アンプの接続>

TR-Rackのサウンドを忠実に再現するために、できるだけパワー・モニター(別売のPM-15などのアンプ内蔵スピーカー)を使用することをおすすめします。また、オーディオ・ステレオ・アンプや外部入力端子のあるステレオ・ラジカセなどと接続する場合はLINE IN、AUX INまたは外部入力と書かれている端子に接続してください。

⚠ オーディオ・ステレオ・アンプに接続した場合、大音量で鳴らすとスピーカー・システムを破壊することがありますので音量を上げすぎないように注意してください。



### <ミキサーの接続>

OUTPUT端子からミキサーのINPUTへ接続します。TR-Rackの高品位なサウンドを活かすためにも、できるだけステレオで再生することをおすすめします。モノラルで接続するときは1/L MONO端子に接続してください。

## 2. MIDIキーボードの設定

TR-RackはMIDIキーボードから送信されるMIDI情報を受信し、それにそって演奏します。

MIDIキーボードを使ってTR-Rackで演奏させるときは、あらかじめMIDIキーボード側のMIDI送信を次のように設定しておいてください。MIDIキーボードの操作方法はMIDIキーボードの取扱説明書を参照してください。

### MIDI送信チャンネル

MIDIキーボードのMIDI送信チャンネルは、TR-RackのグローバルMIDIチャンネルに合わせてください。

MIDIキーボードの送信チャンネルが固定、または変更できない場合は、TR-RackのMIDI受信チャンネルを変更してください。

### MIDI送信フィルター

MIDIキーボードの中には、送信するMIDI情報を選択できる機種もあります。必要に応じて設定してください。

なお、TR-Rackは次のMIDI情報を受信します。

**ノート・オン/オフ(ノート情報)**: もっとも基本となる鍵盤演奏のためのメッセージです。

**プログラム・チェンジ**: プログラムを切り替えるためのメッセージです。

**コントロール・チェンジ**: コントローラーや演奏状況のメッセージです。

**ピッチ・ベンド**: ベンダー(ジョイスティック、ホイール、レバー)によるピッチ変化のためのメッセージです。

**アフタータッチ**: 鍵盤を押し込んだときにかかる効果を伝えるためのメッセージです。

**TR-Rack**で演奏するときは、MIDIキーボードで送信できるMIDI情報のみに対応します。例えばピッチ・ベンド・メッセージを送信しないMIDIキーボード(デジタルピアノ等)で演奏する場合、ピッチ・ベンドの効果は得られません。

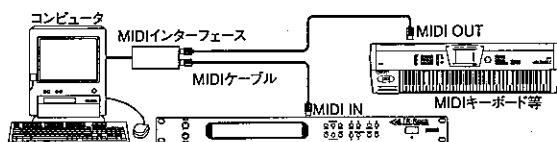
## 3. コンピュータとの接続

TR-Rackはコンピュータと専用ケーブル(またはMIDIケーブル)で接続することにより、コンピュータを使ってTR-Rackで演奏することができます。

### MIDIによる接続

MIDIインターフェースを装着したコンピュータとTR-Rackを接続するときは、コンピュータ(MIDIインターフェース)のMIDI OUT端子とTR-RackのMIDI IN端子をMIDIケーブルで接続します。

コンピュータとMIDIインターフェースの接続、MIDIポートの設定についてはMIDIインターフェースの取扱説明書を参照してください。



### IBM PC(互換機)との接続

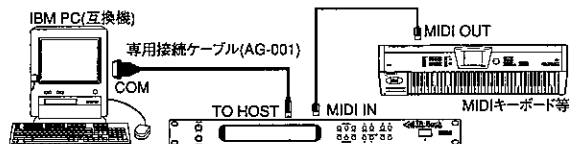
別売の接続キットAG-001A/AG-001(接続ケーブル、ドライバーソフトウェア-KORG MIDI Driver)で接続します。

ただし、Windowsに対応していないアプリケーションでは、特にTR-Rackをサポートしている場合を除いて、この接続ではご利用になれません。

また、コンピュータのシリアル・ポートが25ピンの場合は9ピン-25ピン変換アダプター(AG-004[別売])をご利用ください。

IBM PC(互換機)のシリアル・ポート(COMポート)とTR-RackのTO HOST端子を専用接続ケーブルで接続してください。

Globalモード「Page 16: P/C Select」を38.4kBPSに設定してください。

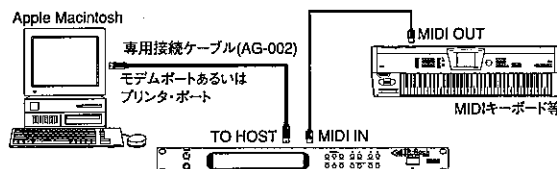


### Apple Macintoshとの接続

別売の接続キットAG-002(接続ケーブル、ドライバーソフトウェア-KORG MIDI Driver)で接続します。

Apple Macintoshのモデム・ポートあるいはプリンタ・ポートとTR-RackのTO HOST端子を専用接続ケーブルで接続してください。

Globalモード「Page 16: P/C Select」を31.25kBPSに設定してください。



## NEC PC-9800/9821シリーズとの接続

### ●RS-232C(SERIAL1)を利用する場合

別売の接続キットAG-003(接続ケーブル、ドライバーソフトウェア-KORG MIDI Driver)で接続します。

ただし、コンピュータの機種、またはアプリケーション(シーケンサ)の種類によってはご使用になれませんので注意してください。アプリケーション(シーケンサ)はRS-232C/MIDI変換アダプターの使用できるもの、またはWindowsに対応しているものに限りません。

NEC PC-9800シリーズのRS-232C端子とTR-RackのTO HOST端子を専用接続ケーブルで接続してください。

Globalモード「Page 16: P/C Select」を31.25kBPSに設定してください。

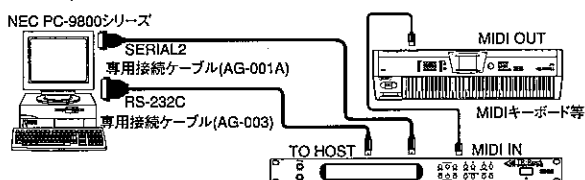
### ●SERIAL2を利用する場合

別売の接続キットAG-001A(接続ケーブル、ドライバーソフトウェア-KORG MIDI Driver)で接続します。

ただし、Windowsに対応していないアプリケーションでは、特にTR-Rackをサポートしている場合を除いて、この接続ではご利用になれません。

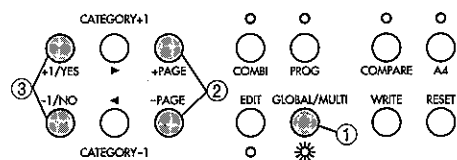
NEC PC-9800シリーズのSERIAL2端子とTR-RackのTO HOST端子を専用接続ケーブルで接続してください。

Globalモード「Page 16: P/C Select」を38.4kBPSに設定してください。



## HOST BRの設定

コンピュータとのデータ転送レートを設定します。接続するコンピュータによって設定が変わりますので注意してください。



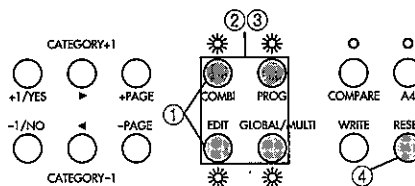
- ① [GLOBAL/MULTI]キーを押す、Globalモードに入ります。  
[GLOBAL/MULTI]キーのLEDが点滅します。
- ② [+PAGE]または[-PAGE]キーを押す、「Page 16: P/C Select」を選択します。

16 P/C Select  
31.25kBPS

- ③ [+1/YES]または[-1/NO]キーを押す、31.25kBPSまたは38.4kBPSに設定します。  
Apple Macintosh、PC-9800のRS-232Cの場合は、31.25kBPSに設定してください。  
IBM PC(互換機)、PC-9800のSERIAL2の場合は、38.4kBPSに設定してください。

## 4. デモ演奏を聴いてみましょう

本体に入っているデモ演奏を聴いてみましょう。

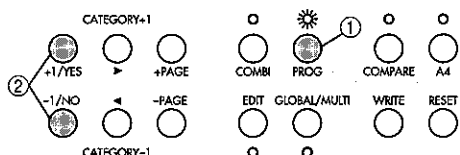


- ① [COMBI]キーと[EDIT]キーを同時に押します。  
デモモードに入ります。
- ② [COMBI]、[PROG]、[EDIT]、[GLOBAL/MULTI]キーのいずれかを押します。  
デモ演奏が始ります(デモ演奏は、エンドレスで演奏されます)。
- ③ [COMBI]、[PROG]、[EDIT]、[GLOBAL/MULTI]キーのいずれかを押すと、デモ演奏が止ります。
- ④ [RESET]キーを押すと、DEMOモードを抜けてCombination Playモードに移ります。

## 5. プログラムを選択し、演奏してみよう

本体の操作でプログラムを選択してみよう

ここでは、バンクAのプログラム3を選択してみましょう。

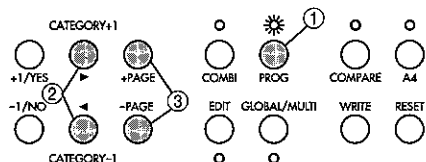


- ① [PROG]キーを押し、Program Playモードへ入ります。  
[PROG]キーのLEDが点灯します。
- ② [+1/YES]または[-1/NO]キーを押し、プログラムA03を選択します。
  - ・ [+1/YES]キー（[-1/NO]キー）を押しながら[▶]キー（[◀]キー）を押すと、プログラムが10ずつ切り換ります。
  - ・ [+1/YES]キー（[-1/NO]キー）を押しながら[+PAGE]キー（[-PAGE]キー）を押すと、プログラムが128ずつ切り換ります。

接続したMIDI機器からもプログラムが選択できます。  
詳しくは、本誌P.22の「STEP3 9. MIDIアプリケーション」を参照してください。

### カテゴリーによる選択

512個のプログラムは同類の音色ごとにまとめられカテゴリー名を付けられて分けられています。  
このカテゴリーを使ってプログラムが選択できます。



- ① [PROG]キーを押し、Program Playモードへ入ります。
- ② カーソル[◀](CATEGORY +1)または[▶](CATEGORY -1)キーを押し、プログラムのカテゴリーを選択します。

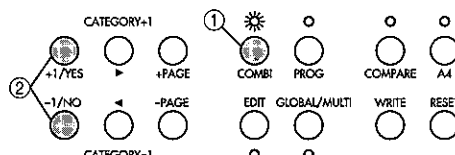
プログラム ———— A00:Tsunami Warning!  
そのプログラムが ———— Cat:Motion Synth!!!!  
所属するカテゴリー

- ③ [+PAGE]または[-PAGE]キーを押すと、そのカテゴリーの所属するプログラムが順番に選ばれます。
- ②で設定したカテゴリーのプログラムだけを選択できます。

## 6. コンビネーションを選択し、演奏してみよう

本体の操作でコンビネーションを選択してみよう

ここでは、バンクAのコンビネーション3を選択してみましょう。

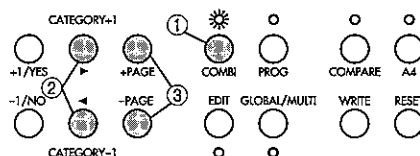


- ① [COMBI]キーを押し、Combination Playモードへ入ります。  
[COMBI]キーのLEDが点灯します。
- ② [+1/YES]または[-1/NO]キーを押し、コンビネーションA03を選択します。
  - ・ [+1/YES]キー（[-1/NO]キー）を押しながら[▶]キー（[◀]キー）を押すと、コンビネーションが10ずつ切り換ります。
  - ・ [+1/YES]キー（[-1/NO]キー）を押しながら[+PAGE]キー（[-PAGE]キー）を押すと、コンビネーションが128ずつ切り換ります。

接続したMIDI機器からもコンビネーションが選択できます。  
詳しくは、本誌P.22の「STEP3 9. MIDIアプリケーション」を参照してください。

### カテゴリーによる選択

512個のコンビネーションはカテゴリーによって分けられています。  
このカテゴリーを使ってコンビネーションが選択ができます。



- ① [COMBI]キーを押し、Combination Playモードへ入ります。
- ② カーソル[◀](CATEGORY +1)または[▶](CATEGORY -1)キーを押し、コンビネーションのカテゴリーを選択します。

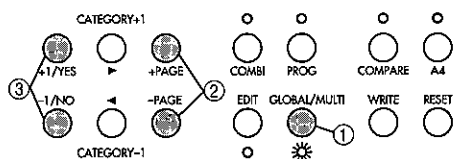
コンビネーション ———— A00:Trinity Overture  
そのコンビネーションが ———— Cat:Orchestral.....  
所属するカテゴリー

- ③ [+PAGE]または[-PAGE]キーを押し、コンビネーションを選択します。
- ②で設定したカテゴリーのコンビネーションだけを選択できます。



## 7. チューニングの方法

チューニングを設定します。



- ① [GLOBAL/MULTI]キーを押し、Globalモードへ入ります。  
[GLOBAL/MULTI]キーのLEDが点滅します。

- ② [+PAGE]または[-PAGE]キーを押し、「Page1: Master Tune」のページを選択します。

```
1 Master Tune
+00 [440.00Hz]
```

- ③ [+1/YES]または[-1/NO]キーを押し、パラメータの値を設定します。

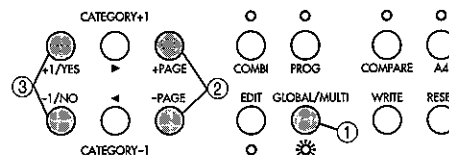
```
1 Master Tune
+08 [442.04Hz]
```

周波数(Hz)表示を見ながら設定してください。設定はセント単位で行ないます。

1セントは非常に小さな単位で、±3セント程度の差はあまり問題になりません。

## 8. トランスポーズの設定

音程を移調することを、トランスポーズといいます。  
トランスポーズを設定してみましょう。



- ① [GLOBAL/MULTI]キーを押し、Globalモードへ入ります。  
[GLOBAL/MULTI]キーのLEDが点滅します。

- ② [+PAGE]または[-PAGE]キーを押し、「Page2: Key Transpose」のページを選択します。

```
2 Key Transpose
0
```

- ③ [+1/YES]または[-1/NO]キーを押し、パラメータの値を設定します。

```
2 Key Transpose
+2
```

[+1/YES]キーを1回押すごとに半音単位で音程が上がります。  
[-1/NO]キーを1回押すごとに半音単位で音程が下がります。

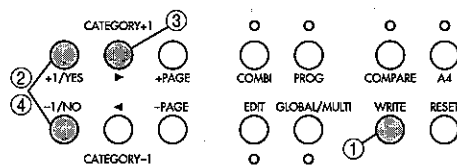
## 9. 各モードでのライト

Program Edit、Combination Edit、Multi、Globalの各モードでは、変更した設定を本体内に保存することができます。この機能を**ライト**といいます。また、これらのデータは本体で保存だけでなく外部MIDI機器で保存することもできます(本誌P.21「STEP3 8.データの保存」)。

### ライトの方法

ライトするときは、Globalモードであらかじめプロテクトをはずしておいてください(GlobalモードPage9: Memory Protect)。

Program Editモードを例に説明します。



#### ①各モードで、[WRITE]キーを押します。

LCD画面の表示が以下のように変わります(Program Editモードでの例)。

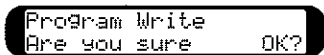


#### ②[+1/YES]または[-1/NO]キーを押し、ライト先を選びます(Multiモード、Globalモードの場合はライト先はありません)。ライト元はProgram Editモードで現在選んでいるプログラムです。

#### ③カーソル[▶]キーを押し、「OK?」を点滅させます。

#### ④[+1/YES]キーを押します。

LCD画面に「Are you sure OK?」と表示されます。



#### ⑤もう一度[+1/YES]キーを押します。

LCD画面に「Completed」と表示され、ライトが完了します。

ライト処理が終了するまで数秒間時間がかかります。途中でライトから抜けたいときは、「OK?」を点滅させ、[-1/NO]キーを押してください。

⚠ [WRITE]キーによるメモリーへの書き込み処理をしている途中(LCDに「Now writing data」と表示)で本機の電源をOFFにしないでください。電源をONしても本機が正常に動作しなくなることがあります。このような場合は、[EDIT]キーと[A4]キーを押しながら電源を入れてください。ただし、このとき本機の内部データが初期化されますのでGlobalモード「Page10: Preload」で「ALL」を選択してプリロードデータの読み込みをしてください。

⚠ 本機がメモリーへ書き込み処理をしている間は、MIDI OUT端子やPC/IF端子からのアクティブセンス(FEH)の出力が止まります。

### <エディット・バッファについて>

Program Playモード、Combination Playモードでプログラムやコンビネーションを選択すると、本体内のエディット・バッファに、そのプログラムやコンビネーションのデータが呼び出されます。

そして、Program Editモード、Combination Editモードでパラメータを変更すると、エディット・バッファ内のデータが変更されます。

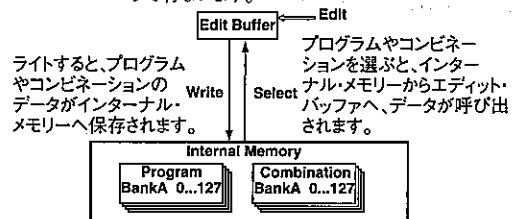
この変更したデータを保存するためには、ライトしなければなりません。

ライトすると、エディット・バッファ内のデータは、ライト先に指定したバンクのプログラム・ナンバーやコンビネーション・ナンバーに書き込まれます。

ライトせずに他のプログラムやコンビネーションを選択すると、エディット・バッファに新たなプログラムやコンビネーションのデータが呼び出され、変更したデータは失われてしまいます。

#### Programモード、Combinationモードの場合

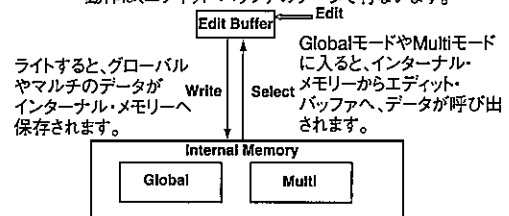
エディットは、エディット・バッファのデータに対して行なわれます。また、プログラムやコンビネーションの演奏は、エディット・バッファ上のデータで行ないます。



MultiモードやGlobalモードの場合は自動的にインターナル・メモリーから設定が呼び出されますが、設定を変更したときにライトを行なわないと電源オフでインターナル・メモリーは元の設定に戻ってしまいます。

#### GlobalモードやMultiモードの場合

エディットは、エディット・バッファのデータに対して行なわれます。また、グローバルやマルチでの動作は、エディット・バッファのデータで行ないます。



### COMPARE

プログラムやコンビネーションのエディット中に、音色をエディット前の音色と比較するのに便利な機能です。

エディット中に[COMPARE]キーを押すと、LEDが点灯しライトされている設定が呼び出されます。

もう一度押すと、LEDは消灯し元のエディット中の設定に戻ります。

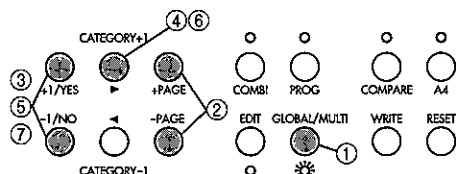
⚠ コンペア中の設定をエディットしてしまうと、その時点でLEDは消灯して、そちらがエディット中の設定となります。そのため、もう一度押しても[COMPARE]キーを押す前の設定には戻りません。

## 10.出荷時の設定に戻すには

工場出荷時の音色をプリロード・データをいい、本機の音色や設定を出荷時の状態に戻すことをプリロード・データをロードするといいます。

ここでは、コンビネーションのプリロード・データをロードしてみましよう。

ロードを行なう前に、あらかじめGlobalモードの「Page9: Memory Protect.」の設定をOFFにしておいてください。



### ① [GLOBAL/MULTI]キーを押します。

Globalモードに入ります ([GLOBAL/MULTI]キーのLEDが点滅します)。

### ② [PAGE+]または[PAGE-]キーを押し、「Page10: Preload」を選択します。



### ③ [+1/YES]または[-1/NO]キーを押し、ロード先を選択します。ここでは、「Comb」を選びます。

### ④ [▶]キーを押し、右のロード範囲を点滅させます。

### ⑤ [+1/YES]または[-1/NO]キーを押し、ロード範囲を選択します。ここでは、「All」を選択します。

### ⑥ [▶]キーを押し、「OK」を点滅させます。

### ⑦ [+1/YES]キーを押します。

LCD画面に「Are you sure OK?」と表示されます。

### ⑧ もう一度[+1/YES]キーを押します。

LCD画面に「Now loading data」と表示され、プリロード・データがロードされます。ロードが完了するまでに数秒かかります。

## 11.エディットのしかた

TR-Rackのエディットは、以下の手順で行ないます。

### ① エディットを行ないたいモードに入ります。

- ・ Program Editモード: [PROG]キーを押し、[EDIT]キーを押します。
- ・ Combination Editモード: [COMB]キーを押し、[EDIT]キーを押します。
- ・ Multiモード: [GLOBAL/MULTI]キーを押します (LEDを点灯させます)。
- ・ Globalモード: [GLOBAL/MULTI]キーを押します (LEDを点滅させます)。

### ② [+PAGE]または[-PAGE]キーを押し、ページを選択します。

- ・ [EDIT]キーを押しながら[+PAGE]または[-PAGE]キーを押すと、ページを大きく切り替えられます。

### ③ カーソル[◀]または[▶]を押し、変更したいパラメータの値を選択し(点滅させ)ます。

### ④ [+1/YES]または[-1/NO]キーを押し、パラメータの値を変更します。

- ・ [+1/YES]キーを押すと、値が1ずつ増えます。
- ・ [-1/NO]キーを押すと、値が1ずつ減ります。
- ・ [+1/YES]キーを押しながら[▶]キーを押すと、値が10ずつ増えます。
- ・ [-1/NO]キーを押しながら[◀]キーを押すと、値が10ずつ減ります。
- ・ [+1/YES]キーを押しながら[+PAGE]キーを押すと、値が100ずつ増えます。
- ・ [-1/NO]キーを押しながら[-PAGE]キーを押すと、値が100ずつ減ります。



# STEP 3

## 1. Program Playモード

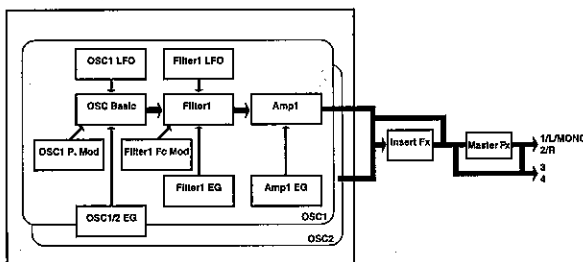
TR-Rackで基本となる音色をプログラムといいます。

そのプログラムを演奏するモードがProgram Playモードです。プログラムはコンビネーションやマルチで使用されます。このモードでは、プログラムを選択して演奏を行ないます。

### プログラムの構成

プログラムは、数多くのパラメータによって構成されています。Program Editモードでは、この数多くのパラメータをまとめて、簡単にエディットできるようになっています。

プログラムは、インサート・エフェクトとマスター・エフェクトを通り、出力されます。



### 音の要素

音とは、音の高さ、音色、音量という3つの要素から成り立っています。

TR-Rackでは、プログラムを構成するオシレータ、フィルター、アンプリファイアがそれぞれの要素に当てはまります。つまり、音の高さを変えたいならオシレータを、音色を変えたいならフィルターを、音量を変えたいならアンプリファイアの設定を変更します。

#### オシレータ:音の高さの設定

TR-Rackのオシレータは2系統あり、音の基本となる波形(マルチサンプルといいます)を使用しています。

その波形の音の高さを設定します。

このマルチサンプルにはピアノのような楽器の波形はもちろん、シンセサイザー特有の波形もあります。

また、このマルチサンプルには、さまざまな倍音や周波数成分が含まれていて、それが「ピアノらしさ」や「ギターらしさ」といった音の性格を決めています。

音の高さは「Page1: Octave」で設定します。

TR-Rackでは、オシレータ用のパラメータはOctaveのみです(各プログラムで使用するマルチサンプルは選択できません)。

#### フィルター:音色(音の明暗等)の設定

同じ管楽器でも、ホルンは丸い音で、トランペットは鋭い音で響くように音色は楽器によって異なります。

シンセサイザーで楽器の音を作り出すとき、それらしい雰囲気を出すためにはこの調節は重要になります。

また、Combination Playモードで複数のプログラムを重ねたり、バンドの演奏で他の楽器と一緒に鳴らしたりすると、あるプログラムの音だけ沈んでしまって聞こえないことや、目立ちすぎることがあります。

このようなときは、アンサンブルを考えながら、音色や音量を調整します。

TR-Rackでは、オシレータで選択したマルチサンプルの周波数成分をフィルターで削ったり、強調したりすることで音色を調整します。

TR-Rackでは、フィルター用の数多くのパラメータをFilter Fc、Filter EG Int、Resonanceの3つで簡単にエディットできます。これらは、Program Editモードの「Page3: Filter Fc」、「Page4: Filter EG Int」、「Page5: Resonance」で設定します。

#### アンプリファイア:音量(音量変化)の設定

プログラムの音量の設定で重要なのは、全体の音量の設定ではなく、音量の時間的な変化です。

ピアノやオルガンを弾く(ノート・オン)とすぐに音が大きくなり、バイオリンのようなストリングス系の楽器を弓で弾くと、ゆっくりと音が大きくなります。

このように、鍵盤を押してから音が大きくなるまでの時間を音の立ち上がりといいます。

また、ピアノが鍵盤を押し続けていても徐々に音量が下がっていきますが、オルガンでは、鍵盤を押している間は音量が一定です。

このように、音量の変化は楽器によって異なり、音量が下がることを音の減衰といいます。

ピアノの鍵盤から手をはなす(ノート・オフ)と、残響音があり、これを音の余韻といいます。

TR-Rackでは、アンプリファイア用の数多くのパラメータをAttack Time、Decay Time、Release Timeの3つで、簡単にエディットできます。

これらは、Program Editモードの「Page6: Attack Time」、「Page7: Decay Time」、「Page8: Release Time」で設定します。

## 2. Program Editモード

このモードでは、Program Playモードで選んだプログラムに対し、音の高さ、音色、音量、エフェクト等を設定します。設定を変更したプログラムを本体に保存する場合は、ライトを行ってください(※本誌P.10)。

### プログラムのエディットについて

プログラムを構成しているパラメータを変更することを、プログラムのエディットといいます。

TR-RackのProgram Editモードでは、本体に内蔵されている数多くのパラメータから重要なものを厳選し、多彩な音色を簡単にエディットできるようになっています。

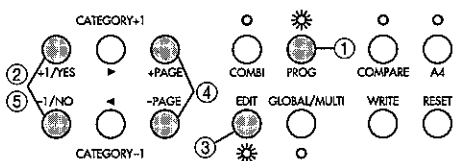
TR-Rack本体からは内蔵しているすべてのパラメータをエディットすることはできませんが、TRINITYをお持ちの方やコンピュータを用いてTR-Rack用のエディターソフトでMIDIやTO HOST端子を介して、すべてのパラメータをエディットすることができます。

### プログラムのエディット

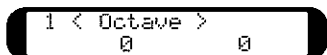
プログラムには、オシレータを1つ使用するシングル・オシレータ、ドラム・オシレータとオシレータを2つ使用するダブル・オシレータがあります。シングル/ドラム・オシレータのときは、LCD画面下段にパラメータが1つ、ダブル・オシレータのときはパラメータが2つ表示されます。

#### 音の高さのエディット

「Page1: Octave」で設定します。



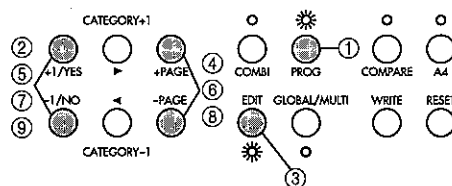
- ① [PROG]キーを押し、Program Playモードへ入ります。  
[PROG]キーのLEDが点灯します。
- ② [+1/YES]または[-1/NO]キーを押し、エディットするプログラムを選択します。
- ③ [EDIT]キーを押し、Program Editモードへ入ります。  
[EDIT]キーのLEDが点灯します。
- ④ [+PAGE]または[-PAGE]キーを押し、Page1のOctaveを選択します。



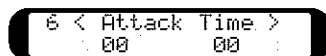
- ⑤ [+1/YES]または[-1/NO]キーを押し、設定を変更します。  
ダブル・オシレータの場合、カーソル[◀]または[▶]キーを押し、設定するパラメータを選び(点滅させ)ます  
十の値にするとオクターブ単位で音程が高くなり、一の値にすると低くなります。

#### アンプリファイアのエディット

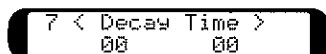
「Page6: Attack Time」、「Page7: Decay Time」、「Page8: Release Time」で設定します。



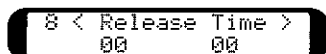
- ① [PROG]キーを押し、Program Playモードへ入ります。  
[PROG]キーのLEDが点灯します。
- ② [+1/YES]または[-1/NO]キーを押し、エディットするプログラムを選択します。
- ③ [EDIT]キーを押し、Program Editモードへ入ります。  
[EDIT]キーのLEDが点灯します。
- ④ [+PAGE]または[-PAGE]キーを押し、Page6のAttack Timeを選択します。



- ⑤ [+1/YES]または[-1/NO]キーを押し、設定を変更します。  
ダブル・オシレータの場合、カーソル[◀]または[▶]キーを押し、設定するパラメータを選び(点滅させ)ます。  
十の値にすると音の立ち上がりが遅く(緩やかに)なり、一の値にすると音の立ち上がりが速くなります。
- ⑥ [+PAGE]キーを押し、Page7のDecay Timeを選択します。



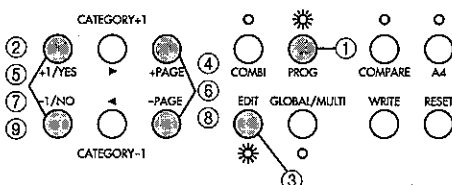
- ⑦ [+1/YES]または[-1/NO]キーを押し、設定を変更します。  
十の値にすると音の減衰が遅く(緩やかに)なり、一の値にすると音の減衰が速くなります。
- ⑧ [+PAGE]キーを押し、Page8のRelease Timeを選択します。



- ⑨ [+1/YES]または[-1/NO]キーを押し、設定を変更します。  
十の値にすると音の余韻が長く(緩やかに)なり、一の値にすると音の余韻が短くなります。

#### フィルターのエディット

「Page3: Filter Fc」、「Page4: Filter EG Int」、「Page5: Resonance」で設定します。



- ① [PROG]キーを押し、Program Playモードへ入ります。  
[PROG]キーのLEDが点灯します。
- ② [+1/YES]または[-1/NO]キーを押し、エディットするプログラムを選択します。
- ③ [EDIT]キーを押し、Program Editモードへ入ります。  
[EDIT]キーのLEDが点灯します。
- ④ [+PAGE]または[-PAGE]キーを押し、Page3のFilter Fcを選択します。

3 < Filter Fc >  
00 00

- ⑤ [+1/YES]または[-1/NO]キーを押し、設定を変更します。  
ダブル・オシレータの場合、カーソル[◀]または[▶]キーを押し、設定するパラメータを選び(点滅させ)ます。  
十の値にすると明るい音になり、一の値にすると暗い音になります。
- ⑥ [+PAGE]キーを押し、Page4のFilter EG Intを選択します。

4 < Filter EG Int >  
00 00

- ⑦ [+1/YES]または[-1/NO]キーを押し、設定を変更します。  
十の値にするとFilter EGの効果が深くなり、一の値にするとFilter EGの効果が浅くなります。
- ⑧ [+PAGE]キーを押し、Page5のResonanceを選択します。

5 < Resonance >  
+20 -20

- ⑨ [+1/YES]または[-1/NO]キーを押し、設定を変更します。  
十の値にすると効果が強くなり、一の値にすると効果が弱くなります。

## その他のパラメータについて

ここで説明した設定以外にもProgram EditモードではVelocity、After Touch等のリアルタイムでコントロールする音色の変化の具合を設定するパラメータやエフェクトの設定があります。

その他のパラメータもエディットして、それぞれの効果を試してみてください。

## 演奏法

TR-Rackでは、接続されている外部MIDI機器からのコントロール・メッセージにより演奏に豊かな表情をつけることができます。

## オルタネート・モジュレーション

Alternate Modulation(オルタネート・モジュレーション)は、音を変調するモジュレーションです。

AMS(Alternate Modulation Source)は、オルタネート・モジュレーションを制御するソースです。

ジョイスティックやリボン・コントローラなど実際に操作するものや、MIDIの受信データ、EG、LFOなどのモジュレータがAMSとして使用できます。

TR-Rackでは、モジュレータにさらにモジュレーションをかけ

ることができることから、このようなモジュレーションをオルタネート・モジュレーションといいます。

TR-Rackには、14種のオルタネート・モジュレーションがあります。

各プログラムにはオルタネート・モジュレーションが設定されていますが、本機のみで設定を変更することはできません。

## ダイナミック・モジュレーション

エフェクトのDRY(エフェクトをかけない音)とWET(エフェクトをかけた音)のバランスをエフェクト・バランスといいます。

TR-Rackでは、エフェクト・バランスやモジュレーションのスピードなど、特定のエフェクト・パラメータを演奏中にコントロールでき、演奏表現にかなりの効果を与えることができます。このように、エフェクト・パラメータをコントロールする機能を、ダイナミック・モジュレーションといいます。

Src(ダイナミック・モジュレーション・ソース)は、エフェクトのダイナミック・モジュレーションをコントロールする元です。接続したMIDIキーボードのジョイスティック、リボン・コントローラ等のコントローラをSrc(ソース)で選択します。

また、ダイナミック・モジュレーションの効果(スピードや深さ)をAmt(アマウント)で設定します。

詳しくは、別冊のEffect Guide P.9「ダイナミック・モジュレーションについて」を参照してください。

## 3. Combination Play モード

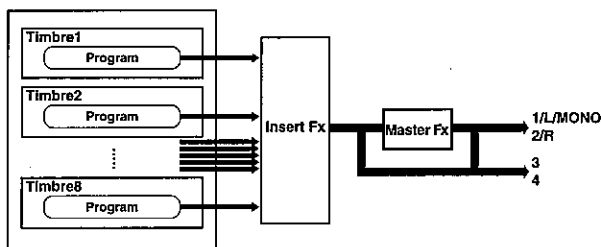
### コンビネーションの構成

複数のプログラムを同時に発音させるときにコンビネーションを使います。

コンビネーションでは、8個あるティンバーにプログラムを割り当てます。

このコンビネーションを演奏するモードがCombination Playモードです。

コンビネーションで組まれた複数は、インサート・エフェクトとマスター・エフェクトを通り、出力されます。



### ティンバーの発音方法(レイヤー、スプリット、ベロシティスイッチ)

コンビネーションにおいて、ティンバーに割り当てられたプログラムの発音方法にはレイヤー、スプリット、ベロシティスイッチという3タイプがあります。

TR-RackにMIDIキーボードを接続します。

MIDIキーボードのMIDIチャンネルと使用するすべてのティンバーのMIDIチャンネルを同じチャンネルにします。

ティンバーのMIDIチャンネルは、Combination Editモードの「Page3: Channel」で設定します。

#### レイヤー

鍵盤を弾いて、複数のプログラムを同時に発音させることができます。この設定をレイヤーといいます。

複数のプログラムを同時に(重ねて)演奏できます。



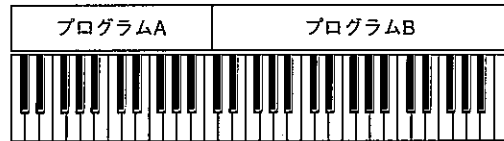
レイヤータイプではないコンビネーションでも、Combination Editモードの「Page9: Key Zone Top」～「Page12: KZ Btm Slope」で、異なるティンバー間で発音する鍵盤範囲が重なり合うように設定すると、レイヤータイプのコンビネーションが作れます。

設定方法については、本誌P.17「キー・ゾーンの設定」を参照してください。

#### スプリット

鍵盤の弾く位置によって、異なるプログラムを発音し分ける設定をスプリットといいます。

音域(キーの位置)によって異なるプログラムを弾き分けることができます。



スプリットタイプではないコンビネーションでも、Combination Editモードの「Page9: Key Zone Top」～「Page12: KZ Btm Slope」で、異なるティンバーどうしで、発音する鍵盤範囲が重ならないように設定すると、スプリットタイプのコンビネーションが作れます。

設定方法については、本誌P.17「キー・ゾーンの設定」を参照してください。

#### ベロシティスイッチ

ベロシティ(鍵盤を弾く強さ)で、異なるプログラムを発音し分ける設定をベロシティスイッチといいます。

ベロシティスイッチではないコンビネーションでも、Combination Editモードの「Page13: Vel Zone Top」～「Page16: VZ Btm Slope」で、異なるティンバーどうしで、発音するベロシティの範囲が重ならないように設定すると、ベロシティスイッチタイプのコンビネーションが作れます。

設定方法については、本誌P.18「ベロシティ・ゾーンの設定」を参照してください。

キー・タッチの強さ(ベロシティ)で異なるプログラムを弾き分けることができます。



TR-Rackでは、最大8つのティンバーでそれぞれ異なるプログラムを使用し各ゾーンの設定ができるので、複数のタイプを組み合わせ、さらに複雑な設定も行なえます。

TR-Rackでは、キー・ゾーンやベロシティ・ゾーンの設定にスロープ(徐々に音量が小さくなっていく)も設定できます。キー・ゾーンやベロシティ・ゾーンのスロープを設定すると、スプリットをキーボード・クロスフェードに、ベロシティをベロシティ・クロスフェードにすることができます。



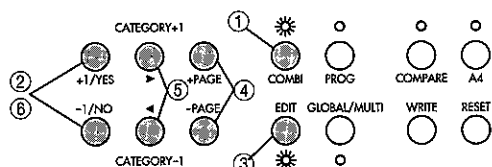
## 4. Combination Edit モード

Combination Playモードで選んだコンビネーションのティンバーごとにプログラムの選択、パン、ボリュームの調整、キー・ゾーン、ペロシティー・ゾーンによる発音域等を設定します。また、そのコンビネーションのコンビネーション・ネームやエフェクトも設定します。設定したコンビネーションを本体に保存する場合は、ライトを行ってください(※本誌P.10)

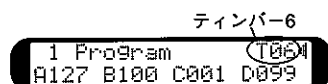
### コンビネーション・エディット

コンビネーションでは、8個あるティンバーそれぞれにプログラムを割り当て、それを発音させます。プログラムを選び直して、音色を変えたり、プログラムを発音させる鍵盤の範囲を決めたり、いくつかのプログラムを同時に発音させたり、等のコンビネーションの音色を変更することを「コンビネーションのエディット」といいます。

### コンビネーション・エディットの方法



- ① フロント・パネルの[COMBI]キーを押しCombination Playモードへ入ります。  
[COMBI]キーの下のLEDが点灯します。
- ② [+1/YES]または[-1/NO]キーを押し、エディットするコンビネーションを選択します。  
コンビネーションが切り替わります。
- ③ [EDIT]キーを押し、Combination Editモードへ入ります。  
[EDIT]キーの上のLEDが点灯します。
- ④ [+PAGE]または[-PAGE]キーを押し、ページを選択します。  
[+PAGE]キーを押すと1ページ進み、[-PAGE]キーを押すと1ページ戻ります。
- ⑤ カーソル[◀]または[▶]キーを押し、設定するパラメータの値へ移動させます。



Combination EditモードやMultiモードのティンバーやトラックごとの設定を行なう画面では[▶]キーや[◀]キーでティンバーやトラックを選ぶこととなります。そのとき選ばれているティンバーやトラックがLCD画面の右上に表示されます。上の例ではティンバー6のパラメータを選んでいることを表しています。LCD画面上段の右端に「▶」が表示されているときは、現在表示されている画面の右側にも別の画面が存在していることを意味しています。カーソル[▶]キーを押すと移動できます。

- ⑥ [+1/YES]または[-1/NO]キーを押し、パラメータの値を設定します。  
カーソルで選択したパラメータの値が変わります。  
[+1/YES]キーを押すとパラメータの値が増加し、[-1/NO]キーを押すとパラメータの値が減少します。

### ティンバーで使用するプログラムの選択

ティンバーごとに割り当てるプログラムを選択します。プログラムは512種類の中から選択することができます。プログラムは、「Page1: Program」で選択します。

### 音量の設定

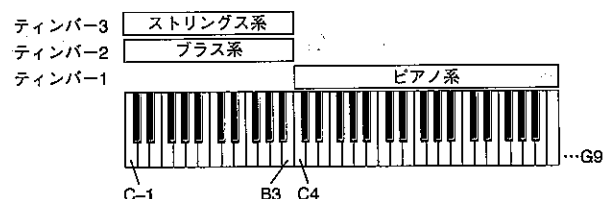
ティンバーごとに割り当てたプログラムの音量を設定します。ティンバーの音量バランスは音色を作る上で大切な設定です。この設定だけでコンビネーションの印象が大きく変わります。音量は、「Page2: Level」で設定します。

### MIDIチャンネルの設定

ティンバーごとのMIDI受信チャンネルを設定します。接続したMIDIキーボードなどのMIDI送信チャンネルに合わせます。MIDIチャンネルは、「Page3: Channel」で設定します。

### キー・ゾーンの設定

コンビネーションでは、MIDIキーボードで弾く鍵盤の位置によって発音させるプログラムを切り替えることができます(ティンバーごとに発音する音域を設定できます)。発音する音域のことを、キー・ゾーンといいます。キー・ゾーンを設定したティンバーを組み合わせることで、レイヤー・タイプやスプリット・タイプのコンビネーションが作れます。各ティンバーのキー・ゾーンは、Top KeyとBottom Keyでそれぞれの上限と下限を設定します。下の図は、ティンバー1~3のキー・ゾーンを、レイヤーとスプリット・タイプに設定して組み合わせたコンビネーション音域を表しています。ティンバー2と3はレイヤー・タイプになっています。ティンバー1とティンバー2,3はノート・ナンバーのB3とC4の間で切り替わるスプリット・タイプになっています。



上のようなコンビネーションを作るには、まず、「Page 1: Program」でティンバー1~3で使用するプログラムを選択します。ティンバー1にピアノ系のプログラム、ティンバー2にブラス系のプログラム、ティンバー3にストリングス系のプログラムを割り当てます。このとき使用するティンバーのMIDIチャンネルを合わせてください。ティンバーのMIDIチャンネルは、「Page3: Channel」で設定します。

次のようにキー・ゾーンを設定します。

- ① [Page9: Key Zone Top]でティンバー1のTop KeyをG9に、ティンバー2,3のTop KeyをB3に設定します。

```
9 Key Zone Top T03▶
G9 B3 B3 C-1
```

- ② [Page10: Key Zone Btm]でティンバー1のBottom KeyをC4に、ティンバー2,3のBottom KeyをC-1に設定します。

```
10 Key Zone Btm T03▶
C4 C-1 C-1 C-1
```

このとき、ティンバー1と2,3のキー・ゾーンの一部が重なる(レイヤー)ように設定し、「Page11: KZ Top Slope」と「Page12: KZ Btm Slope」で、重なった部分の音量が変化するように設定すると、鍵盤のB3とC4付近の音域で音色がゆるやかに切り替わります。

コンビネーションでは、ベロシティの強弱によって発音する範囲をティンバーごとに設定できます。

発音するベロシティの範囲をベロシティ・ゾーンといいます。各ティンバーのベロシティ・ゾーンは、Top VelとBottom Velでそれぞれの上限と下限を設定します。

下の図は、ティンバー1,2のベロシティ・ゾーンを設定し、ベロシティによって音が切り替わるベロシティ・スイッチ・タイプのコンビネーションを表しています。



上のようなコンビネーションを作るには、まず、Combination Editモードの「Page1: Program」でティンバー1,2で使用するプログラムを選択します。

ティンバー1にプラス系のプログラム、ティンバー2にストリングス系のプログラムを割り当てます。

このとき、使用するティンバーのMIDIチャンネルを合わせます。ティンバーのMIDIチャンネルは、Page3: Channelで設定します。

次のようにベロシティ・ゾーンを設定します。

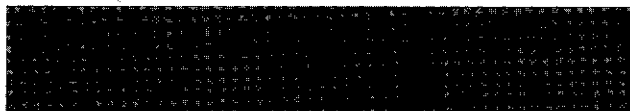
- ① ティンバー1のTop Velを127に、ティンバー2のTop Velを63に設定します。

```
13 Vel Zone Top T02▶
127 63 127 127
```

- ② ティンバー1のBottom Velを64に、ティンバー2のBottom Velを1に設定します。

```
14 Vel Zone Btm T02▶
64 1 08 15
```

このとき、ティンバー1と2のベロシティ・ゾーンの一部が重なるように設定し、「Page15: VZ Top Slope」と「Page16: VZ Btm Slope」で、重なった部分の音量が変化するように設定をすると、63と64付近のベロシティで音色がゆるやかに切り替わります。



ここで説明した設定以外にも、Combination Editモードではティンバーごとにピッチが変更でき(トランスポーズ、デチューン)、パン、センドの量を調整することができます。また、ティンバーごとに異なるMIDIチャンネルを設定して複数のMIDIチャンネルで発音させることができます。

## 5. Multiモード

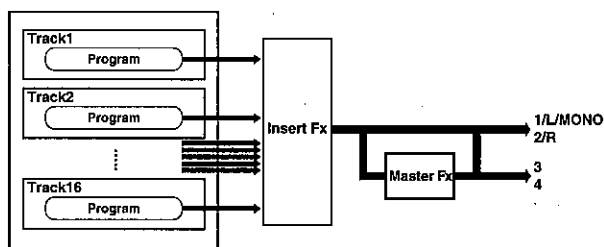
Multiモードでは、外部に接続したコンピュータ/シーケンサによるソングのプレイ(再生)を行ないます。

### TR-Rackのマルチについて

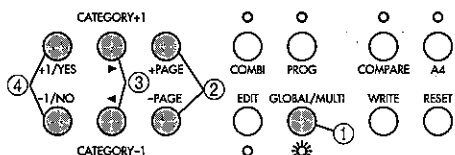
- TR-Rackのマルチには演奏データ再生用のトラックが16トラックあり、各トラックにプログラムを割り当てて、演奏させます。
- ・トラックごとにMIDI受信チャンネルが設定できます。
  - ・コンピネーションの設定がコピーできます。

### マルチの構成

16個のトラックとインサート・エフェクト(最大8個まで使用可)、マスター・エフェクト(2個)で構成されています。



### 音色の選択とパラメータの設定



- ① フロント・パネルの[GLOBAL/MULTI]キーを押し、Multiモードへ入ります。  
[GLOBAL/MULTI]キーの上のLEDが点灯します。
- ② [+PAGE]または[-PAGE]キーを押し、設定するページを選択します。
- ③ [◀]または[▶]キーを押し、設定するパラメータの値へ移動します。
- ④ [+1/YES]または[-1/NO]キーを押し、パラメータの値を変更します。  
変更した設定を保存するときは、ライトをしてください(※本誌P.10)。  
Page1~18では、各トラックの設定をします。  
Page19~37では、エフェクトやマルチ全体の設定をします。  
Multiモードの各設定についてはParameter編を参照してください。

## 6. エフェクト

エフェクトは、音にさまざまな効果をつけたり音場を表現するためのものです。

TR-Rackには、マルチ・デジタル・エフェクトが搭載されており、エフェクトのタイプによって多彩な効果が得られます。ダイナミック・モジュレーションにより、演奏中に任意のモジュレーション・ソースでエフェクト・パラメータがコントロールできます。

エフェクトには、インサート・エフェクトとマスター・エフェクトの2種類があり、インサート・エフェクトには100個、マスター・エフェクトには14個のエフェクト・タイプがあります。

### <インサート・エフェクトとマスター・エフェクト>

インサート・エフェクト(IFX)は音作りを行なうもので、オーバー・ドライブ、イコライザ、ワウ、コンプレッサなどのエフェクトが選べます。

マスター・エフェクト(MFX)は演奏される場所の響き(空間)を作り出すもので、アンサンブル、ディレイ、リバースなどのエフェクトが選べます。

### <エフェクト・ルーティング>

TR-Rackでは、エフェクトを並列(パラレル)、または、直列(シリアル)に接続できます。このエフェクトの接続を、エフェクト・ルーティングといいます。

接続できるエフェクトの数は、モードによって異なります。

### インサート・エフェクト

### <エフェクト・サイズ>

インサート・エフェクトには、エフェクト・サイズという考え方を採用していてエフェクト・サイズが1,2,4のエフェクトがあります。

エフェクト・サイズによって、選択できるエフェクトのタイプが異なります(別冊のEffect Guideには、エフェクトがサイズごとに載っているので参考にしてください)。

使用できるエフェクト・サイズの合計数は、モードごとに決められています。

### <エフェクト・グルーピング>

コンピネーションやマルチでは、1つのインサート・エフェクトを複数のティンバーまたはトラックで使用することができます。

複数のティンバー(またはトラック)を1つのグループにして、インサート・エフェクトを共有することを、エフェクト・グルーピングといいます。そして、共有するインサート・エフェクト設定を行なうティンバー(またはトラック)を、グルーピング元といいます。

### プログラム

シングル・オシレータ、ダブル・オシレータのプログラムでは、エフェクトが直列に接続されます。

ドラム・オシレータのプログラムでは直列または並列に接続できます。

エフェクトの設定は他のプログラム、コンピネーション、マルチからコピーすることができます。

## コンビネーション

プログラムごとの設定は無効になり、新たにコンビネーション用のインサート・エフェクトを設定します。

シングル・オシレータ、ダブル・オシレータのプログラムを使用したティンバーでは、エフェクトが直列に接続されます。

ドラム・オシレータのプログラムを使用するティンバーでは、直列または並列に接続できます。

エフェクトの設定はプログラム、他のコンビネーション、マルチからコピーすることができます。

## マルチ

プログラムごとの設定は無効になり、新たにマルチ用のインサート・エフェクトを設定します。

シングル・オシレータ、ダブル・オシレータのプログラムを使用するトラックでは、エフェクトが直列に接続されます。

ドラム・オシレータのプログラムを使用するトラックでは、直列または並列に接続できます。

エフェクトの設定はプログラム、コンビネーションからコピーすることができます。

## マスター・エフェクト

モジュレーション系エフェクトMFX1と、リバーブ/ディレイ系エフェクトMFX2(どちらもモノラル・イン、ステレオ・アウト)が、並列または直列で接続できます。

## マスターEQ

アウトプット端子1/L/MONO、2/Rから出力される信号にLow Gain、Hi Gainでイコライザーをかけることができます。Low Gainでは低域を、Hi Gainでは高域を調整します。

## エフェクトのバイパス

TR-Rackのバイパス音を聴きたいときはインサート・エフェクト、マスターエフェクト、マスターEQを次のように設定してください。

### インサート・エフェクト

インサート・エフェクトをOFFにするか、インサート・エフェクトのサイズを0にしてください。

ただし、サイズ1のインサート・エフェクトをOFFにするとバイパス音はモノラルになります。

### マスター・エフェクト

マスター・エフェクトをOFFにしてください。

### マスターEQ

Low Gain、Hi Gainを0に設定してください。

## センド/リターンの調整

TR-Rackでは、マスター・エフェクトへのセンド・レベル、リターン・レベルでエフェクトのかかり具合を調整します。

センド・レベルとリターン・レベルは次の各ページで設定します。

## プログラム

### センドの設定

インサート・エフェクトがONの場合、Program Editモードの「Page24: IFX Send MFX」で設定します。

インサート・エフェクトがOFFの場合は、Program Editモードの「Page14~15: Master FX Send」で設定します。

### リターンの設定

Program Editモードの「Page29: Master FX Return」で設定します。

## コンビネーション

### センドの設定

インサート・エフェクトがONの場合、Combination Editモードの「Page36: IFX Send」で設定します。

インサート・エフェクトがOFFの場合は、Combination Editモードの「Page25~26: MFX Send」で設定します。

### リターンの設定

Combination Editモードの「Page41: Master FX Return」で設定します。

## マルチ

### センドの設定

インサート・エフェクトがONの場合、「Page27: IFX Send」で設定します。

インサート・エフェクトがOFFの場合は、「Page16~17: MFX Send」で設定します。

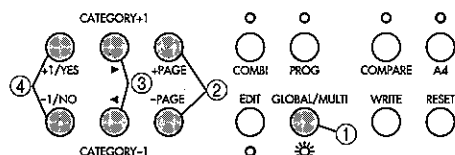
### リターンの設定

「Page41: Master FX Return」で設定します。

## 7. Globalモード

GlobalモードではTR-Rack全体に関するパラメータの設定を行ないます。

### 画面の選択とパラメータの設定



- ① フロントパネルの[GLOBAL/MULTI]キーを押し、Globalモードへ入ります。  
[GLOBAL/MULTI]キーのLEDが点滅します。
- ② [+PAGE]または[-PAGE]キーを押し、設定するページを選択します。
- ③ カーソル[◀]または[▶]キーを押し、設定するパラメータの値へ移動します。
- ④ [+1/YES]または[-1/NO]キーを押し、パラメータの値を変更します。  
変更した設定を保存するときは、ライトを行なってください(※本誌P.10)。

Globalモードの各パラメータについてはParameter編を参照してください。

## 8. データの保存

### 本体へのライト

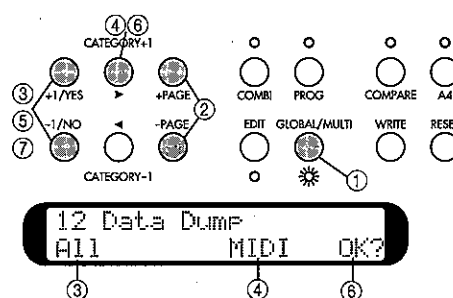
プログラム、コンビネーション、マルチ、グローバルの各設定はライトすると、本機内のメモリに記憶されるので電源をOFFにしても消えずに残ります。

ライトの方法は、本誌P.10を参照してください。

### MIDIデータ・ダンプ

本体内の各設定データをMIDIエクスクループ・データとして送信し、接続したMIDIデータファイラーなどのMIDI機器へデータを保存します。

ここでは、プログラム、コンビネーション、マルチ、グローバルのデータをデータ・ダンプ(送信)してみましょう。



あらかじめMIDIのダンプ・データが受信できる機器(データファイラ、コンピュータ、TRINITYシリーズ等)を接続しておきます。

- ① [GLOBAL/MULTI]キーを押し、Globalモードへ入ります。  
[GLOBAL/MULTI]キーのLEDが点滅します。
- ② [+PAGE]または[-PAGE]キーでPage 12のData Dumpを選択します。
- ③ [+1/YES]または[-1/NO]キーを押し、送信するダンプ・データを選択します。  
ここでは、Allを選びます。  
Allを選択すると右隣の表示(送信する領域)は消えます。
- ④ [▶]キーを押し、送信に使用する端子へ移動します。
- ⑤ [+1/YES]または[-1/NO]キーを押し、送信する端子を選択します。  
ダンプ・データを送信する機器がMIDI端子に接続されている場合はMIDIを、TO HOST端子に接続されている場合は、PC IFを選択します。
- ⑥ [▶]キーを1回押し、“OK”へ移動させます。
- ⑦ [+1/YES]キーを押します。  
“Are you sure OK?”と表示されるので、もう一度[+1/YES]キーを押します。  
本体に保存されているプログラム、コンビネーション、ドラムキット、マルチ、グローバルの設定データをダンプします。

⚠ データ・ダンプの実行中は、本機のキーにふれないでください。

## 9. MIDIアプリケーション

### MIDIチャンネルについて

テレビと同様で、送信側のチャンネルに受信側のチャンネルを合わせると、そのチャンネルのデータが受信できます。ただし、チャンネルの扱いは、各モードによって異なります。

- Program Playモードのときは、グローバルMIDIチャンネルに一致するデータを受信します。
- Combination Playモードのときは、コンビネーションの選択、マスター・エフェクトのコントロール、エクスクルーシブ・データはグローバルMIDIチャンネルで受信します。  
また、受信したデータでティンバーをコントロール(プログラムの選択、発音、ボリューム等)するときは、ティンバーごとに設定するMIDIチャンネル(Combination Editモードの「Page3: Channel」で設定)を使用します。
- Multiモードのときは、マスター・エフェクトのコントロール、エクスクルーシブ・データは、グローバルMIDIチャンネルで受信します。  
また、受信したMIDIデータでトラックをコントロール(プログラムの選択、発音、ボリューム等)するときは、トラックごとに設定するMIDIチャンネル(「Page3: Channel」で設定)を使用します。  
グローバルMIDIチャンネルとは、マスター・エフェクト、エクスクルーシブ・データ等、本体に1つだけのメッセージを送受信するときに使用されるチャンネルです。TR-Rackでは、Globalモードの「Page3: MIDI Channel」で設定します。

### ノート・オン/オフについて

接続したMIDIキーボードの鍵盤を押したとき、その鍵盤位置(ノート・ナンバー)、押した強さ(ベロシティ)をノート・オン [9n, kk, vv] (n: チャンネル, kk: ノート・ナンバー, vv: ベロシティ)メッセージで送信します(離れたときは、ノート・オフ [8n, kk, vv] メッセージを送信します。ただし、ノート・オフ時のベロシティを送受信する機種はほとんどありません)。

- Program Playモードのときは、グローバルMIDIチャンネルに一致するノート・オン/オフを受信。
- Combination Playモードのときは、各ティンバーに設定されているチャンネルに一致するノート・オン/オフを受信。
- Multiモードのときは、各トラックで設定したチャンネルに一致するノート・オン/オフを受信。

### プログラム・バンクを替える

音色(プログラム)を切り替えるときは、プログラム・チェンジ [Cn, pp] (pp: プログラム・ナンバーで、128音色まで選択できる)メッセージを使います。

また、バンク・セレクト [Bn, 00, mm] (コントロール・チェンジ #00)、[Bn, 20, bb] (コントロール・チェンジ #32) (mm: バンク・ナンバーの上位, bb: バンク・ナンバーの低位、両方合わせて16384バンクを選択できる)を併用すると、他のバンクのプログラムに切り替えることができます。

バンク・セレクト	CC #0=0	CC #32=0	バンクA
バンク・セレクト	CC #0=0	CC #32=1	バンクB
バンク・セレクト	CC #0=0	CC #32=2	バンクC
バンク・セレクト	CC #0=0	CC #32=3	バンクD

例えば、MIDIチャンネル2でプログラムB00に切り替えるときは [B1, 00, 00]、[B1, 20, 01]、[C1, 00]を送信します。

バンク・セレクトを受信すると、プログラムのバンクが切り替わります。しかし、それを受信しただけではプログラムやバンクは切り替わらず、次にプログラム・チェンジを受信した時点ではじめて替わります。

Program Playモードでは、グローバルMIDIチャンネルに一致するプログラム・チェンジを受信すると、プログラムが切り替わります。

コンビネーションのティンバーごとのプログラムや、マルチのトラックごとのプログラムの選択は、それぞれで設定されているチャンネルに一致するプログラム・チェンジやバンク・セレクトで行ないます。

コンビネーションではティンバーごとに、マルチではトラックごとに、受信をする/しないの設定ができます。

プログラム・チェンジ全般の受信する/しないの設定は、Globalモードの「Page7: Prog Change」で設定します。さらに受信データでコンビネーションを選択する/しないの設定や、バンク・セレクトを受信する/しないの設定もできます。

Globalモード「Page7: Prog Change」のC (Enable Combination Change)を「DIS」にすると、Combination Playモードのとき、受信したプログラム・チェンジがグローバルMIDIチャンネルに一致していても、コンビネーションは切り替わりません。

Globalモード「Page7: Prog Change」のB (Enable Bank Select)を「DIS」にすると、バンク・セレクトを無視します。これにより外部からコントロールする場合、外部機器とTR-Rackとのバンク・セレクトの扱い方が異なるときの不必要なバンクの切り替えが起こらないようにさせることができます。

### コンビネーションを替える

受信データによるコンビネーションの選択には、プログラムの選択と同様に、プログラム・チェンジやバンク・セレクトを使用します。

Combination Playモードのときは、グローバルMIDIチャンネルに一致するプログラム・チェンジやバンク・セレクトを受信すると、コンビネーションが切り替わります。

また、それ以外のチャンネルでもチャンネルが一致するティンバーがあれば、そのティンバーのプログラムが切り替わります。

### サステイン・ペダルについて

MIDIキーボードに接続したサステイン・ペダルを操作すると、通常ホールド [Bn, 40, vv] (コントロール・チェンジ #64) (vvはオンのとき127 [7FH] オフのとき00)メッセージを送信します。このメッセージを受信した場合、vvが63 [3FH] 以下のときはオフ、64 [40H] 以上のときはオンになります。

コンビネーション、マルチでは、ティンバー、トラックごとにこのメッセージ受信する/しないの設定ができます。

## アフタータッチをかける

接続したMIDIキーボードの鍵盤を押し込むと、**チャンネル・アフター** [Dn, vv] (vvは値)のメッセージを送信する機種が多数あります。  
このメッセージを受信すると、アフタータッチ効果がかかります。

GlobalモードのMIDIフィルターで、アフタータッチ全般の受信する/しないの設定ができ、コンビネーションやマルチでは、さらにティンバー、トラックごとに設定できます。

アフタータッチには、もう1種類**ポリキー・プレッシャー** [An, kk, vv] (kk: ノート・ナンバー, vv: 値)という、鍵盤ごとに独立したアフタータッチがかけられるメッセージがあります。このメッセージは、オルタネート・モジュレーションのソースとして使用できます。

## ピッチベンドをかける

接続したMIDIキーボードのジョイスティックをX方向(左右)に操作すると、**ピッチ・ベンダー・チェンジ** [En, bb, mm] (bb: 値の下位, mm: 値の上位, 両方合わせて16384段階で値を表し, 8192 [bb, mm=00H, 40H] のときがセンター値となる)メッセージを送信します。

このメッセージを受信すると、ピッチベンド効果がかかります。また、ピッチベンドのかかる範囲(効果の深さ)を、MIDIで設定することもできます(本誌P.25「ピッチベンドの可変範囲を変える」参照)。

## 音量を変える

**ボリューム** [Bn, 07, vv] (コントロール・チェンジ#07) (vv: 値)メッセージを受信すると音量が変わります。しかし、**TR-Rack**の音量は、**ボリューム・メッセージの値と、エクスプレッション** [Bn, 0B, vv] (コントロール・チェンジ#11) (vv: 値)の値をかけあわせて設定されるので、ボリューム・メッセージを調整しても音量が大きくなるときや音がでないときは、値(vv)が127等のエクスプレッション・メッセージを送ります。または本体の[RESET]キーを押します。

Multiモードで[RESET]キーを押すと、エクスプレッションの値は最大値(127)にリセットされます。

接続したコンピュータ等のシーケンサでは、ソングのトラックごとに音量のコントロールができます。トラックの設定データ(スタート時の他のトラックとのバランス調整用)の音量には**ボリューム・メッセージ**を使い、演奏データ(曲が進むにつれて変化するには**エクスプレッション・メッセージ**を使います。演奏データに**ボリューム・メッセージ**を使用すると、そのトラックは意図しなかった音量になることがあります。

ユニバーサル・エクスクルーシブの**マスター・ボリューム**(本誌P.25「システム・エクスクルーシブについて」参照)を用いると、ティンバーやトラック相互の音量バランスを崩さないで全体の音量が調整できます。

## ビブラート(オシレーターLFO)をかける

接続したMIDIキーボード等のジョイスティックを+Y方向(向こう側)に傾けると**モジュレーション1デプス** [Bn, 01, vv] (コントロール・チェンジ#01) (vv: 値)のメッセージを送信します。このメッセージを受信すると、ビブラート効果がかかります。

## ワウワウ(フィルターLFO)をかける

接続したMIDIキーボード等のジョイスティックを-Y方向(手前)に傾けると、**モジュレーション2デプス** [Bn, 02, vv] (コントロール・チェンジ#02) (vv: 値)を送信します。このメッセージを受信すると、ワウワウ効果がかかります。ただし、このメッセージの使用法はメーカーによって異なります(プレス・コントロール等)。

## 音の定位(パンポット)を変える

**TR-Rack**のオシレーター、ティンバー、トラックそれぞれの出力先は、L:Rのパンポット、センド1、センド2で調整します。特にティンバーとトラックのパンポットは、**MIDIのパンポット** [Bn, 0A, vv] (コントロール・チェンジ#10) (vv: 値, 00でL, 64でセンター, 127でR)メッセージで調整できます。なお、パンポットの設定がOFF、PRGのときは、このメッセージを受信しません。

発音中にこのメッセージを受信しても、そのときは変化せず、次に新しく発音する音から定位が変わります。

## マスター・エフェクトへのセンド■(センド1,2)を変える

**TR-Rack**のオシレーター、ティンバー、トラックそれぞれの出力先は、L:Rのパンポット、センド1、センド2で調整します。特に、ティンバーとトラックのセンド1は、**エフェクト3レベル** [Bn, 5B, vv] (コントロール・チェンジ#93) (vv: 値)、センド2は、**エフェクト1レベル** [Bn, 5D, vv] (コントロール・チェンジ#91) (vv: 値)の各メッセージで調整できます。なお、センド1,2の設定がPRGのときは、これらのメッセージを受信しません。

これらのメッセージは、単にエフェクト・レベルの調整用としては限りません。

発音中にメッセージを受信しても、そのときは変化せず、次に新しく発音する音からエフェクトへのセンド量が変わります。

## エフェクトのON/OFFを行なう

プログラム、コンビネーション、マルチの設定とは別に、Globalモードの「Page5: Insert FX Off」、「Page6: Master FX Off」で、インサート・エフェクト、マスター・エフェクト1,2をON/OFFさせることができます。また、**エフェクト2・レベル** [Bn, 5C, vv] (コントロール・チェンジ#92) (vv: 値, オフのとき00, オンのとき127) (インサート・エフェクト用)や**エフェクト4・レベル** [Bn, 5E, vv] (コントロール・チェンジ#94) (マスター・エフェクト1用)、**エフェクト5レベル** [Bn, 5F, vv] (コントロール・チェンジ#95) (マスター・エフェクト2用)のメッセージでもON/OFFできます。

これらのメッセージは、単にエフェクト・レベルの調整用としてしか規定されていないので、他機種と接続したとき、同じ動作をするとは限りません。

メッセージの受信は、グローバルMIDIチャンネルで行なわれます。その値vvが00でオフ、01以上でオンになります。

なお、インサート・エフェクトのこれらのコントロールは、エフェクトがONに設定されているものに対して有効です(OFFに設定されているエフェクトはONにすることはできません)。

### エフェクトのダイナミック・モジュレーションについて

ダイナミック・モジュレーション・ソースを選んで、そのソースによって、エフェクトがコントロールできます。

例えば、MIDIアフタータッチでコントロールするときは、あらかじめそのエフェクトのダイナミック・モジュレーション・ソース(Src)にAfterT(アフタータッチ)を選んでおきます。そうするとMIDIアフタータッチを受信したときダイナミック・モジュレーションがかかります。

モジュレーション・ソースのFX1 # 12は、**エフェクト・コントロール1 [Bn, 0C, vv]**(コントロール・チェンジ# 12)メッセージに相当します(エフェクト・コントロール1と同様の使い方ができます)。

インサート・エフェクトは

Program Playモードでは、Global MIDIチャンネルでコントロールします。

Combination Playモードでは、各ティンバーのMIDIチャンネルでコントロールします。

Multiモードでは、各トラックのMIDIチャンネルでコントロールします。

### ブライツネスを調整する

**ブライツネス [Bn, 4A, vv]**(コントロール・チェンジ# 74)(vv: 値)メッセージを受信すると音色が変わります。vvが64 [40H]のとき、トーンの変化はなく、それより下の値では暗く、上の値では明るくなります。

このメッセージで、フィルターのカットオフ周波数(Program Editモードの「Page3: Filter Fc.」)をエディットできます。

ただし、このメッセージは、比較的最近用いられるようになったので、対応していない機種があります。

### 音の立ち上がり(アタック・タイム)を変える

**アタック・タイム [Bn, 49, vv]**(コントロール・チェンジ# 73)(vv: 値)のメッセージを受信すると、アタック・タイムが変わります。vvが64 [40H]のときはアタック・タイムの変化はなく、それより下の値では速く、上の値では遅くなります(ただし、スタート・レベルが0以外のときは、立ち上がりにならないことがあります)。

このメッセージで、アンプEGのアタック・タイム(Program Editモードの「Page6: Attack Time.」)をエディットできます。

ただし、このメッセージは、比較的最近用いられるようになったので、対応していない機種があります。

### 音の立ち下がり(リリース・タイム)を変える

**リリース・タイム [Bn, 48, vv]**(コントロール・チェンジ# 72)(vv: 値)のメッセージを受信すると、リリース・タイムが変わります。vvが64 [40H]のとき、リリース・タイムの変化はなく、それより下の値では速く、上の値では遅くなります。

このメッセージでアンプEG、フィルターEGのリリース・タイム(Program Editモードの「Page8: Release Time.」)をエディットできます。

ただし、このメッセージは、比較的最近用いられるようになったので、対応していない機種があります。

### RPNでのエディットについて

RPN(Registered Parameter No.)は、楽器メーカー等の枠を超えて共通の設定をするためのメッセージです。そして、楽器メーカー等で自由に使用できるメッセージには、NRPN(Non RPN)とエクスクルーシブがあります。

エディットの手順は次の通りです。

- ① **RPN(LSB) [Bn, 64, rr]** と **RPN(MSB) [Bn, 65, mm]**(コントロール・チェンジ# 100と101)(rr, mm: パラメータNo. の下位と上位)でパラメータを選びます。
- ② **データ・エンタリー(MSB) [Bn, 06, mm]** と **データ・エンタリー(LSB) [Bn, 26, vv]**(コントロール・チェンジ# 06と38)(mm, vv: 値の上位と下位、両方で16384段階)で値を設定します。
- ③ **データ・インクリメント [Bn, 60, 00]**(コントロール・チェンジ# 96, 値は00に固定)や**データ・デクリメント [Bn, 61, 00]**(コントロール・チェンジ# 97, 値は00に固定)では、値を1つずつ増減させることができます。

**TR-Rack**では、以下の項目(チューニングをする、トランスポートをする、ピッチベンドの変動範囲を変える)の3種類のRPNを受信します。

### チューニングをする

Multiモードでは、トラックごとにRPNでディチューンが調整できます(トラックごとのMIDIチャンネルを使用)。また、それ以外のモードでは、本来Globalモードの「Page1: Master Tune」で設定するマスターチューンが調整できます(グローバルMIDIチャンネル使用)。

手順は次の通りです。

- ① RPNで01を選びます。  
**[Bn, 64, 01, 65, 00]**(コントロール・チェンジ# 100に01、# 101に00)を受信します。
- ② データ・エンタリーで値を設定します。  
**[Bn, 06, mm, 26, vv]**(コントロール・チェンジ# 06と38)で設定しますが、値が8192 [mm, vv=40H, 00H]のときはセンター、0のときは-100セント、16383 [mm, vv=7FH, 7FH]のときは+100セントとなります。



## トランスポーズをする

Multiモードでは、RPNでトラックごとにトランスポーズが設定できます(トラックごとのMIDIチャンネルを使用)。

手順は次の通りです。

- ①RPNで02を選びます。

[Bn, 64, 02, 65, 00](コントロール・チェンジ# 100に02、# 101に00)を受信します。

- ②データ・エントリーで値を設定します。ただし、上位しか使用しません。

[Bn, 06, mm](コントロール・チェンジ#06)で設定しますが、値が64(40H)のときはセンター、52(34H)のとき-12半音、76(4CH)のときは+12半音となります。

## ピッチベンドの可変範囲を変える

Multiモードでは、RPNでトラックごとにピッチベンド・レンジが調整できます(トラックごとのMIDIチャンネルを使用)。

手順は次の通りです。

- ①RPNで00を選びます。

[Bn, 64, 00, 65, 00](コントロール・チェンジ# 100に00、# 101に00)を受信します。

- ②データ・エントリーで値を設定します。ただし、通常は上位しか使用しません。

[Bn, 06, mm](コントロール・チェンジ#06)で設定しますが、値が00(mm=00)のとき00、1536(mm=12=0CH)のときは+12半音(1オクターブ)となります。TR-Rackでは、マイナスの値が設定できますが、RPNで設定できるのはプラスの値のみです。

## リセット・オール・コントローラーズ

何らかのトラブルで発音した音が止まらないときは、通常、[RESET]キーを押したり、モードを切り替えたりして音を止めます。また、MIDIケーブルを抜くという方法もあります。

MIDIでは、アクティブ・センシング [FE] というメッセージが定期的に送信され、それを受信した機器は、外部にMIDI送信機器があることを認知します。そして、一定時間内に再びMIDIメッセージが受信されなければ、回路が切断されたと判断し、MIDIで発音していた音を消したり、コントローラの値をリセットします。

## あるチャンネルのすべての音を消すとき

オール・ノート・オフ [Bn, 7B, 00](コントロール・チェンジ# 123に00)メッセージを受信すると、そのチャンネルで発音中のすべての音がノート・オフ(鍵盤を離れたのと同じ)します。

オール・サウンド・オフ [Bn, 78, 00](コントロール・チェンジ# 120に00)メッセージを受信すると、そのチャンネルで発音中のすべての音が消えます。オール・ノート・オフでは音の余韻が残るのに対し、オール・サウンド・オフではただちに消えます。ただし、これらのメッセージは緊急のとき等に使用するものであって、演奏中などに使用するものではありません。

## あるチャンネルのすべてのコントローラをリセットするとき

リセット・オール・コントローラーズ [Bn, 79, 00](コントロール・チェンジ# 121に00)メッセージを受信すると、そのチャンネルで動作中のすべてのコントローラの値がリセットされません。

## システム・エクスクルージブについて

使用法はメーカーによって自由なため、このメッセージは、主に機種独特のパラメータを持つ音色データやエディット・データの送受信に使用されます。

TR-RackやTRINITYシリーズのシステム・エクスクルージブ・メッセージのフォーマットは、[F0, 42, 3n, 3B, ff, …, F7](n: グローバルMIDIチャンネル, ff: ファンクション・コード(メッセージの種類))です。

ただし、システム・エクスクルージブのなかには、公的に使用法が統一されているものもあり、これをユニバーサル・システム・エクスクルージブといいます。

TR-Rackは、数種類のユニバーサル・システム・エクスクルージブのうち次の4つに対応しています。

- **インクワイアリー・メッセージ・リクエスト** [F0, 7E, nn, 06, 01, F7] メッセージを受信すると、「私はコルグのTR-Rackで、システムのバージョンは……です」という内容のインクワイアリー・メッセージ [F0, 7E, nn, 06, 02, (9バイト), F7] を送信します。
- **マスター・ボリューム** [F0, 7F, nn, 04, 01, vv, mm, F7](vv: 値の下位, mm: 値の上位、両方合わせて16384段階)メッセージによって、コンビネーションのティンバー相互の音量バランスや、マルチのトラック相互の音量のバランスを崩さないで、全体の音量が調整できます。
- **マスター・バランス** [F0, 7F, nn, 04, 02, vv, mm, F7](vv: 値の下位, mm: 値の上位、両方合わせて16384段階、8192で初期位置、値が小さくなるほど左寄りになる)によってコンビネーションのティンバー相互の定位や、マルチのトラック相互の定位の関係を崩さないで全体の定位が調整できます。

## 音色等の設定データを送る(データ・ダンプについて)

プログラム、コンビネーション、ドラムキット、マルチ、グローバルの各データは、MIDIエクスクルージブ・メッセージとして送信できます。MIDIエクスクルージブ・メッセージを外部機器に送信することを、データ・ダンプといいます。

お手持ちのTRINITYヘデータ・ダンプすると、TRINITYの音色や設定を変えることができます。

データ・ダンプの方法には次の2種類があります。

- Globalモードの「Page 12: Data Dump」でデータダンプを実行すると、インターナル・メモリーの各種データが送信されます。
- Globalモードの「Page 8: MIDI Filter」のExclusiveが「ENA」になっているときに、データ・ダンプに対するダンプ・リクエストを受信することによっても送信します。

この送受信には、グローバルMIDIチャンネルが使用されます。

## MIDIエクスクルーシブの各データ・ダンプ

MIDIエクスクルーシブの各データ・ダンプを利用すると、全プログラムや1プログラム単位でのプログラムを書き替えることができます。また、パラメータ・チェンジ、ドラムキット・パラメータ・チェンジを使用すると、次のようにパラメータを個別にエディットできます。

パラメータ・チェンジを使用すると

- Program Editモードでは、プログラム・ネームを除く各内部パラメータをエディット。
- Combination Editモードでは、コンビネーション・ネームを除くパラメータをエディット。

特にプログラムは、MIDIエクスクルーシブを介してのみ、すべてのパラメータがエディットできます。

ドラムキット・パラメータ・チェンジを使用するとドラムキットのエディットが行なえます(本機のみではドラムキットのエディットはできません)。

## 外部機器と接続してTR-Rackをマルチ・ティンバー パートで演奏する

外部機器と接続してTR-Rackをマルチ・ティンバーで演奏させるには、次のような方法があります。

- 外部機器からのMIDIメッセージで、コンビネーションを発音させます(8マルチ・ティンバー)。ただし、全体的な設定(プログラムやレベルからエフェクトまで)の切り替えは、プログラム・チェンジによるコンビネーションの切り替えで行ないます。
- 外部機器からのMIDIメッセージで、マルチを発音させます(16マルチ・ティンバー音源として使用)。

## 10.こんなことがしたいときは

### チューニングをしたいときは

Globalモードの「Page1: Master Tune」で設定します。

-50(427.47Hz)から+50(452.89Hz)の範囲をセント単位で設定できます。

### 音程を変えたいときは

Globalモード「Page2: Key Transpose」で音程を設定します。

±1オクターブの範囲を半音単位で設定できます。

### ペロシ、音量を変えたいときは

MIDIキーボードを弾いたときの強弱に対し、音量や音色の変化が思ったように出せないときは、ペロシティの感度を設定を変えてみてください。

ペロシティの感度はGlobalモード「Page4: Curve」のVelで設定します。

ペロシティ・カーブの値は1から8まであり、4が標準です。値が小さいときは鍵盤を強く弾かないと音が変わりません。値が大きいときは、弱く弾いても音が大きく変化します。

## Combination PlayモードでProgram Change Bank Selectを受信すると、コンビネーションを切り替えたいときは

### コンビネーションを切り替えたいときは

- ① Globalモード「Page7: Prog Change」のC(Enable Combination Change)を“ENA”に設定しておきます。
- ② グローバルMIDIチャンネルのProgram ChangeやBank Selectを受信すると、コンビネーションが切り替ります。

### ティンバーのプログラムを切り替えたいときは

- ① Combination Editモードの「Page3: Channel」でティンバーのMIDIチャンネルを設定します。
- ② Combination Editモードの「Page17: Prog Change」でプログラムを切り替えたいティンバーの設定を“ENA”にします。

Combination Editモードの「Page17: Prog Change」では、ティンバーごとにProgram ChangeやBank Selectを受信する/しないの設定ができます。

- ③ Combination Editモードの「Page3: Channel」でティンバーに設定してあるMIDIチャンネルのProgram ChangeやBank Selectを受信すると、そのティンバーのプログラムが切り替ります。

バンクの切り替えをしなくなければ、Globalモード「Page7: Prog Change」のB(Enable Bank Change)を“DIS”にしておいてください。Bank Selectを受信しても、バンクは切り替わりません。

## グローバルMIDIチャンネルでティンバーのプログラムを切り替えたいときは

- ① Combination Editモードの「Page3: Channel」でティンバーのMIDIチャンネルをグローバルMIDIチャンネル“G”に設定します。
- ② Combination Editモードの「Page17: Prog Change」でプログラムを代わりえたいティンバーの設定を“ENA”にします
- ③ Globalモード「Page7: Prog Change」のC(Enable Combination Change)を“DIS”に設定しておきます。
- ④ グローバルMIDIチャンネルのProgram ChangeやBank Selectを受信すると、のティンバーのプログラムが切り替わります。



コンビネーションでは、複数のプログラムをさまざまな組合せで鳴らすことができます。この場合は「レイヤー」の設定にします。

Combination Editモードで設定します。

- ① 「Page1: Program」で鳴らしたいプログラムをティンバーへ割当てます。
- ② 「Page2: Level」でティンバーの音量を設定します。
- ③ 「Page3: Channel」でティンバーのMIDIチャンネルを同じ値に設定します。  
必要に応じてPage24~26でPan、Send1、Send2を調整します。
- ④ 「Page9: Key Zone Top」でティンバーのTop Keyを“G9”に設定します。
- ⑤ 「Page10: Key Zone Btm」でティンバーのBottom Keyを“C-1”に設定します。
- ⑥ 「Page11: KZ Top Slope」でティンバーのTop Slopeを“0”に設定します。
- ⑦ 「Page12: KZ Btm Slope」でティンバーのBottom Slopeを“0”に設定します。  
必要に応じて、ほかの設定を行いません。
- ⑧ 組み合わせるプログラムの数に応じて同様の設定を行いません。
- ⑨ 鍵盤を弾くと、複数のプログラムが同時に発音します。



コンビネーションの「スプリット」の設定をします。

Combination Editモードで設定します。

前述の「複数のプログラムを同時に鳴らしたいとき」の1~3の手順を同様に行なってください。

- ① 「Page9: Key Zone Top」と「Page10: Key Zone Btm」で弾き分けたい鍵盤位置(それぞれのプログラムを発音させる上限と下限)を設定します。
- ② 「Page11: KZ Top Slope」と「Page12: KZ Btm Slope」の設定はそれぞれ“0”にします。
- ③ 鍵盤を弾くと、設定した鍵盤位置でプログラムが別々に発音します。



プログラムやコンビネーションをエディットした後で出荷時の設定に戻したいときは、Globalモードの「Page10: Preload」で出荷データをロードします。ロードできるデータはプログラム、コンビネーションの他にグローバル、マルチ、ドラムキットの設定があります。

ロードを実行してしまうと、もとのデータは消えてしまいます。もとのデータを残しておきたい場合は、MIDIデータ・ファイラ等の外部機器に保存してください。



MIDIエクスクルーシブのデータ・ダンプで、各音色データや設定を送受信できます。

やりとりできるデータは、プログラム、コンビネーション、マルチ、グローバル・パラメータの一部、ドラムキットでそれぞれの全データを一度に送受信したり、バンク単位、1個単位で送受信することができます。

ダンプ・データの送信は、Globalモードの「Page12: Data Dump」で行ないます。

「Page12: Data Dump」の画面にいるときは、「Page8: MIDI Filter」のExclusive(エクスクルーシブ・データを送受信する/しない)の設定が、どのように設定されていてもダンプ・データを送受信します。なお、ダンプ・データの送受信にはグローバルMIDIチャンネルが使用されます。

## 11.故障かな?と思ったら

### POWERスイッチを押しても電源が入らない!

- 電源コードがコンセントに接続されていますか?

### 音が出ない!

- アンプ、ミキサー、ヘッドホンが正しく端子に接続されていますか?
- アンプ、ミキサーの電源がONで正しく設定されていますか?
- ボリュームが上がっていますか?
- MIDIケーブルが正しく接続されていますか?
- Program Playモードのとき、外部機器が送信するデータのMIDIチャンネルとグローバルMIDIチャンネルが合っていますか?
- Combination Playモードのとき、外部機器が送信するデータのMIDIチャンネルとティンバーのMIDIチャンネルが合っていますか?

### MIDIでコントロールできない!

- MIDIケーブルが正しく接続されていますか?
- 送信機器と同じチャンネルでMIDIデータを受信するように設定されていますか?
- Globalモードの「Page8: MIDI Filter」の各設定が“ENA”になっていますか?

### ライトできない!

- Globalモードの「Page9: Memory Protect」の各設定が“ON”になっていますか?

### ドラム・オシレータのプログラムで、鍵盤を弾いても思ったようにドラムの音がでない!

- Globalモードの「Page2: Key Transpose」の設定が“+00”になっていますか?
- Program Editモードの「Page1: Octave」の設定が“+0”になっていますか?

### MIDIプログラム・チェンジでプログラムを選ぶことができない!

- Globalモードの「Page7: Prog Change」のPの設定が“ENA”になっていますか?

### Combination Playモードのとき、MIDIプログラム・チェンジでコンビネーションを選ぶことができない!

- Globalモードの「Page7: Prog Change」のCの設定が“ENA”になっていますか?

### Combination Playモードで特定の鍵盤の音がでない!

- スプリット(音域の割当て)の都合で、音の出ない音域のノートデータをTR-Rackに送っていませんか?

### TO-HOST端子で接続されているコンピュータでコントロールできない!

- ケーブルが正しく接続されていますか?
- Globalモードの「Page16: P/C Select」が正しく設定されていますか?

---

---

# Parameter 編

---

---



# 1. Program Playモード

プログラムを選択します。

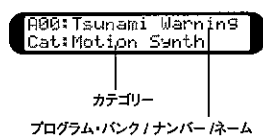
TR-Rackで選択できるプログラム数は、512(バンクA、B、C、Dの0～127)です。

出荷時のプログラム名のリストは、Voice Name Listに掲載してあります。



ここでは、プログラムの選択を行いません。

LCD画面の上段には選ばれているプログラムが、下段にはそのカテゴリーが表示されます。



## Program Bank/Program No./Program Name

[A00...D127]

[+1/YES]キーと[-1/NO]キーで、プログラムを選択します。また、カテゴリーによる選択も行なえます。(Basic編 P.8)

外部MIDI機器からのプログラム・チェンジを使ったプログラムの選択法については、詳しくは本誌の P.22「MIDIアプリケーション」を参照してください。

**MIDI** Program PlayモードのMIDIデータは、すべてGlobalモードの「Page3: MIDI Channel」で設定したグローバルMIDIチャンネルで受信されます。

ボリューム(CC#7)を受信すると、音量レベルの設定値が変わります。

## 2. Program Editモード

プログラムの設定を行ないます。

TR-Rackのプログラム・エディットは音色を1から作るものではなく、プリロードされているプログラムの音色を元に、簡単にエディットできるようにしたものです(本機内部では、TRINITYと同じパラメータを持っていますが、その中の主だった複数のパラメータをまとめてエディットします)。

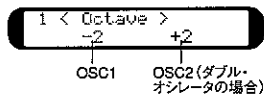
Page1~15、32、33では、プログラムや、使用するオシレータの基本的な設定を行ないます。

Page16~31では、プログラムで使用するエフェクト(インサート・エフェクト、マスター・エフェクト)の設定を行ないます。

Page1~15では、LCD画面の下段に、プログラムで使用するオシレータの設定が表示されます。

シングル/ドラム・オシレータを使用するプログラムでは、LCD画面下段の左側にパラメータの値が表示されます。

ダブル・オシレータを使用するプログラムでは、さらにLCD画面下段の右側にもパラメータの値が表示されます。

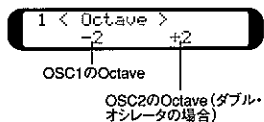


上図のようにLCD画面の上段に表示されるパラメータ名が<>で囲まれているパラメータでは、ライトされている設定値を相対的に変更します。ここでの変更は元の値に対し、どれくらい変更するかというものです。元の値がすでに最大値(または最小値)付近に設定されているときは、パラメータの値を大幅に変更しても、音色が変わらないことがあります。

変更した設定を保存するときは、ライトしてください。ライトせずに他のプログラムを選んだり、電源をOFFにしてしまうと、変更前の設定に戻ってしまいます。

### Page1: Octave

基準ピッチをオクターブ単位で設定します。



#### Octave [-3...+3]

＋の値にすると、オクターブ単位でピッチが上がります。

－の値にすると、オクターブ単位でピッチ下がります。

0にすると、元の設定に戻ります。

### Page2: Amp Level

オシレータの音量を設定します。



#### Amp Level [-99...+99]

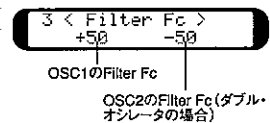
＋の値にすると、音量が大きくなります。

－の値にすると、音量が小さくなります。

0にすると、元の設定に戻ります。

### Page3: Filter Fc

カットオフ周波数を設定します。



#### Filter Fc [-99...+99]

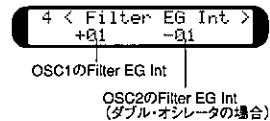
＋の値にすると、音色が明るくなります。

－の値にすると、音色が暗くなります。

0にすると、元の設定に戻ります。

### Page4: Filter EG Int

フィルターのカットオフ周波数をフィルター・EGで変調するときの深さを調整します。



#### Filter EG Int [-99...+99]

＋の値にすると、EGによる効果がより深くかかります。

－の値にすると、EGによる効果が浅くなります。

0にすると、元の設定に戻ります。

### Page5: Resonance

Filter Fcで設定した周波数付近の倍音成分が強調され、音にクセを付けます。



#### Resonance [-99...+99]

＋の値にすると、効果がより強くなります。

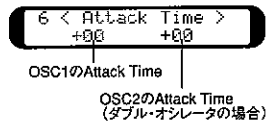
－の値にすると、効果が弱くなります。

0にすると、元の設定に戻ります。



## Page6: Attack Time

鍵盤をONしてからアタック・レベルに達するまでの時間を設定します(次図参照)。



### Attack Time [-99...+99]

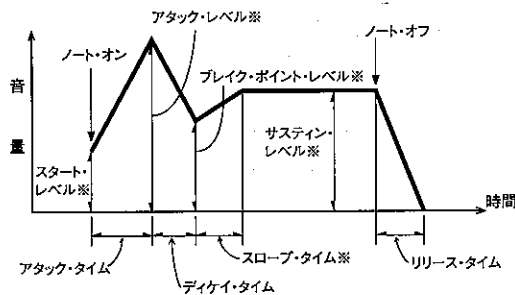
＋の値にすると、音の立ち上がりが遅くなります。

－の値にすると、音の立ち上がりが速くなります。

0にすると、元の設定に戻ります。

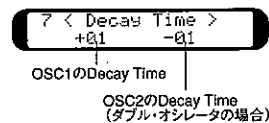
このパラメータの値を変更するとAmp EGの複数のパラメータの値(スタート・レベル等)が連動して変更されます。詳しくは本誌のP.72「付録-2. TR-Rackの内部パラメータ」を参照してください。

※:製品本機では、直接エディットすることはできません



## Page7: Decay Time

アタック・レベルからブレイク・ポイント・レベルに達するまでの時間を設定します(Page6: Attack Timeの図参照)。



### Decay Time [-99...+99]

＋の値にすると、ブレイク・ポイントに達するまでの時間が長くなります。

－の値にすると、ブレイク・ポイントに達するまでの時間が短くなります。

0にすると、元の設定に戻ります。

このパラメータを変更するとAmp EGとFilter EGのDecay Timeの値が連動して変更されます。詳しくは本誌のP.72「付録-2. TR-Rackの内部パラメータ」を参照してください。

## Page8: Release Time

鍵盤をOFFしてから音量が0になるまでの時間を設定します(Page6: Attack Timeの図参照)。



### Release Time [-99...+99]

＋の値にすると、音量が0になるまでの時間が長くなります。

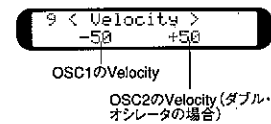
－の値にすると、音量が0になるまでの時間が短くなります。

0にすると、元の設定に戻ります。

このパラメータを変更するとAmp EGとFilter EGのRelease Timeの値が連動して変更されます。詳しくは本誌のP.72「付録-2. TR-Rackの内部パラメータ」を参照してください。

## Page9: Velocity

ノート・ベロシティ(鍵盤を弾く強さ)による音色や音量の変化の度合いを設定します。



### Velocity [-99...+99]

＋の値にすると、ベロシティによる変化の度合いが、より強くなります。

－の値にすると、ベロシティによる変化の度合いが弱くなります。

0にすると、元の設定に戻ります。

このパラメータを変更するとFilter EG, Filter Resonance, OSC EG, Amp EG等の複数のパラメータの値が連動して変更されます。詳しくは本誌のP.72「付録-2. TR-Rackの内部パラメータ」を参照してください。

## Page10: After Touch

アフター・タッチ(打鍵した状態で、さらに鍵盤を押し込む強さ)による音色や音量の変化の度合いを設定します。



### After Touch [-99...+99]

＋の値にすると、アフター・タッチによる変化の度合いが、より強くなります。

－の値にすると、アフター・タッチによる変化の度合いが弱くなります。

0にすると、元の設定に戻ります。

このパラメータを変更するとOSC LFO, Filter LFO, Filter Fc等の複数のパラメータの値が連動して変更されます。詳しくは本誌のP.72「付録-2. TR-Rackの内部パラメータ」を参照してください。

LFOによる効果の深さを設定します。

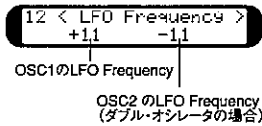


**LFO Intensity** [-99...+99]

＋の値にすると、LFOによる効果が深くかかります。  
 ーの値にすると、LFOによる効果が浅くなります。  
 0にすると、元の設定に戻ります。

このパラメータを変更するとOSC、Filter Fc等の複数のパラメータの値が連動して変更されます。詳しくは本誌のP.72「付録ー2. TR-Rackの内部パラメータ」を参照してください。

LFOの周波数を設定します。



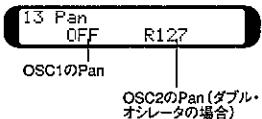
**LFO Frequency** [-99...+99]

＋の値にすると、LFOの周期が速くなります。  
 ーの値にすると、LFOの周期が遅くなります。  
 0にすると、元の設定に戻ります。

このパラメータを変更するとOSC LFO、Filter LFOの周期が連動して変更されます。詳しくは本誌のP.72「付録ー2. TR-Rackの内部パラメータ」を参照してください。

インサート・エフェクトに入力するときのパン(定位)を設定します。

インサート・エフェクトを使用しないときは、アウトプット端子1/L/MONO、2/Rへのパンの設定となります。

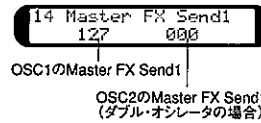


**Pan (Panpot)** [OFF, L000...C064...R127]

OFFのときは、1/L/MONO、2/Rへは出力されません。  
 L000のときLのみ出力、C064でセンター、R127ではRのみ出力となります。

⚠ インサート・エフェクトがサイズ1(モノラル入出力)の場合この設定は無効になります。

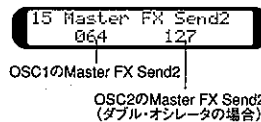
インサート・エフェクトを使用しないときのマスター・エフェクト1への入力レベルを設定します。  
 インサート・エフェクトを使用すると、この設定は無効となります。



**Master FX Send1** [0...127]

インサート・エフェクトを使用するときのマスター・エフェクト1の入力レベルは、「Page24: IFX Send MFX」のSend1で設定してください。

インサート・エフェクトを使用しないときのマスター・エフェクト2への入力レベルを設定します。  
 インサート・エフェクトを使用すると、この設定は無効となります。

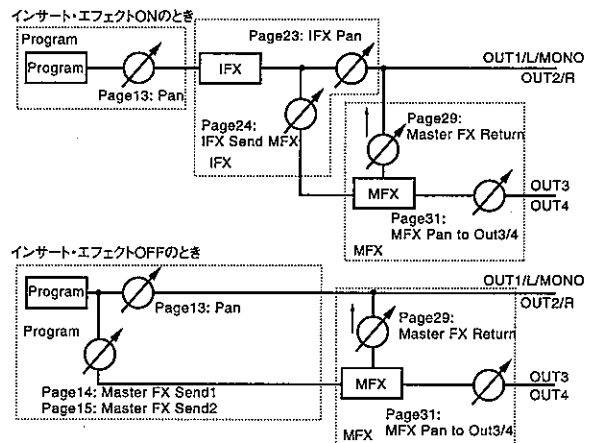


**Master FX Send2** [0...127]

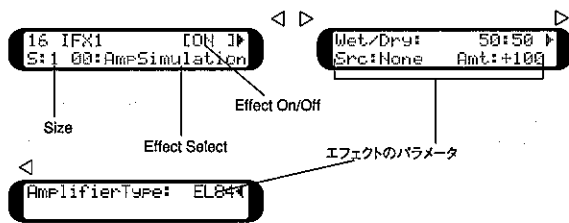
インサート・エフェクトを使用するとき、マスター・エフェクト2の入力レベルは、「Page24: IFX Send MFX」のSend2で設定してください。

プログラムで使用するインサート・エフェクトを選択し、エフェクトのパラメータを設定します。

インサート・エフェクトを使用したときと使用しないときでは信号の流れやパン、センドの調整箇所が以下のように異なります。



下の図は「Page16: IFX1(インサート・エフェクト1)」のLCD画面です。Page17~19ではIFX2~IFX4が表示されます。



ただし、「Page19: IFX4(インサート・エフェクト4)」はドラム・オシレータを使用したプログラムのおきのみ設定できます。

## S (Size) [0, 1, 2, 4]

サイズによって選択できるインサート・エフェクトのタイプが異なります。

0にするとNo Effectとなり、インサート・エフェクトは選択できません。

1~4にすると、Effect Selectでインサート・エフェクトを選択できます。

選択できるエフェクト・タイプについては別冊の**Effect Guide**を参照してください。

- IFX1~IFX3(ドラム・オシレータを使用するときはIFX1~IFX4)のサイズの合計を**4以下**に設定してください(合計が5以上の設定はできません)。

## Effect On/Off [OFF, ON]

エフェクトのOn/Offを設定します。

OFFにすると、バイパスになります。サイズ1のエフェクトが選ばれているときは、ドライ音もモノラルになります。ステレオで設定しているオシレータのパン(「Page13: Pan」)を有効にする場合は、Sizeの設定を1以外にしてください。

- MIDI** この設定とは別に、エフェクト2コントロール(CC#92)で、すべてのインサート・エフェクトをまとめてOffにすることができます。値が0のときOffになり、1~127のとき元の設定に戻ります。

## Effect Select

エフェクト・タイプを選択します。ただし、Sizeの設定によって、選択できるエフェクトが異なります。

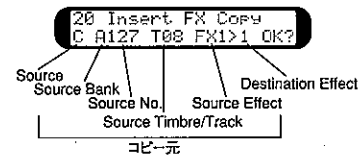
ここで選んだエフェクトのパラメータは、その右側にある画面(カーソル[▶]キーで移動)で設定します。

それぞれのエフェクトについては、別冊の**Effect Guide**を参照してください。

## Page20: IFX Copy (Copy Insert Effect)

現在選ばれているプログラムのインサート・エフェクトへ別のプログラム、コンビネーション、マルチで使用されているインサート・エフェクトの設定値をコピーします。

例えば、コンビネーションA127のティンパー8に使用されているインサート・エフェクト1を現在選ばれているプログラムのインサート・エフェクト1へコピーするときは、以下のように設定します。



## Source [P, C, M]

コピー元をプログラム(P)、コンビネーション(C)、マルチ(M)の中から選びます。

## Source Bank [A...D]

コピー元にプログラムまたはコンビネーションを選んだ場合、バンクを選びます。

## Source No. [000...127]

コピー元にプログラムを選んだ場合はプログラム・ナンバーを、コンビネーションを選んだ場合はコンビネーション・ナンバーを選びます。

## Source Timbre/Track [T01...08, T01...16]

コピー元にコンビネーションを選んだ場合はティンパーを、マルチを選んだ場合はトラックを選びます。

## Source Effect [FX1...4, ALL]

コピー元のインサート・エフェクトを選びます。

ALLにすると、使用されているすべてのインサート・エフェクトがコピーの対象となります。

コピー元とコピー先がドラム・オシレータのプログラムを使用している場合は、FX4(IFX4)が選択できます。

## Destination Effect [1...4]

コピー先のインサート・エフェクトを選びます。

コピー先のプログラムがドラム・オシレータを使用している場合、4(IFX4)が選択できます。

コピーの実行は、カーソル[▶]キーを押して「OK」を点滅させ、[+1/YES]キーを押します。

- 以下のような場合は、コピーできません。

- コピー先のエフェクト・サイズがコピー元のエフェクト・サイズより小さい場合。  
LCD画面が以下のように表示されます。

Effect Size overflow

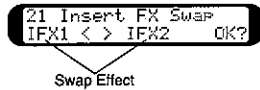
- コピー元がインサート・エフェクトを使用していない場合やエフェクト・サイズが0の場合。  
LCD画面が以下のように表示されます。

Source effect is empty

## Page 21: IFX Swap (Swap Insert Effect)

現在選ばれているプログラムのインサート・エフェクトの入れ替え(Swap)をします。

例えば、インサート・エフェクト1とインサート・エフェクト2をSwapするときは、以下のように設定します。



### Swap Effect [IFX1...4]

Swapするインサート・エフェクトを選びます。

現在選ばれているのプログラムがドラム・オシレータを使用している場合、IFX4が選択できます。

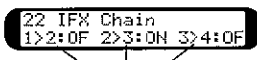
Swapの実行は、カーソル[▶]キーを押し“OK”を点滅させ、[+1/YES]キーを押します。

## Page 22: IFX Chain

各インサート・エフェクトの接続状態を設定します。

ただし、ドラム・オシレータを使用したプログラムのときのみ、設定ができます。それ以外のプログラムの場合、LCD画面(下図右側)の下段には“Invalid. DrmPGM only”と表示されます。

例えば、4つのインサート・エフェクトのうちインサート・エフェクト2と3を直列に接続するときは、以下(下図左側)のように設定します。



各インサート・エフェクトの接続設定



プログラムでドラム・オシレータが使用されていない場合

- |     |          |
|-----|----------|
| 1>2 | [OF, ON] |
| 2>3 | [OF, ON] |
| 3>4 | [OF, ON] |

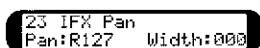
OF(OFF)にすると各エフェクトを並列に(個別に)使用します。

ONにすると各エフェクトを直列に接続します。

インサート・エフェクトの接続状態については別冊のEffect GuideのP.5「Program-Drums OSCモード」を参照してください。

## Page 23: IFX Pan (Pan/Width)

インサート・エフェクト通過後のパンとWidth(左右への広がり)を調整します。



インサート・エフェクトのPan  
インサート・エフェクトのWidth

ドラム・オシレータを使用するプログラムの場合、各インサート・エフェクト(IFX1~IFX4)個別にパンを設定します。ただし、インサート・エフェクトを直列に使用するときには最後のイン

サート・エフェクトでパンを設定します。

例えばIFX2~4を直列に使用するとIFX2,3のLCD画面には“Invalid. (Chained!)”と表示され、パンは「Page23: IFX4 Pan」で設定することになります。



4つのインサート・エフェクトのうちIFX2,3,4の3つが直列に接続されている場合

### Pan (Panpot) [OFF, 1000...C064...R127]

インサート・エフェクト通過後のパンを設定します。

### Width [0...127]

インサート・エフェクト通過後の左右の広がりを設定します。

設定した値が大きいく程、左右に広がります。

## Page 24: IFX Send MFX

マスター・エフェクト1,2へのセンド・レベルを調整します。



ドラム・オシレータを使用するプログラムの場合、各インサート・エフェクト(IFX1~IFX4)個別にセンドを設定します。ただし、インサート・エフェクトを直列に使用するときには最後のインサート・エフェクトでセンドを設定します。

例えばIFX2~4を直列に使用するとIFX2,3のLCD画面に“Invalid. (Chained!)”と表示され、センドは「Page24: IFX Send MFX」で設定することになります。



4つのインサート・エフェクトのうちIFX2,3,4の3つが直列に接続されている場合

### Send1 [0...127]

マスター・エフェクト1へのセンド・レベルを設定します。

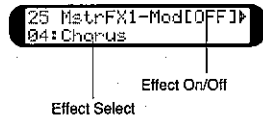
### Send2 [0...127]

マスター・エフェクト2へのセンド・レベルを設定します。

## Page25, 26: MstrFX1-Mod/MstrFX2-Rev (Effect1/Effect2 Setting)

プログラムで使用するマスター・エフェクト1(モジュレーション)、2(リバーブ)を選択し、そのパラメータを設定します。

下の図は「Page25: MstrFX1-Mod」のLCD画面です。Page26ではMstrFX2-Revが表示されます。



### Effect On/Off [ON/OFF]

マスター・エフェクトのOn/Offを設定します。

**MIDI** この設定とは別にマスター・エフェクト1はエフェクト4コントロール(CC#94)でOFFにすることができ、マスター・エフェクト2はエフェクト5コントロール(CC#95)でOFFにすることができます。どちらも、値が0のときOFFになり、1~127のときは元の設定に戻ります。このとき、グローバルMIDIチャンネルが使用されます。

### Effect Select

エフェクト・タイプを選択します。

マスター・エフェクト1にはモジュレーション系のエフェクトが選択でき、マスター・エフェクト2にはリバーブ/ディレイ系のエフェクトが選択できます。

ここで選んだエフェクトの設定は、その右側にある画面(カーソル[▶]キーで移動)で行ないます。

それぞれのエフェクトの詳細については、別冊のEffect Guideを参照してください。

## Page27: Master FX Copy (Copy Master Effect)

現在選ばれているプログラムのマスター・エフェクトへ、別のプログラム、コンビネーション、マルチのマスター・エフェクトの設定値をコピーします。

例えば、プログラムA127で使用されているマスター・エフェクト1,2をコピーするときは、以下のように設定します。



### Source [PRG, CMB, MLT]

コピー元をプログラム(PRG)、コンビネーション(CMB)、マルチ(MLT)の中から選びます。

### Source Bank [A...D]

コピー元にプログラムまたはコンビネーションを選んだ場合、バンクを選びます。

### Source No. [000...127]

コピー元にプログラムを選んだ場合はプログラム・ナンバーを、コンビネーションを選んだ場合はコンビネーション・ナンバーを選びます。

### Source Effect [MFX1, MFX2, ALL]

コピー元のマスター・エフェクトを選びます。

ALLにすると、マスター・エフェクト1,2がコピーされます。

コピーの実行は、カーソル[▶]キーを押し“OK”を点滅させ、[+1/YES]キーを押します。

## Page28: Master FX Chain

マスター・エフェクトの接続状態を設定します。

例えば、マスター・エフェクト1とマスター・エフェクト2を直列に接続するときは、以下のように設定します。



### MFX1>MFX2 [OFF, ON]

OFFにするとマスター・エフェクト1とマスター・エフェクト2が並列に使用されます。

ONにするとマスター・エフェクト1とマスター・エフェクト2が直列に接続されます(マスター・エフェクト1の出力はマスター・エフェクト2へ送られます)。

## Page29: Master FX Return

マスター・エフェクトからアウトプット端子1/L/MONO,2/Rへ送られる信号のレベルを調整します。



### MFX1 [0...127]

マスター・エフェクト1からアウトプット端子1/L/MONO,2/Rへ送られる信号のレベルを調整します。

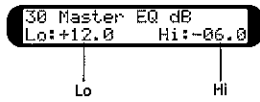
### MFX2 [0...127]

マスター・エフェクト2からアウトプット端子1/L/MONO,2/Rへ送られる信号のレベルを調整します。

アウトプット端子1/L/MONO,2/Rへは、Pan L,R経由の信号と、このMaster FX Returnでレベルを調整したマスター・エフェクト1、マスター・エフェクト2からの信号が、ミックスされて出力されます。

Page00: Master EQ dB

アウトプット端子1/L/MONO,2/Rに出力される信号の音質を調整します。



**Lo (Low Gain) [-18.0...+18.0]**

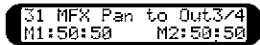
低音域のレベルを調整します。  
単位は[dB]です。

**Hi (High Gain) [-18.0...+18.0]**

高音域のレベルを調整します。  
単位は[dB]です。

Page01: MFX Pan (L/R)

アウトプット端子3,4へのパンを調整します。



マスター・エフェクト1のPan  
マスター・エフェクト2のPan

**M1 [OFF, L, 99:01...01:99, R]**

マスター・エフェクト1からアウトプット端子3,4へのパンを調整します。

**M2 [OFF, L, 99:01...01:99, R]**

マスター・エフェクト2からアウトプット端子3,4へのパンを調整します。

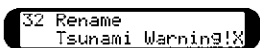
OFFにすると、アウトプット端子3,4へは出力されません。

Lにすると、アウトプット端子3だけに信号が送られます。

Rにすると、アウトプット端子4だけに信号が送られます。

Page02: Rename Program Name

プログラム名を設定(リネーム)します。



プログラム名

カーソル[◀]または[▶]キーで文字を選び、[+1/YES]または[-1/NO]キーで文字を変更します。

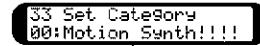
以下の文字が使用できます。

	!	"	#	\$	%	&	^	(	)	*	+	,	-	.	/
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	:	;	<	=	>	?
a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	
p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z	<		>	+	-

リネームしたプログラム名を記憶させる場合は、ライトの操作(☞Basic編 P.10)を行なってください。ライトする前に他のプログラムを選んだり、電源をOFFにすると、せっかくリネームしたプログラム名が失われてしまいます。

Page03: Set Category

そのプログラムが所属するカテゴリーを割り当てます。



カテゴリー名

**Set Category [Keyboard...Drums/Perc.]**

Program Playモードでプログラムを選択するとき、プログラムごとに割り当てておいたカテゴリーでプログラムの検索ができます。

出荷時には楽器名が登録されていますが、Globalモードの「Page14: Prog Category」でカテゴリーの名前を変更できます。

## 3. Combination Playモード

コンビネーションを選択します。

TR-Rackで選択できるコンビネーション数は、512(バンクA、B、C、Dの0~127)です。

出荷時のコンビネーション名のリストは、別冊のVoice Name Listに掲載してあります。



LCD画面の上段には現在選ばれているコンビネーションが、下段にはそのカテゴリーが表示されます。



### Combination Bank/Combination No./Combination Name [A00...D127]

[+1/YES]キーと[-1/NO]キーで、コンビネーションを選択します。また、カテゴリーによる選択も行なえます。(Basic編 P.8)

**MIDI** ボリューム(CC#7)を受信すると、音量レベルの設定値が変わります。

Combination Editモードの「Page3: Channel」で各ティンバーごとにMIDIチャンネルを設定すると、ティンバー単位で演奏やコントロールができます。

外部MIDI機器からのプログラム・チェンジを使ったコンビネーションの選択法については、詳しくは本誌のP.22「MIDIアプリケーション」を参照してください。

# 4. Combination Editモード

コンビネーションの設定を行ないます。

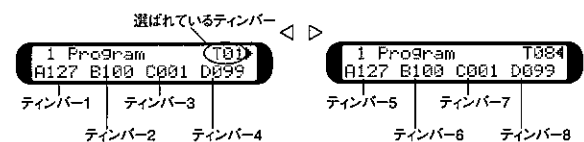
Page1~27では、ティンバーごとの設定を行ないます。

Page28~43では、コンビネーションで使用するエフェクト(インサート・エフェクト、マスターエフェクト)の設定をします。

Page44~47では、コンビネーション全体に共通の設定を行ないます。

Page1~26では、1つの画面で4つのティンバーの設定が表示されます。設定するティンバーは、カーソル[◀]/[▶]キーで選択します。

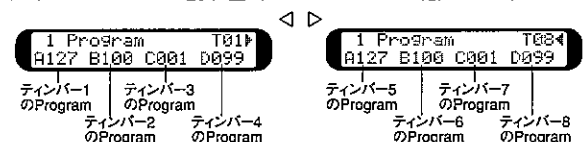
このとき、カーソルで選ばれているティンバーがLCD画面の右上に表示されます。



変更した設定を保存するときは、ライトしてください。ライトせずに他のプログラムを選んだり、電源をOFFにしてしまうと、変更前の設定に戻ってしまいます。

## Page1: Program

ティンバー1~8に割り当てるプログラムを選びます。

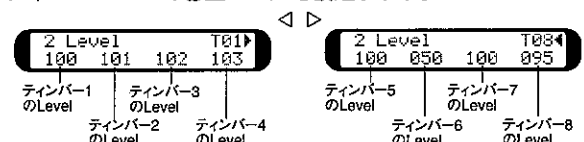


**Bank No.** [A...D] [000...127]

**MIDI** Combination Playモードのとき、ティンバーと一致するプログラム・チェンジを受信すると、そのティンバーのプログラムが切り替わります。

## Page2: Level

ティンバー1~8の音量レベルを設定します。

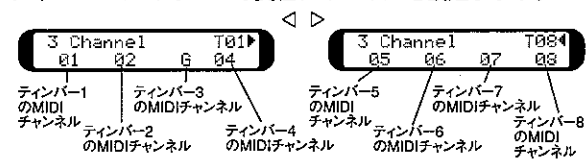


**Level** [0...127]

**MIDI** Combination Playモードのとき、ティンバーと一致するボリュームCC#07を受信すると、そのティンバーの音量レベルが変わります。

## Page3: Channel (MIDI Channel)

ティンバー1~8のMIDIの受信チャンネルを設定します。



**Channel** [01...16, G]

Gにすると、Globalモードの「Page3: MIDI Channel」で設定するグローバルMIDIチャンネルと同じチャンネルが、自動的に設定されます。

## Page4: Timbre SW

ティンバー1~8を発音させるかどうかを設定します。

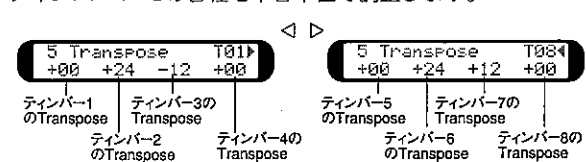


OFFにすると、そのティンバーは発音しません。

ONにすると、そのティンバーは発音します。

## Page5: Transpose

ティンバー1~8の音程を半音単位で調整します。

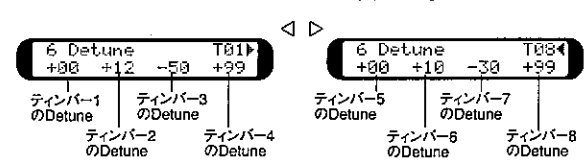


**Transpose** [-24...+24]

12で1オクターブです。

## Page6: Detune

ティンバー1~8のピッチを1セント単位で調整します。



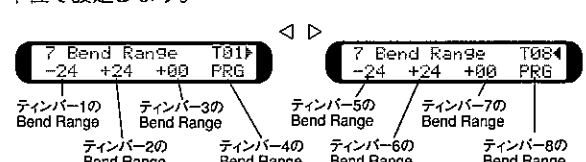
**Detune** [-99...+99]

0のとき、基準ピッチになります。

設定する値が大きいく、基準ピッチからずれていきます。

## Page7: Bend Range

ティンバー1~8のピッチ・ベンドによるピッチの変化幅を、半音単位で設定します。



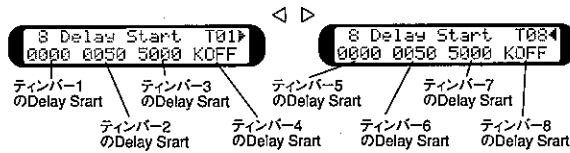


### Bend Range [PRG, -24...+24]

PRGにすると、プログラムで設定されている変化幅になります。  
 -24~+24にすると、プログラムの設定とは関係なく、ここの設定値で動作します。

### Page 8: Delay Start [ms]

ティンバー1~8のノート・オンを受信してから発音するまでのディレイ・タイムをmsec単位で設定します。



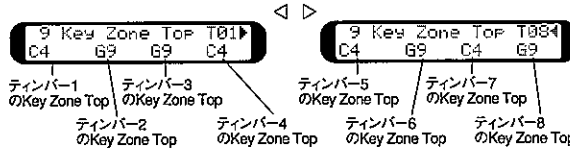
### Delay Start [0...5000, KOFF]

KOFFにすると、ノート・オフで発音します。このときは、使用するプログラムがオルガンの音のように持続する音のときは音が消えません。チェンバロの音色等で使います。

通常は0に設定します。

### Page 9: Key Zone Top (Top Key)

ティンバー1~8が発音する音域のトップ・キー(上限)を設定します。



### Key Zone Top [C-1...G9]

#### Key Zoneについて

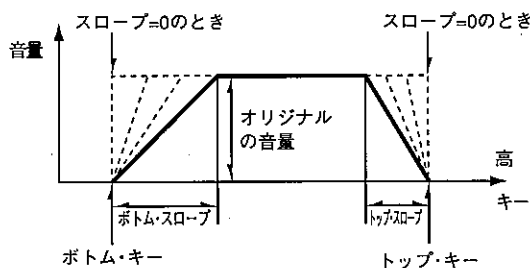
トップ/ボトム・キーで、ティンバー1~8が発音する音域(キーゾーン)を設定し、トップ/ボトム・スロープで、音量を変化させる範囲を設定します。

複数のティンバーで発音範囲が重なるように設定すると、1つの鍵盤で異なる音色が重なって発音します(レイヤー)。

音色の異なるティンバーで、発音する音域が重ならないように設定すると、鍵盤の位置で異なる音色を弾き分けることができます(キー・スプリット)。

さらに、スロープが重なるように設定すると、異なる音色が重なって発音し、それらの重なり具合は鍵盤の位置で変化します(ポジションナル・クロスフェード)。

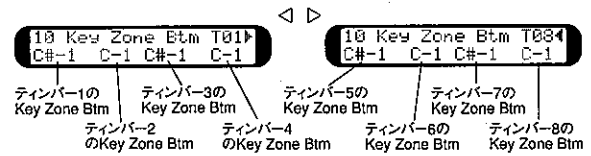
弾く鍵盤の位置による音量変化の設定



1つのティンバー内では、ボトム・キーはトップ・キーより上に設定できません。そして、トップ・スロープとボトム・スロープが重なるようには設定できません。

### Page 10: Key Zone Btm (Bottom Key)

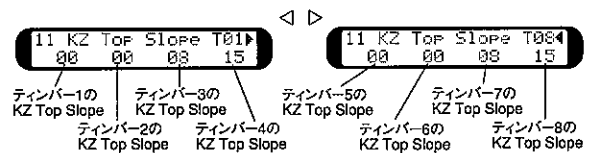
ティンバー1~8が発音する音域のボトム・キー(下限)を設定します。



### Key Zone Btm [C-1...G9]

### Page 11: KZ Top Slope (Top Slope)

トップ・キーからオリジナルの音量になるキーの範囲(12で1オクターブ)を設定します。



### KZ Top Slope [00...72]

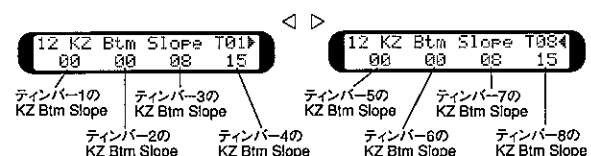
0にすると、トップ・キーの位置でオリジナルの音量になります。

12にすると、トップ・キーから1オクターブ下のキーがオリジナルの音量になるよう、徐々に音量が上がっていきます。

60にすると、トップ・キーから5オクターブ下のキーがオリジナルの音量になるよう、徐々に音量が上がっていきます。

### Page 12: KZ Btm Slope (Bottom Slope)

ボトム・キーからオリジナルの音量になるキーの範囲(12で1オクターブ)を設定します。



### KZ Btm Slope [00...72]

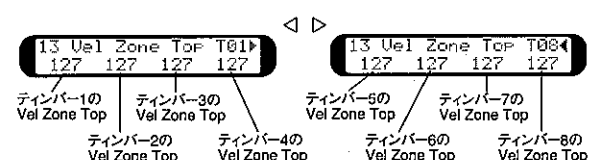
0にすると、ボトム・キーの位置でオリジナルの音量になります。

12にすると、ボトム・キーから1オクターブ上のキーがオリジナルの音量になるよう、徐々に音量が上がっていきます。

60にすると、ボトム・キーから5オクターブ上のキーがオリジナルの音量になるよう、徐々に音量が上がっていきます。

### Page 13: Vel Zone Top (Top Velocity)

ティンバー1~8が発音するベロシティ範囲の最大値を設定します。



### Vel Zone Top

[1...127]

#### Velocity Zoneについて

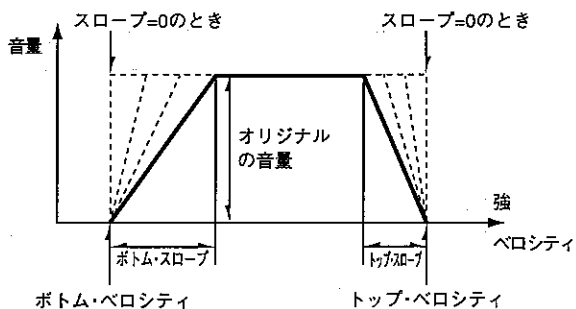
トップ/ボトム・ベロシティで、ティンバー1~8が発音するベロシティの範囲(ベロシティ・ゾーン)を設定し、トップ/ボトム・スロープで、音量を変化させる範囲を設定します。

複数のティンバーで発音範囲が重なるように設定すると、異なる音色が重なって発音します(レイヤー)。

複数のティンバーで、ベロシティ・ゾーンの発音部分が重ならないように設定すると、鍵盤を弾く強さで異なる音色を弾き分けることができます(ベロシティ・スイッチ)。

さらに、スロープが重なるように設定すると、異なる音色が重なって発音し、それらの重なり具合は弾く強さによって変化します(ベロシティ・クロスフェード)。

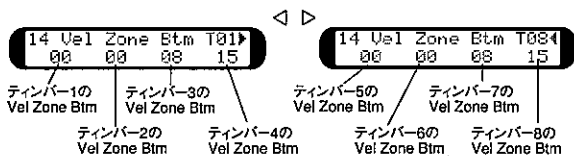
ベロシティによる音量変化の設定



ボトム・ベロシティはトップ・ベロシティより大きい値に設定できません。そして、トップ・スロープとボトム・スロープが重なるようには設定できません。



ティンバー1~8が発音するためのベロシティの最小値を設定します。

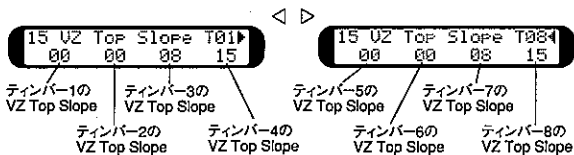


### Vel Zone Btm

[1...127]



トップ・ベロシティからオリジナルの音量になるまでの値を設定します。



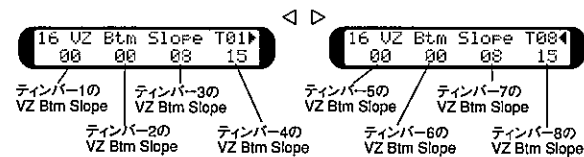
### VZ Top Slope

[0...120]

0にすると、トップ・ベロシティでオリジナルの音量になります。値を大きくする程、音量の変化がなだらかになります。



ボトム・ベロシティからオリジナルの音量になるまでの値を設定します。



### VZ Btm Slope

[0...120]

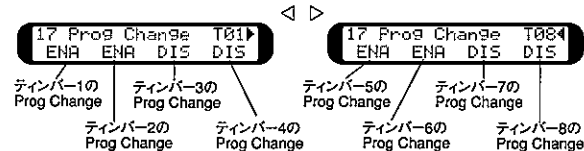
0にすると、ボトム・ベロシティでオリジナルの音量になります。値を大きくする程、音量の変化がなだらかになります。



Page17~20はMIDIデータの受信フィルターの設定用ページです。

ティンバー1~8がMIDIデータを受信するかどうかを設定します。

フィルターはティンバーごとに設定できるので、同じMIDIチャンネルで発音していても、片方のティンバーにはベンドをかけ、もう片方にはかけない、等が行なえます。



### Prog Change

[DIS, ENA]

MIDI ティンバー1~8が、MIDIプログラム・チェンジ・メッセージを受信するかどうかを設定します。

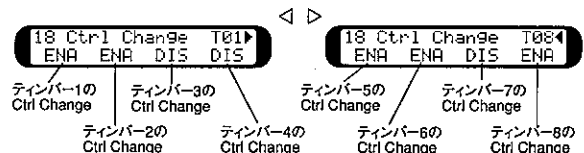
ENAにすると、MIDIプログラム・チェンジ・メッセージを受信しプログラムが変更されます。

DISにすると、MIDIプログラム・チェンジ・メッセージを受信しません。

本機全体のMIDIプログラム・チェンジ・メッセージの受信の設定は、Globalモードの「Page7: Prog Change」で行ないます。



MIDI ティンバー1~8が、MIDIコントローラ・メッセージを受信するかどうかを設定します。



### Ctrl Change

[DIS, ENA]

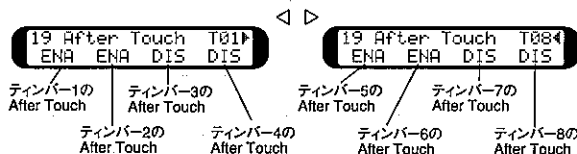
ENAにすると、MIDIコントローラ・メッセージを受信し、ピッチ、ボリュームなどがコントロールされます。

DISにすると、コントローラ・メッセージを受信しません。

本機全体のMIDIコントローラ・メッセージの受信の設定は、Globalモードの「Page8: MIDI Filter」のCtrlで行ないます。

## Page19: After Touch (Enable Aftertouch)

**MIDI** ティンバー1~8が、MIDIアフタータッチ・メッセージを受信するかどうかを設定します。



### After Touch [DIS, ENA]

ENAにすると、MIDIアフタータッチ・メッセージを受信します。

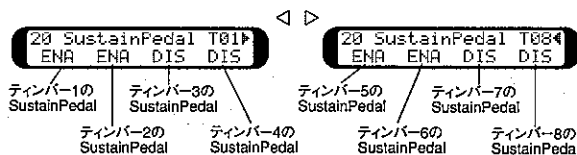
DISにすると、MIDIアフタータッチ・メッセージを受信しません。

本機全体のMIDIアフタータッチ・メッセージの受信の設定は、Globalモードの「Page8: MIDI Filter」のA.Tで行ないます。

**A** アフタータッチにはチャンネル・アフターとポリ・アフターがありますがチャンネル・アフターのみを受信します。

## Page20: SustainPedal (Enable Sustain Pedal)

**MIDI** ティンバー1~8が、MIDI CC #64ホールド(ダンパー・ペダル)メッセージを受信するかどうかを設定します。



### SustainPedal [DIS, ENA]

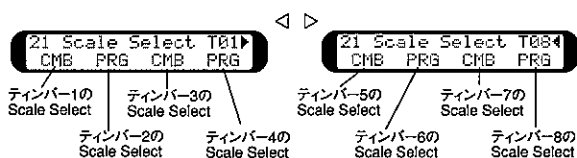
ENAにすると、MIDIホールドを受信します。

DISにすると、MIDIホールドを受信しません。

MIDIホールドはコントロール・チェンジに含まれていて、本機全体での受信の設定は、Globalモードの「Page8: MIDI Filter」のCtrlで行ないます。

## Page21: Scale Select (Use Program's Scale)

ティンバー1~8で使用するスケールを選択します。



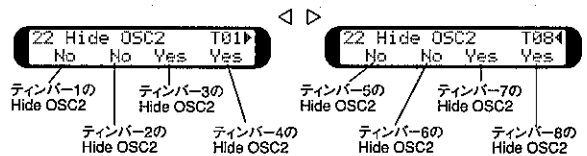
### Scale Select [CMB, PRG]

PRGにすると、プログラムで設定されているスケールを使用します。

CMBにすると、「Page44: Scale」で設定したコンビネーションのスケールを使用します。

## Page22: Hide OSC2

ティンバー1~8のオシレータ2を使用するかどうかを設定します。ただし、ダブル・オシレータのプログラムを使用するティンバーに対してのみ、この設定が有効になります。



### Hide OSC2 [NO, YES]

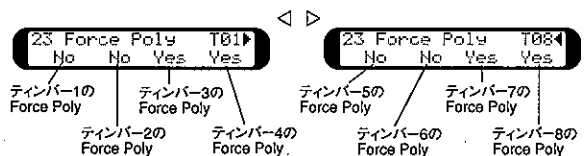
YESにすると、OSC2は発音しません(OSC1のみが発音します)。

NOにすると、プログラムそのものの設定で発音します。

必要がない限り、通常はNOに設定しておきます。

## Page23: Force Poly

ティンバー1~8のキー・アサインを、ポリフォニックにするかどうかを設定します。ただし、モノ・アサインのプログラムに対してのみ、この設定が有効になります。



### Force Poly [NO, YES]

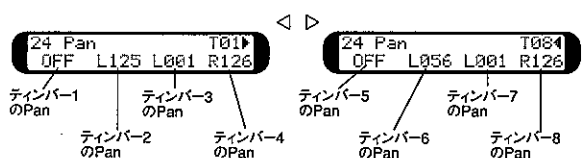
YESにすると、ポリフォニックで発音します。

NOにすると、プログラムそのもののキー・アサインで発音します。

必要がない限り、通常はNOに設定しておきます。

## Page24: Pan

ティンバー1~8のパン(リアパネルのアウトプット端子1/L/MONO、2/Rへの出力)を設定します。ただし、インサート・エフェクトを使用するときは、インサート・エフェクトへの入力のパンとなります。



### Pan [OFF, L000...C064...R127, PROG]

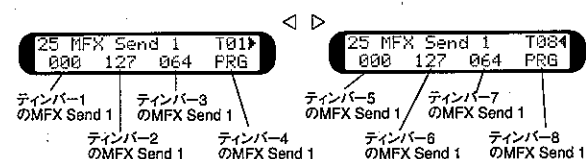
PROGにすると、プログラムで設定されているパンの設定になります。

**MIDI** Combination Playモードでパンポット(CC #10)を受信すると、パンの設定値が変わります(ただし、この設定がL000~R127のときのみ)。

## Page25: MFX Send 1

ティンバー1~8のセンド・レベル(マスター・エフェクト1への入力レベル)を設定します。

これは、同時にリアパネルのアウトプット端子3,4への出力レベルになります。



### MFX Send 1 [0...127, PRG]

PRGにすると、プログラムで設定されているセンド・レベルの設定になります。

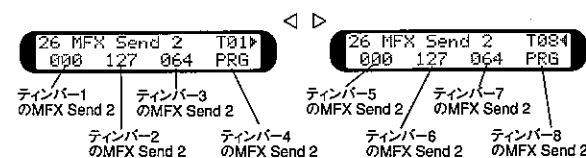
**▲** インサート・エフェクトがONのとき、ここの設定は無効になります。

**MIDI** Combination Playモードのときエフェクト3・レベル(CC#93)を受信すると、ここの設定が変わります(ただし、ここの設定が0~127のときのみ)。

## Page26: MFX Send 2

ティンバー1~8のセンド・レベル(マスター・エフェクト2への入力レベル)を設定します。

これは、同時にリアパネルのアウトプット端子3,4への出力レベルになります。



### MFX Send 2 [0...127, PRG]

PRGにすると、プログラムで設定されているセンド・レベルの設定になります。

**▲** インサート・エフェクトがONのとき、ここの設定は無効になります。

**MIDI** Combination Playモードでエフェクト1・レベル(CC#91)を受信すると、ここの設定が変わります(ただし、ここの設定が0~127のときのみ)。

## Page27: InsrFX Size

ここでは、インサート・エフェクトのサイズやグルーピングを設定します。

コンビネーションのインサート・エフェクトを設定するときは、各ティンバーのエフェクト・サイズの合計を8以内におさめなければなりません。そのため例えば、すべてのティンバーで異なるインサート・エフェクトを使用するときは、全ティンバーのエフェクト・サイズを1にします。

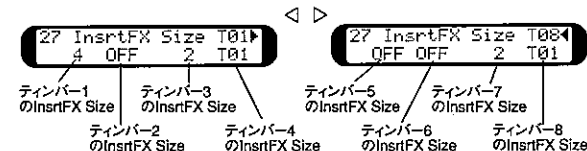
あるティンバーで設定したインサート・エフェクトへ、他のティンバーの音声信号を入力することができます。つまり、1つのティンバーのインサート・エフェクトを複数のティンバーで使うことができ、これをグルーピング機能といいます。

以上により、効果が似ているインサート・エフェクトを持つティンバーごとにグループを作り、その中でグルーピング元になるティンバーを決め、グルーピング元のインサート・エフェクトのパラメータを設定することをお勧めします。

各ティンバーのインサート・エフェクトのパラメータは、「Page27: IFX1」以降で設定します。

詳しくは、別冊の**Effect Guide**を参照してください。

このページで選んだ(カーソル[◀]または[▶]キーで点滅させた)ティンバーが**Page28~36**で**エディットの対象**となります。



### InsrFX Size [OFF, 1, 2, 4, 8, T01...T08]

各ティンバーで使用するインサート・エフェクトのエフェクト・サイズ、グルーピング先を設定します。

1, 2, 4, 8にすると、「Page28: IFX1」以降でインサート・エフェクトの選択とエフェクトのパラメータの設定ができます。

ただし、ティンバー1~8のエフェクト・サイズの合計は**8以内**に設定します。

例えば、2つのティンバーでエフェクト・サイズを4に設定したときは、他のティンバーでエフェクト・サイズの設定(インサート・エフェクトの使用)ができません。

**T01~T08**に設定すると、他のティンバーで設定したエフェクトとグルーピングすることができます。

例えば、ティンバー3でフランジャーを使用しているときにティンバー5のエフェクト・サイズでT03を設定すると、ティンバー3はグルーピング元となり、ティンバー3とティンバー5の音声信号は、ティンバー3のプログラムで設定されているフランジャーに入力されます。

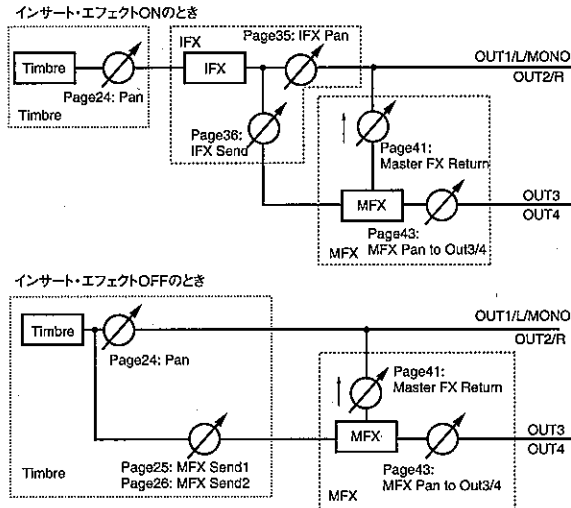
**MIDI** ティンバーのMIDIチャンネルにチャンネルが一致するコントロール・メッセージで、そのティンバーのインサート・エフェクトがコントロールできます。

詳しくは、別冊の**Effect Guide**のP.9を参照してください。

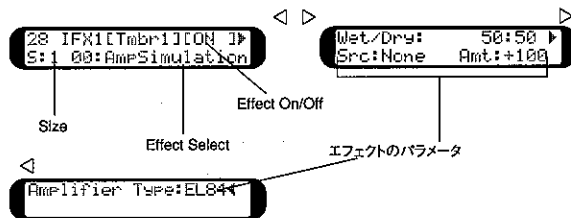
## Page28~31: IFX1~IFX4 (Insert Effect Setting)

ティンバーで使用するインサート・エフェクトを選択し、そのパラメータを設定します。

インサート・エフェクトを使用したときと使用しないときでは信号の流れやパン、センドの調整箇所が以下のように異なります。



下の図は「Page28: IFX1 (インサート・エフェクト1)」のLCD画面です。Page29~31ではIFX2~IFX4が表示されます。



「Page27: InsrtFx Size」で選んだティンバーのインサート・エフェクトがエディットの対象となり、LCD画面の上段に表示されます。ティンバーの切り替えはPage27で行ないます。

- インサート・エフェクト4「Page31: IFX4 (インサート・エフェクト4)」はドラム・オシレータのプログラムを使用しているティンバーを選択したときのみ設定できます。

### S (Size) [0, 1, 2, 4, 8]

インサート・エフェクトのサイズを設定します。

サイズによって選択できるインサート・エフェクトのタイプが異なります。

0にするとNo Effectで、インサート・エフェクトは選択できません。

1~4にすると、「Effect Select」でインサート・エフェクトを選択できます。

ただし、IFX1、IFX2...のサイズの合計は、「Page27: InsrtFX Size」の値以下に設定してください。

### Effect On/Off [OFF, ON]

エフェクトのOn/Offを設定します。

OFFにすると、バイパスになります。サイズ1のエフェクトが選ばれているときは、ドライ音もモノラルになります。ステレオで

設定している各ティンバーのパン(「Page24: Pan」)を有効にする場合は、Sizeの設定を1以外にしてください。

- MIDI** この設定とは別に、エフェクト2コントロール(CC #92)で、すべてのティンバーのインサート・エフェクトをまとめてOFFにすることができます。値が0のときOFFになり、1~127のとき元の設定に戻ります。このとき、グローバルMIDIチャンネルが使用されます。

### Effect Select

エフェクト・タイプを選択します。ただし、サイズの設定によって、選択できるエフェクトが異なります。

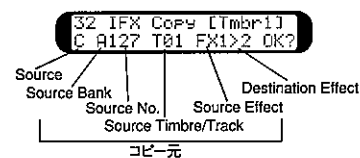
ここで選んだエフェクトのパラメータは、その右側の画面(カーソル[▶]キーで移動)で設定します。

それぞれのエフェクトについては、別冊のEffect Guideを参照してください。

## Page32: IFX Copy (Copy Insert Effect)

現在選ばれているティンバーのインサート・エフェクトへ、別のプログラム、コンビネーション、マルチで使用されているインサート・エフェクトの設定値をコピーします。

例えば、コンビネーションA127のティンバー1で使用されているインサート・エフェクト1を現在選ばれているコンビネーションのティンバー1のインサート・エフェクト2へコピーするとき、以下のように設定します。



### Source [P, C, M]

コピー元をプログラム(P)、コンビネーション(C)、マルチ(M)の中から選びます。

### Source Bank [A...D]

コピー元にプログラムまたはコンビネーションを選んだ場合、バンクを選びます。

### Source No. [000...127]

コピー元にプログラムを選んだ場合はプログラム・ナンバーを、コンビネーションを選んだ場合はコンビネーション・ナンバーを選びます。

### Source Timbre/Track [T01...08, T01...16]

コピー元にコンビネーションを選んだ場合はティンバーを、マルチを選んだ場合はトラックを選びます。

### Source Effect [FX1...4, ALL]

コピー元のインサート・エフェクトを選びます。

ALLにすると、使用されているすべてのインサート・エフェクトがコピーの対象となります。

コピー元とコピー先がドラム・オシレータのプログラムを使用している場合は、(FX4)IFX4が選択できます。

### Destination Effect

[1...4]

コピー先のインサート・エフェクトを選びます。  
 コピー先のティンバーがドラム・オシレータのプログラムを使用している場合、4(IFX4)が選択できます。  
 コピーの実行は、カーソル[▶]キーを押し“OK”を点滅させ、[+1/YES]キーを押します。

以下の様な場合は、コピーできません。

1. コピー先のエフェクト・サイズがコピー元のエフェクト・サイズより小さい場合。

LCD画面が以下のように表示されます。

Effect Size overflow

2. インサート・エフェクトが3個直列で使用されている場合、サイズ4のエフェクトをIFX2へコピーすることはできません。また、ドラム・オシレータのプログラムを使用したティンバーで、インサート・エフェクトを4個直列で使用した場合はサイズ4のエフェクトをIFX2 またはIFX3へコピーすることができません。

LCD画面が以下のように表示されます。

Size4 Placement err

3. コピー元がインサート・エフェクトを使用していない場合やエフェクト・サイズが0の場合。

LCD画面が以下のように表示されます。

Source effect is empty

### Page33: IFX Swap (Swap Insert Effect)

現在選ばれているティンバーのインサート・エフェクトが複数の場合、そのインサート・エフェクトの入れ替え(Swap)をします。

例えば、ティンバー1でインサート・エフェクト1とインサート・エフェクト2をSwapするときは、以下のように設定します。

33 IFX Swap [Tmbr1]  
IFX1 < > IFX2 OK?

Swap Effect

### Swap Effect

[IFX1...4]

Swapするインサート・エフェクトを選びます。

現在選ばれているティンバーがドラム・オシレータのプログラムを使用している場合、IFX4が選択できます。

Swapの実行は、カーソル[▶]キーを押し“OK”を点滅させ、[+1/YES]キーを押します。

- 以下の様な場合は、インサート・エフェクトが3個直列で使用されている場合、サイズ4のエフェクトをIFX2へSwapすることはできません。また、ドラム・オシレータのプログラムを使用したティンバーで、インサート・エフェクトを4個直列で使用した場合はサイズ4のエフェクトをIFX2 またはIFX3へSwapすることができません。

### Page34: IFX Chain

各インサート・エフェクトの接続状態を設定します。

ただし、ドラム・オシレータのプログラムを使用しているときのみ、設定できます。それ以外のティンバーでは下のLCD画面(右側)のように表示されます。

例えば、4つのインサート・エフェクトのうちインサート・エフェクト2と3を直列に接続するときは、以下(下図左側)のように設定します。

34 IFX Chain [Tmbr1]  
1>2:0F 2>3:0M 3>4:0F

各インサート・エフェクトの接続設定

34 IFX Chain [Tmbr1]  
Invalid. DrmPGM only

ティンバーにDrumKitのプログラムが使用されていない場合は、このように表示されます

1>2

[OF, ON]

2>3

[OF, ON]

3>4

[OF, ON]

OF(OFF)にすると各エフェクトを並列に(個別に)使用します。

ONにすると各エフェクトを直列に接続します。

インサート・エフェクトの接続状態については別冊のEffect GuideのP.5「Program—Drums OSCモード」を参照してください。

### Page35: IFX Pan (Pan/Width)

インサート・エフェクト通過後のPan(パンポット)とWidth(左右への広がり)を調整します。

35 IFX Pan [Tmbr1]  
Pan:R127 Width:000

インサート・エフェクトのPan

インサート・エフェクトのWidth

Pan

[OFF, L000...C064...R127]

インサート・エフェクト通過後のパンを調整します。

Width

[0...127]

インサート・エフェクト通過後の左右の広がりを設定します。

設定した値が大きい程、左右に広がります。

### Page36: IFX Send (Send1, 2)

マスター・エフェクトへのセンド・レベルを設定します。

36 IFX Send [Tmbr1]  
Send1:127 Send2:000

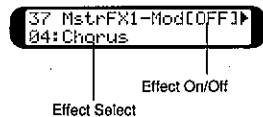
Send1, 2

[0...127]

## Page37, 38: MstrFX1-Mod/MstrFX2-Rev (Effect1/Effect2 Setting)

Page37でマスター・エフェクト1(モジュレーション)を、Page38でマスター・エフェクト2(リバープ)のエフェクトを選択し、そのパラメータを設定します。

下の図は「Page37: MstrFX1-Mod」のLCD画面です。Page38ではMstrFX2-Revが表示されます。



### Effect On/Off [OFF, ON]

マスター・エフェクトのOn/Offを設定します。

**MIDI** この設定とは別に、マスター・エフェクト1はエフェクト4コントロール(CC#94)でオフにすることができ、マスター・エフェクト2はエフェクト5コントロール(CC#95)でOffにすることができます。どちらも、値が0のときOffになり、1~127のとき元の設定に戻ります。このとき、グローバルMIDIチャンネルが使用されます。

### Effect Select

エフェクト・タイプを選択します。

マスター・エフェクト1にはモジュレーション系のエフェクトが選択でき、マスター・エフェクト2にはリバープ/ディレイ系のエフェクトが選択できます。

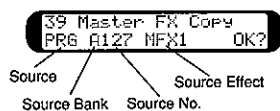
ここで選んだエフェクトの設定は、その右側の画面(カーソル[▶]キーで移動)で行ないます。

それぞれのエフェクトについては、別冊の**Effect Guide**を参照してください。

## Page39: Master FX Copy (Copy Master Effect)

現在選ばれているコンビネーションのマスター・エフェクトへ、別のプログラム、コンビネーション、マルチのマスター・エフェクトの設定値をコピーします。

例えば、プログラムA127で使用されているマスター・エフェクト1をコピーするときは、以下のように設定します。



### Source [PRG, CMB, MLT]

コピー元をプログラム(PRG)、コンビネーション(CMB)、マルチ(MLT)の中から選びます。

### Source Bank [A...D]

コピー元にプログラムまたはコンビネーションを選んだ場合、バンクを選びます。

### Source No. [000...127]

コピー元にプログラムを選んだ場合はプログラム・ナンバーを、コンビネーションを選んだ場合はコンビネーション・ナンバーを選びます。

### Source Effect [MFX1, MFX2, ALL]

コピー元のマスター・エフェクトを選びます。

**ALL**にすると、マスター・エフェクト1,2がコピーされます。

コピーの実行は、カーソル[▶]キーを押し“OK”を点滅させ、[+1/YES]キーを押します。

## Page40: Master FX Chain

マスター・エフェクトの接続状態を設定します。

例えば、マスター・エフェクト1とマスター・エフェクト2を直列に接続するときは、以下のように設定します。



### MFX1>MFX2 [OFF, ON]

**OFF**にするとマスター・エフェクト1とマスター・エフェクト2が並列に使用されます。

**ON**にするとマスター・エフェクト1とマスター・エフェクト2が直列に接続されます。(マスター・エフェクト1の出力はマスター・エフェクト2へ送られます。)

## Page41: Master FX Return

マスター・エフェクトからアウトプット端子1/L/MONO,2/Rへ送られる信号のレベルを調整します。



### MFX1 [0...127]

マスター・エフェクト1からアウトプット端子1/L/MONO,2/Rへ送られる信号のレベルを調整します。

### MFX2 [0...127]

マスター・エフェクト2からアウトプット端子1/L/MONO,2/Rへ送られる信号のレベルを調整します。

アウトプット端子1/L/MONO,2/Rへは、Pan L,R経由の信号と、このMaster FX Returnでレベルを調整したマスター・エフェクト1,マスター・エフェクト2からの信号が、ミックスされて出力されます。

## Page42: Master EQ dB

アウトプット端子1/L/MONO、2/Rに出力される信号の音質を調整します。



## Lo (Low Gain) [-18.0...+18.0]

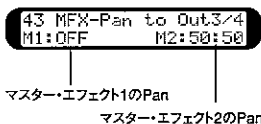
低音域のレベルを調整します。  
単位は[dB]です。

## Hi (High Gain) [-18.0...+18.0]

高音域のレベルを調整します。  
単位は[dB]です。

## Page43: MFX Pan to Out3/4

アウトプット端子3、4へのPanを調整します。



## M1 [OFF, L, 99:01...01:99, R]

マスター・エフェクト1からアウトプット端子3、4へのパンを調整します。

## M2 [OFF, L, 99:01...01:99, R]

マスター・エフェクト2からアウトプット端子3、4へのパンを調整します。

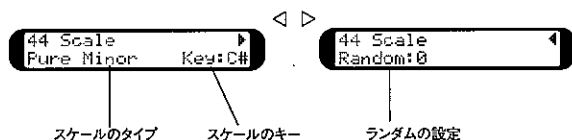
OFFにすると、アウトプット端子3、4へは出力されません。

Lにすると、アウトプット端子3だけに信号が送られます。

Rにすると、アウトプット端子4だけに信号が送られます。

## Page44: Scale

コンビネーションで使用するスケールを設定します。



## Type (Scale Type) [Equal Temp...All Range User]

スケールのタイプを選択します。

**Equal Temperament**(平均律)は、一般的に広く使われている音階で、各音のピッチの変化が同じになっています。

**Pure Major**(純正律長音階)は、選択した主調和音のメジャー・コードが完全に調和する音階です。

**Pure Minor**(純正律短音階)は、選択した主調和音のマイナー・コードが完全に調和する音階です。

**Arabic**(アラビック)は、アラビアの1/4トーン・スケールを含む音階です。

**Pythagoras**(ピタゴラス)は、古代ギリシャの音階で、メロディー演奏に効果的です。

**Werkmeister**(ヴェルクマイスターIII)は、後期バロック時代に用いられた平均律的な音階です。

**Kirnberger**(キルンベルガーIII)は、18世紀に作られた音階で、主にハーブシコードの調律に用いられます。

**Slendro**(スレンドロ)は、1オクターブを5音で構成するインドネシアのガムラン音階です。Scale KeyがCに設定されているときに、C、D、F、G、Aの鍵盤を使用します(その他の鍵盤は、平均律に設定されています)。

**Pelog**(ペロック)は、1オクターブを7音で構成するインドネシアのガムラン音階です。ScaleがCに設定されているときに、白鍵を使用します(黒鍵は平均律に設定されています)。

**Octave User Scale**は、Globalモードの「Page11: All Note Scale/Octave Scale」のOctave Scaleで設定した音階を使用します。

**Stretch**は、アコースティックピアノ用の音階です。

**All Range User**は、Globalモードの「Page11: All Note Scale/Octave Scale」のAll Note Scaleで設定した音階を使用します。

## Key (Scale Key) [C...B]

選んだスケールの主調和音のキーを選択します。

## Random [0...7]

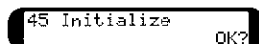
設定した値が大きい程、発音時のピッチが不規則にズレます。

テープ式オルガンやアコースティック楽器のように、ピッチが不安定になりがちな楽器を再現するのに向いています。

通常は0に設定します。

## Page45: Initialize

ティンバーのパラメータ設定を初期化します。



初期化をするには、[+1/YES]キーを押してください。

LCD画面の下段に「Are you sure」と表示されます。もう一度[+1/YES]キーを押してください。

「Completed」と表示され初期化が完了します。

初期化されるパラメータやパラメータの値については本誌P.74「付録-3. Initialize実行時の設定データ」を参照してください。



## Page46: Rename (Combination Name)

コンビネーション名を設定(リネーム)します。

46 Rename  
Trinity OvertureX

コンビネーション名

カーソル[◀]または[▶]キーで文字を選び、[+1/YES]または[-1/NO]キーで文字を変更します。

以下の文字が使用できます。

	!	"	#	\$	%	&	'	(	)	*	+	,	-	.	/
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	:	;	<	=	>	?
Q	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	[	\	]	^	_
`	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z	{		}	~	←

- ▲ リネームしたコンビネーション名を記憶させる場合は、ライトの操作(※Basic編P.10)を行なってください。ライトする前に他のコンビネーションを選んだり、電源をOFFにすると、せっかくリネームしたコンビネーション名が失われてしまいます。

## Page47: Set Category

そのコンビネーションが所属するカテゴリーを割り当てます。

47 Set Category  
00:Orchestral.....

カテゴリー名

### Set Category [Pad&Lead...Drums/Special FX]

Combination Playモードでコンビネーションを選択するとき、コンビネーションごとに割り当てておいたカテゴリーでコンビネーションの検索ができます。

出荷時には楽器名が登録されていますが、Globalモードの「Page15: Comb Category」でカテゴリーの名前を変更できません(※本誌P.62)。

# 5. Multiモード

MIDI INやTO HOST端子に接続したシーケンサ/コンピュータによるソングのプレイ(再生)を行ないます。

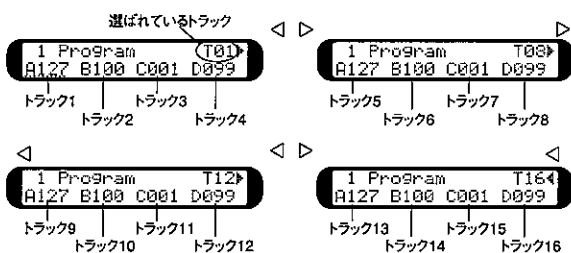
Page1~18では、トラックごとの設定を行ないます。

Page19~34では、マルチに共通なエフェクト(インサート・エフェクト、マスターエフェクト)の設定を行ないます。

Page35~37では、マルチ全体の基本的な設定を行ないます。

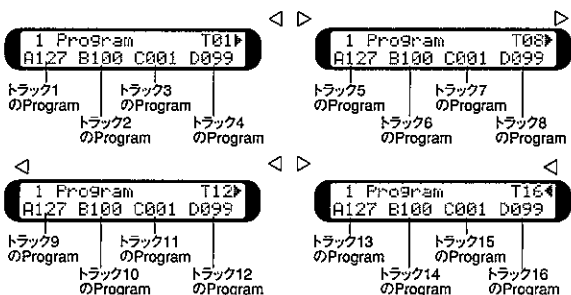
Page1~18では、1つの画面で4つのトラックの設定が表示されます。設定するティンバーは、カーソル(◀)/▶)キーで選択します。

このとき、カーソルで選ばれているトラックがLCD画面の右上に表示されます。



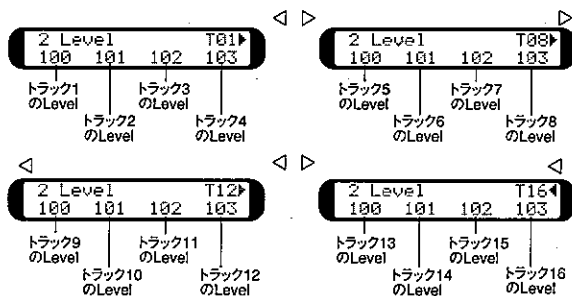
変更した設定を保存するときは、ライトしてください。ライトせずに電源をOFFにしてしまうと、変更前の設定に戻ってしまいます。

トラック1~16に割り当てるプログラムを選びます。



Bank No. [A...D] [000...127]

トラック1~16の音量レベルを設定します。

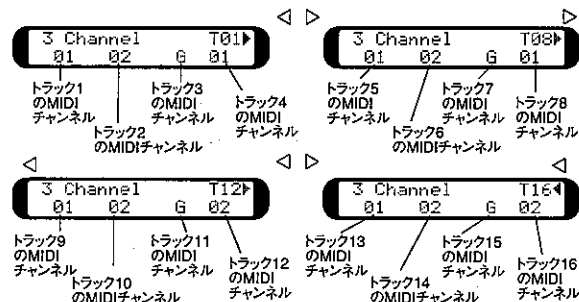


Level [0...127]

MIDI 通常、外部シーケンサでの演奏において各トラックの音量調整は、ボリューム(CC#7)とエクスプレッション(CC#11)を掛け合わせて使用します。

ボリューム(CC#7)はスタート時の各トラック間の音量バランス調整用でエクスプレッション(CC#11)は演奏中に音量を変化させる目的で使用します。演奏中はボリューム(CC#7)を使用しないでください。

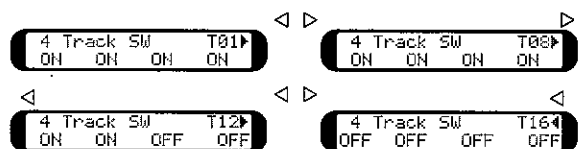
MIDI トラック1~16のMIDIの受信チャンネルを設定します。



Channel [01...16, G]

MIDI Gにすると、Globalモードの「Page3: MIDI Channel」(※本誌P.58)で設定するグローバルMIDIチャンネルと同じチャンネルが自動的に設定されます。

トラック1~16を発音させるかどうかを設定します。

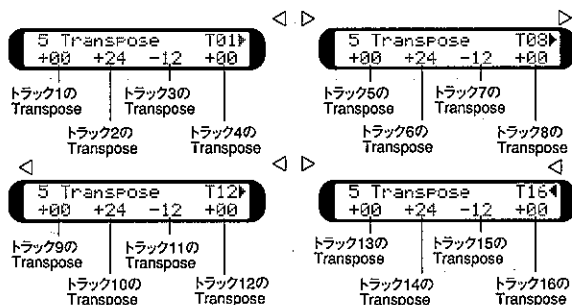


OFFにすると、そのトラックは発音しません。

ONにすると、そのトラックは発音します。

## Page5: Transpose

トラック1~16の音程を半音単位で調整します。



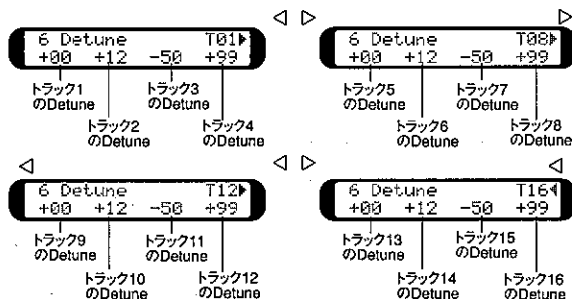
### Transpose [-24...+24]

＋の値にすると、音程が上がります(+12で+1オクターブ上がります)。

－の値にすると、音程下がります(－12で－1オクターブ下がります)。

## Page6: Detune

トラック1~16のピッチを1セント単位で調整します。



### Detune [-99...+99]

＋の値にすると、音程が上がります。

－の値にすると、音程下がります。

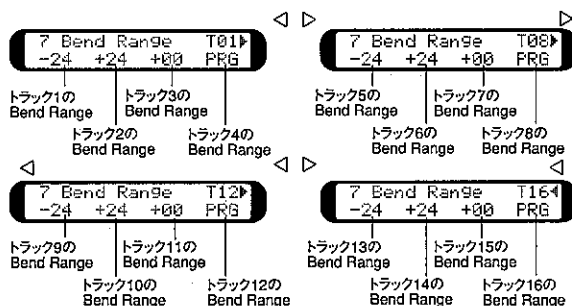
0のときは、基準ピッチになります。

設定する値が大きい程、基準ピッチからずれていきます。

**MIDI** MIDIのRPN“Fine Tune Message”を受信すると、この設定が変わります。

## Page7: Bend Range

トラック1~16のピッチ・ベンドによるピッチの変化幅を、半音単位で設定します。



### Bend Range [PRG, -24...+24]

PRGにすると、プログラムで設定されている変化幅になります。

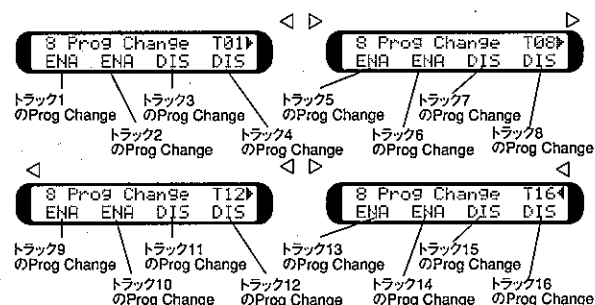
－24～+24にすると、プログラムの設定とは関係なく、ここでの設定値で動作します。

## Page8: Prog Change (Enable Program Change)

Page8~11はMIDIデータの受信フィルターの設定のページです。

トラック1~16がMIDIデータを受信するかどうかのフィルターを設定します。

フィルターはトラックごとに設定できるので、同じMIDIチャンネルで発音していても、片方のトラックにはベンドをかけ、もう片方にはかけない等が行なえます。



### Prog Change [DIS, ENA]

**MIDI** トラック1~16が、MIDIプログラム・チェンジ・メッセージを受信するかどうかを設定します。

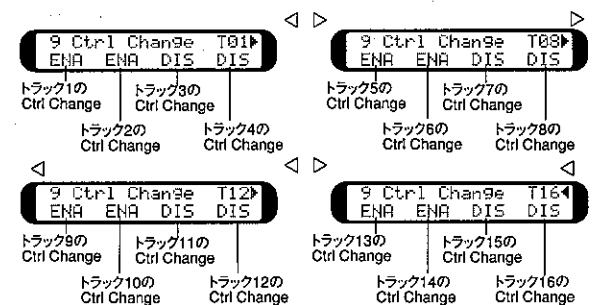
ENAにすると、MIDIプログラム・チェンジ・メッセージを受信しプログラムが変更されます。

DISにすると、MIDIプログラム・チェンジ・メッセージを受信しません。

本機全体のMIDIプログラム・チェンジ・メッセージの受信の設定は、Globalモードの「Page7: Prog Change」で行ないます。

## Page9: Ctrl Change (Enable Control Change)

**MIDI** トラック1~16が、MIDIコントローラ・メッセージを受信するかどうかを設定します。



### Ctrl Change [DIS, ENA]

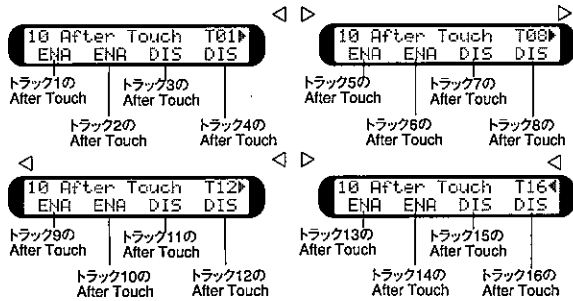
ENAにすると、MIDIコントローラ・メッセージを受信し、ピブラート、ボリュームなどがコントロールされます。

DISにすると、コントローラ・メッセージを受信しません。

本機全体のMIDIコントローラ・メッセージの受信の設定は、Globalモードの「Page8: MIDI Filter」のCtrlで行ないます。

### Page10: After Touch (Enable Aftertouch)

**MIDI** トラック1~16が、MIDIアフタータッチ・メッセージを受信するかどうかを設定します。

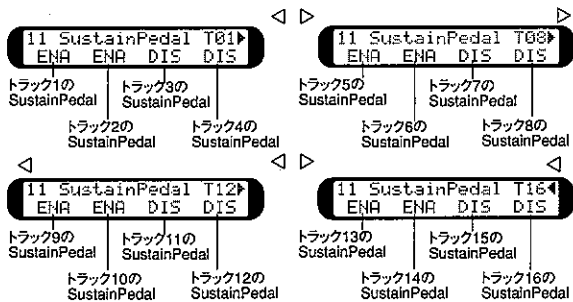


#### After Touch [DIS, ENA]

ENAにすると、MIDIアフタータッチ・メッセージを受信します。  
DISにすると、MIDIアフタータッチ・メッセージを受信しません。  
本機全体のMIDIアフタータッチ・メッセージの受信の設定は、Globalモードの「Page8: MIDI Filter」のA.Tで行ないます。

### Page11: Sustain Pedal (Enable Sustain Pedal)

**MIDI** トラック1~16が、MIDI CC #64 ホールド(ダンパー・ペダル)メッセージを受信するかどうかを設定します。

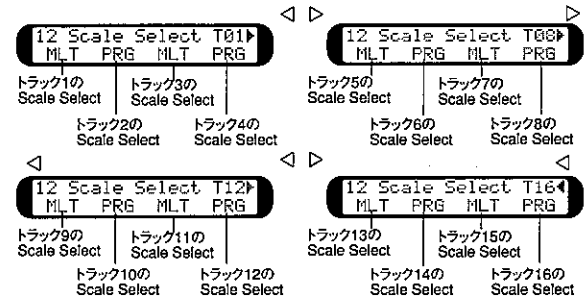


#### Sustain Pedal [DIS, ENA]

ENAにすると、MIDIホールドを受信します。  
DISにすると、MIDIホールドを受信しません。  
MIDIホールドはコントロール・チェンジに含まれていて、本機全体での受信の設定は、Globalモードの「Page8: MIDI Filter」のCtrlで行ないます。

### Page12: Scale Select (Use Program's Scale)

トラック1~16で使用するスケールを選択します。

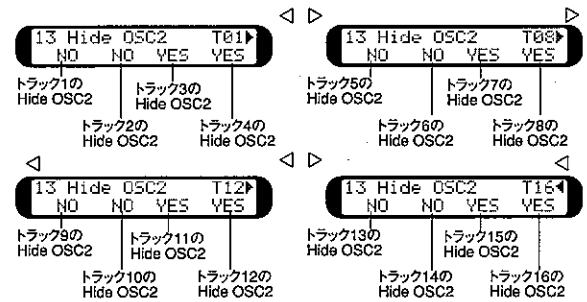


#### Scale Select [MLT, PRG]

PRGにすると、プログラムで設定されているスケールを使用します。  
MLTにすると、「Page35: Scale」で設定したマルチのスケールを使用します。

### Page13: Hide OSC2

トラック1~16のオシレータ2を使用するかどうかを設定します。ただし、ダブル・オシレータのプログラムを使用するトラックに対してのみ、この設定が有効になります。

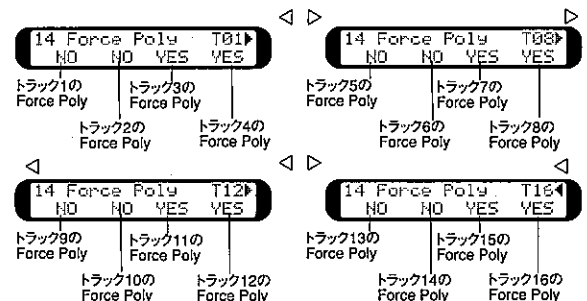


#### Hide OSC2 [NO, YES]

YESにすると、OSC2は発音しません(OSC1のみが発音します)。  
NOにすると、プログラムそのものの設定で発音します。  
必要がない限り、通常はNOに設定しておきます。

### Page14: Force Poly

トラック1~16のキー・アサインを、ポリフォニックにするかどうかを設定します。ただし、モノアサインのプログラムに対してのみ、この設定が有効になります。



## Force Poly

[NO, YES]

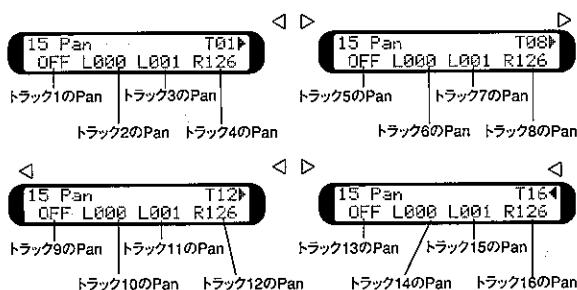
YESにすると、ポリフォニックで発音します。

NOにすると、プログラムそのもののキー・アサインで発音します。

必要がない限り、通常はNOに設定しておきます。

## Page 15: Pan

トラック1～16のパン(リアパネルのアウトプット端子1/L/MONO, 2/Rへの出力)を設定します。ただし、インサート・エフェクトを使用するときは、インサート・エフェクトへの入力のパンとなります。



## Pan [OFF, L000...C064...R127, PROG]

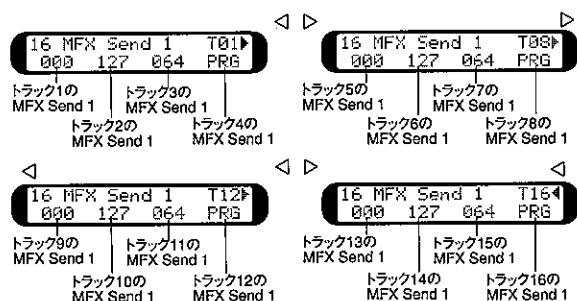
PROGにすると、プログラムで設定されているパンの設定になります。

**[MIDI]** パンポット(CC#10)を受信すると、パンの設定値が変わります(ただし、この設定がL000～R127のときのみ)。

## Page 16: MFX Send 1

トラック1～16のセンド・レベル(マスター・エフェクト1への入力レベル)を設定します。

これは、同時にリアパネルのアウトプット端子3,4への出力レベルになります。



## MFX Send 1 [0...127, PRG]

PRGにすると、プログラムで設定されているセンド・レベルの設定になります。

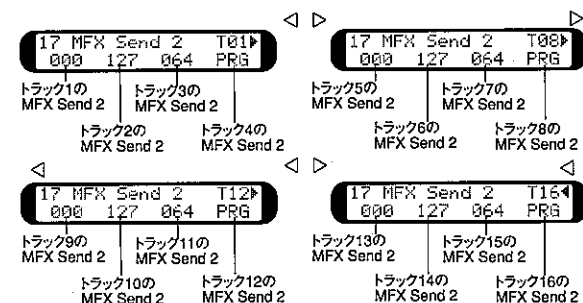
**[MIDI]** インサート・エフェクトがONのとき、この設定は無効になります。

**[MIDI]** エフェクト3・レベル(CC#93)を受信すると、この設定が変わります(ただし、この設定が0～127のときのみ)。

## Page 17: MFX Send 2

トラック1～16のセンド・レベル(マスター・エフェクト2への入力レベル)を設定します。

これは、同時にリアパネルのアウトプット端子3,4への出力レベルになります。



## MFX Send 2 [0...127, PRG]

PRGにすると、プログラムで設定されているセンド・レベルの設定になります。

**[MIDI]** インサート・エフェクトがONのとき、この設定は無効になります。

**[MIDI]** エフェクト1・レベル(CC#91)を受信すると、この設定が変わります(ただし、この設定が0～127のときのみ)。

## Page 18: InsrFX Size

ここでは、インサート・エフェクトのサイズやグルーピングを設定します。

マルチのインサート・エフェクトを設定するときは、エフェクト・サイズの合計を8以内におさめてください。できるだけ多くのインサート・エフェクトを使用したいときは、エフェクト・サイズを1にします。

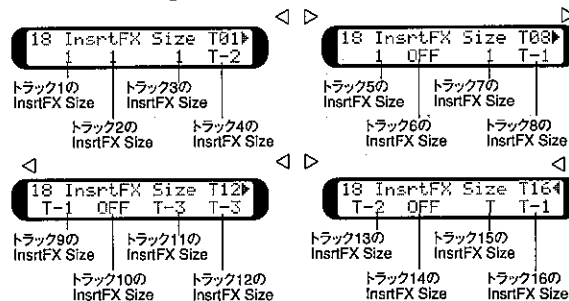
あるトラックで設定したインサート・エフェクトへ、他のトラックの音声信号を入力することができます。つまり、1つのトラックのインサート・エフェクトを複数のトラックで使用することができ、これをグルーピング機能といいます。

以上により、効果が似ているインサート・エフェクトを持つトラックごとにグループを作り、その中でグルーピング元になるトラックを決め、グルーピング元のインサート・エフェクトを設定することをお勧めします。

各トラックのインサート・エフェクトのパラメータは、「Page 19: IFX 1」以降で設定します。

詳しくは、別冊のEffect Guideを参照してください。

このページで選んだ(カーソル[◀]または[▶]キーで点滅させた)トラックがPage 19～27でエディットの対象となります。



**InsrFX Size** [OFF, 1, 2, 4, 8, T01...T16]

各トラックで使用するインサート・エフェクトのエフェクト・サイズ、グルーピング先を設定します。

1, 2, 4, 8にすると、「Page19: IFX1」以降でインサート・エフェクトの選択とエフェクトのパラメータの設定が行なえます。

ただし、トラック1~16のエフェクト・サイズの合計は8以内に設定します。

例えば、2つのトラックでエフェクト・サイズを4に設定したときは、他のトラックでエフェクト・サイズの設定(インサート・エフェクトの使用)ができません。

T01~T16に設定すると、他のトラックで設定したエフェクトとグルーピングすることができます。

例えば、トラック3でフランジャーを使用しているときにトラック5のエフェクト・サイズでT03を設定すると、トラック3はグルーピング元となり、トラック3とトラック5の音声信号は、トラック3のプログラムで設定されているフランジャーに入力されます。

**MIDI** トラックのMIDIチャンネルにチャンネルが一致するコントロール・メッセージで、そのトラックのインサート・エフェクトがコントロールできます。

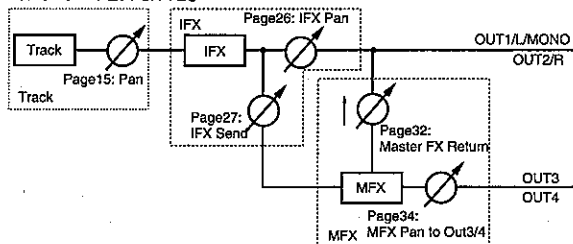
詳しくは、別冊の**Effect Guide**のP.9を参照してください。



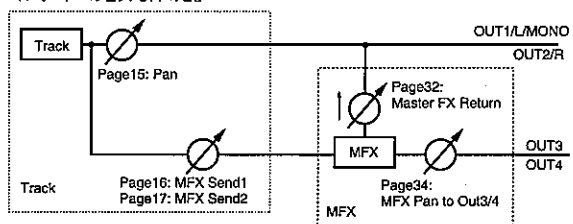
トラックで使用するインサート・エフェクトを選択し、そのパラメータを設定します。

インサート・エフェクトを使用したときと使用しないときでは信号の流れやパン、センドの調整箇所が以下のように異なります。

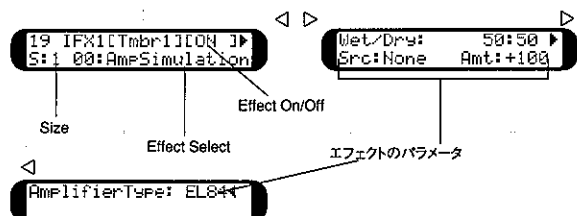
インサート・エフェクトONのとき



インサート・エフェクトOFFのとき



下の図は「Page19: IFX1(インサート・エフェクト1)」のLCD画面です。Page20~22ではIFX2~IFX4が表示されます。



「Page22: IFX4(インサート・エフェクト4)」はドラム・オンレータのプログラムを使用しているトラックを選択したときのみ設定できます。

「Page18: InsrFX Size」で選んだトラックのインサート・エフェクトがエディットの対象となり、LCD画面の上段に表示されます。トラックの切り替えはPage18で行ないます。

**S (Size)** [0, 1, 2, 4, 8]

インサート・エフェクトのサイズを設定します。

サイズによって選択できるインサート・エフェクトのタイプが異なります。

0にするとNo Effectで、インサート・エフェクトは選択できません。

1~4にすると、「Effect Select」でインサート・エフェクトを選択できます。

ただし、IFX1, IFX2...のサイズの合計は、「Page18: InsrFX Size」の値以下に設定してください。

**Effect On/Off** [OFF, ON]

エフェクトのOn/Offを設定します。

OFFにすると、バイパスになります。サイズ1のエフェクトが選ばれているときは、ドライ音もモノラルになります。ステレオで設定している各トラックのパン(「Page15: Pan」)を有効にする場合は、Sizeの設定を1以外にしてください。

**MIDI** この設定とは別に、エフェクト2コントロール(CC#92)で、すべてのトラックのインサート・エフェクトをまとめてOFFにすることができます。値が0のときOFFになり、1~127のとき元の設定に戻ります。このとき、グローバルMIDIチャンネルが使用されます。

**Effect Select**

エフェクト・タイプを選択します。ただし、サイズの設定によって、選択できるエフェクトが異なります。

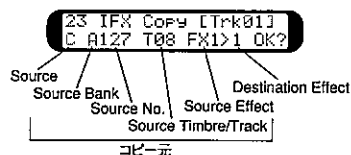
ここで選んだエフェクトのパラメータは、その右側の画面(カーソル[▶]キーで移動)で設定します。

それぞれのエフェクトについては、別冊の**Effect Guide**を参照してください。



現在選ばれているトラックのインサート・エフェクトへ、別のプログラム、コンビネーション、トラックで使用されているインサート・エフェクトの設定値をコピーします。

例えば、コンビネーションA127のティンバー8で使用されているインサート・エフェクト1を、トラック1のインサート・エフェクト1へコピーするときは、以下のように設定します。



**Source** [P, C, M]

コピー元をプログラム(P)、コンビネーション(C)、マルチ(M)の中から選びます。

**Source Bank [A...D]**

コピー元にプログラムまたはコンビネーションを選んだ場合、バンクを選びます。

**Source No. [000...127]**

コピー元にプログラムを選んだ場合はプログラム・ナンバーを、コンビネーションを選んだ場合はコンビネーション・ナンバーを選びます。

**Source Timbre/Track [T01...08, T01...16]**

コピー元にコンビネーションを選んだ場合はティンバー、マルチを選んだ場合はトラックを選びます。

**Source Effect [FX1...4, ALL]**

コピー元のインサート・エフェクトを選びます。

ALLにすると、使用されているすべてのインサート・エフェクトがコピーされます。

コピー元とコピー先がドラム・オシレータのプログラムを使用している場合は、FX4 (IFX4) が選択できます。

**Destination Effect [1...4]**

コピー先のインサート・エフェクトを選びます。

コピー先のトラックがドラム・オシレータのプログラムを使用している場合、4 (IFX4) が選択できます。

コピーの実行は、カーソル[▶]キーを押し“OK”を点滅させ、[+1/YES]キーを押します。

**▲ 以下のような場合は、コピーできません。**

1. コピー先のエフェクト・サイズがコピー元のエフェクト・サイズより小さい場合。  
LCD画面が以下のように表示されます。

Effect Size overflow

2. インサート・エフェクトが3個直列で使用されている場合、サイズ4のエフェクトをIFX2へコピーすることはできません。また、ドラム・オシレータのプログラムを使用したトラックで、インサート・エフェクトを4個直列で使用した場合は、サイズ4のエフェクトをIFX2またはIFX3へコピーすることができません。

LCD画面が以下のように表示されます。

Size4 Placement err

3. コピー元がインサート・エフェクトを使用していない場合やエフェクト・サイズが0の場合。  
LCD画面が以下のように表示されます。

Source effect is empty

**Page24: IFX Swap (Swap Insert Effect)**

現在選ばれているトラックのインサート・エフェクトが複数の場合、そのインサート・エフェクトの入れ替え(Swap)をします。例えば、トラック1で使用されているインサート・エフェクト1とインサート・エフェクト2をSwapするときは、以下のように設定します。

24 IFX Swap [Trk01]  
IFX1 < > IFX2 OK?

Swap Effect

**Swap Effect [IFX1...4]**

Swapするインサート・エフェクトを選びます。

現在選ばれているトラックがドラム・オシレータのプログラムを使用している場合、IFX4が選択できます。

Swapの実行は、カーソル[▶]キーを押し“OK”を点滅させ、[+1/YES]キーを押します。

- ▲ インサート・エフェクトが3個直列で使用されている場合、サイズ4のエフェクトをIFX2へSwapすることはできません。また、ドラム・オシレータのプログラムを使用したトラックで、インサート・エフェクトを4個直列で使用した場合は、サイズ4のエフェクトをIFX2 またはIFX3へSwapすることができません。

**Page25: IFX Chain**

各インサート・エフェクトの接続状態を設定します。

ただし、ドラム・オシレータのプログラムを使用しているときのみ、設定できます。それ以外の場合、LCD画面(下図右側)の下段には“Invalid. DrmPGM only”と表示されます。

例えば、4つのインサート・エフェクトのうちインサート・エフェクト2と3を直列に使用するときは、以下(下図左側)のように設定します。

25 IFX Chain [Trk01]  
1>2:OF 2>3:ON 3>4:OF

各インサート・エフェクトの接続設定

25 IFX Chain [Trk01]  
Invalid. DrmPGM only

トラックにドラム・オシレータのプログラムが使用されていない場合

- 1>2 [OF, ON]  
2>3 [OF, ON]  
3>4 [OF, ON]

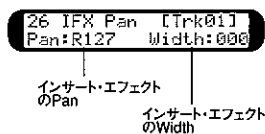
OF(OFF)にすると各エフェクトを並列に(個別に)使用します。

ONにすると各エフェクトを直列に接続します。

インサート・エフェクトの接続状態については別冊の**Effect Guide**のP.5「Program—Drums OSCモード」を参照してください。

## Page26: IFX Pan (Pan/Width)

インサート・エフェクト通過後のPan(パンポット)とWidth(左右への広がり)を調整します。

**Pan (Panpot)** [OFF, L000...C064...R127]

インサート・エフェクト通過後のパンを調整します。

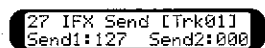
**Width** [0...127]

インサート・エフェクト通過後の左右の広がりを設定します。

設定した値が大きい程、左右に広がります。

## Page27: IFX Send (Send1, Send2)

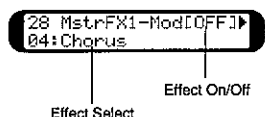
マスター・エフェクトへのセンド・レベルを設定します。

**Send1, 2** [0...127]

## Page28, 29: MstrFX1-Mod/MstrFX2-Rev (Effect/Effect2-Setting)

Page28でマスター・エフェクト1(モジュレーション)を、Page29でマスター・エフェクト2(リバーブ)のエフェクトを選択し、そのパラメータを設定します。

下の図はPage28: MstrFX1-ModのLCD画面です。Page29ではMstrFX2-Revが表示されます。

**Effect On/Off** [OFF, ON]

マスター・エフェクトのOn/Offを設定します。

**MIDI** この設定とは別に、マスター・エフェクト1はエフェクト4コントロール(CC#94)でオフすることができ、マスター・エフェクト2はエフェクト5コントロール(CC#95)でオフすることができます。どちらも、値が0のときオフになり、1~127のとき元の設定に戻ります。なお、このとき、グローバルMIDIチャンネルが使用されます。

**Effect Select**

エフェクト・タイプを選択します。

マスター・エフェクト1にはモジュレーション系のエフェクトが選択でき、マスター・エフェクト2にはリバーブ/ディレイ系のエフェクトが選択できます。

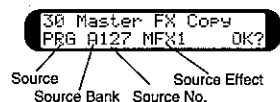
ここで選んだエフェクトの設定は、その右側の画面(カーソル[▶]キーで移動)で行ないます。

それぞれのエフェクトについては、別冊の**Effect Guide**を参照してください。

## Page30: Master FX Copy (Copy Master Effect)

現在選ばれているマルチのマスター・エフェクトへ、プログラム、コンビネーションのマスター・エフェクトの設定値をコピーします。

例えば、プログラムA127で使用されているマスター・エフェクト1をコピーするときは、以下のように設定します。

**Source** [PRG, CMB, MLT]

コピー元をプログラム(PRG)、コンビネーション(CMB)、マルチ(MLT)の中から選びます。

**Source Bank** [A...D]

コピー元にプログラムまたはコンビネーションを選んだ場合、バンクを選びます。

**Source No.** [000...127]

コピー元にプログラムを選んだ場合はプログラム・ナンバーを、コンビネーションを選んだ場合はコンビネーション・ナンバーを選びます。

**Source Effect** [MFX1, MFX2, ALL]

コピー元のマスター・エフェクトを選びます。

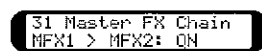
ALLにすると、マスター・エフェクト1,2がコピーされます。

コピーの実行は、カーソル[▶]キーを押し"OK"を点滅させ、[+1/YES]キーを押します。

## Page31: Master FX Chain

マスター・エフェクトの接続状態を設定します。

例えば、マスター・エフェクト1とマスター・エフェクト2を直列に使用するとき、以下のように設定します。



マスター・エフェクト1,2の接続状態

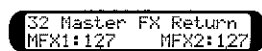
**MFX1>MFX2** [OFF, ON]

OFFにするとマスター・エフェクト1とマスター・エフェクト2が並列に使用されます。

ONにするとマスター・エフェクト1とマスター・エフェクト2が直列に接続されます。(マスター・エフェクト1の出力はマスター・エフェクト2へ送られます。)

## Page32: Master FX Return

マスター・エフェクトからアウトプット端子1/L/MONO,2/Rへ送られる信号のレベルを調整します。



マスター・エフェクト1のReturn  
マスター・エフェクト2のReturn



**MFX1 [0...127]**

マスター・エフェクト1からアウトプット端子1/L/MONO、2/Rへ送られる信号のレベルを調整します。

**MFX2 [0...127]**

マスター・エフェクト2からアウトプット端子1/L/MONO、2/Rへ送られる信号のレベルを調整します。

アウトプット端子1/L/MONO、2/Rへは、Pan L,R経由の信号と、このMaster FX Returnでレベルを調整したマスター・エフェクト1、マスター・エフェクト2からの信号が、ミックスされて出力されます。

**Page33: Master EQ dB**

アウトプット端子1/L/MONO、2/Rに出力される信号の音質を調整します。

**Lo (Low Gain) [-18.0...+18.0]**

低音域のレベルを調整します。  
単位は[dB]です。

**Hi (High Gain) [-18.0...+18.0]**

高音域のレベルを調整します。  
単位は[dB]です。

**Page34: MFX-Pan to Out3/4 (Pan1/2)**

アウトプット端子3,4へのパンを調整します。

**M1 [OFF, L, 99:01...01:99, R]**

マスター・エフェクト1からアウトプット端子3,4へのパンを調整します。

**M2 [OFF, L, 99:01...01:99, R]**

マスター・エフェクト2からアウトプット端子3,4へのパンを調整します。

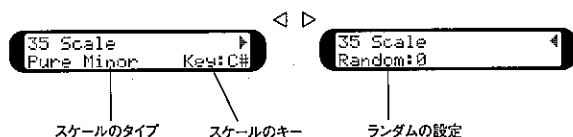
OFFにすると、アウトプット端子3,4へは出力されません。

Lにすると、アウトプット端子3だけに出力されます。

Rにすると、アウトプット端子4だけに出力されます。

**Page35: Scale**

マルチで使用するスケールを設定します。



スケールのタイプ

スケールのキー

ランダムの設定

**Type (Scale Type) [Equal Temp...All Range User]**

スケールのタイプを選択します。

スケールのタイプはCombination Editモードの「Page44: Scale」(※本誌P.48)を参照してください。

**Key (Scale Key) [C...B]**

選んだスケールの主調和音のキーを選択します。

**Random [0...7]**

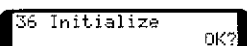
設定した値が大きい程、発音時のピッチが不規則にズレます。

テープ式オルガンやアコースティック楽器のように、ピッチが不安定になりがちな楽器を再現するのに向いています。

通常は0に設定します。

**Page36: Initialize**

トラックのパラメータ設定を初期化します。



初期化をするには、[+1/YES]キーを押してください。

LCD画面の下段に“Are you sure”と表示されます。もう一度[+1/YES]キーを押してください。

“Completed”と表示され初期化が完了します。

初期化されるパラメータやパラメータの値については本誌P.74「付録-3. Initialize実行時の設定データ」を参照してください。

**Page37: Copy from Comb**

指定したコンビネーションのパラメータをマルチの設定データとしてコピーします。

コピーを実行すると、今までマルチで設定されていたデータは消去され、指定したコンビネーションの設定に書き替わりますので注意してください。

例えば、コンビネーションA000の設定データをマルチのトラック1から8へコピーするときは以下のように設定します。

**from [A000...D127]**

コピー元にするコンビネーション・ナンバーを選びます。

**to [T01-08, T09-16]**

コピー先のトラックを選びます。

T01-08にすると、コンビネーションの設定がトラック1~8へコピーされます。

T09-16にすると、コンビネーションの設定がトラック9~16へコピーされます。

**with FX [NO, YES]**

fromで選択したコンビネーションのエフェクト(インサート・エフェクト、マスター・エフェクト)の設定をコピーするかどうかを指定します。

コピーの実行は、カーソル[▶]キーを押して“OK”を点滅させ、[+1/YES]キーを押します。

## 6. Globalモード

マスター・チューニング、MIDIの設定、メモリー・プロテクト等、本体全体に関わる設定を行ないます。

各ページでは、LCD画面上段にパラメータ名が、下段にパラメータの値や設定が表示されます。

1 Master Tune  
+50 [452.89Hz]

パラメータの値

変更した設定を保存するときは、ライトしてください。ライトせずに電源をOFFにしてしまうと、変更前の設定に戻ってしまいます。

### Page1: Master Tune

全体の基本となるチューニング(調律)を、セント単位(半音=100セント)±50セントの範囲で行ないます。

1 Master Tune  
+50 [452.89Hz]

マスターチューンの値

#### Master Tune

[-50...+50]

＋の値にすると、ピッチが上がります。

－の値にすると、ピッチ下がります。

0のとき440Hz(A4の周波数)です。

**MIDI** TR-Rackのチューニングは、グローバルMIDIチャンネルのMIDI RPNファイン・チューン・メッセージによっても調律できます(SG ProXはこのメッセージを送信できます)。ただし、Multiモードのときは、このメッセージをトラックごとに設定してある個別のMIDIチャンネルで受信し、トラックのデチューンを調整します。

### Page2: Key Transpose

音程を半音単位、±1オクターブの範囲で設定します。

2 Key Transpose  
-2

キー・トランスポーズの値

#### Key Transpose

[-12...+12]

＋の値にすると、音程が上がります(+12で+1オクターブ上がります)。

－の値にすると、音程下がります(-12で-1オクターブ下がります)。

### Page3: MIDI Channel

グローバルMIDIチャンネルを設定します。

3 MIDI Channel  
16

MIDIチャンネル

#### MIDI Channel

[1...16]

**MIDI** グローバルMIDIチャンネルは、Program Playモード中に演奏情報を受信するとき、Combination Playモード中にMIDIでコンビネーションを切り替えるとき、各モードでMIDIでマスター・エフェクトをコントロールするとき、また、システム・エクスクルーシブ・メッセージを送受信するときに使われます。

#### MIDIの受信について

Program Playモードのときは、グローバルMIDIチャンネルのMIDIデータで演奏されますが、Combination PlayモードやMultiモードのときは、ティンバーごとやトラックごとに設定されているMIDIチャンネルと一致するMIDIデータで演奏されます。

Combination Playモードのとき、グローバルMIDIチャンネルで受信したプログラム・チェンジによってコンビネーションが切り替わります。

MIDIでマスター・エフェクトをコントロール(エフェクトのOn/Off、ダイナミック・モジュレーション)するときは、グローバルMIDIチャンネルのMIDIデータで行ないます。

コンビネーションやマルチのインサート・エフェクトをコントロールするときは、該当するティンバーやトラックのMIDIチャンネルで行ないます。

### Page4: Curve

受信したアフタータッチやベロシティの感度(レスポンス)を設定します。

4 Curve  
Vel:4 A.T:3

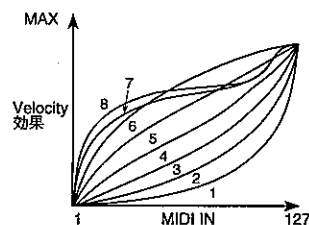
ベロシティ・カーブ      アフタータッチ・カーブ

#### Vel (Velocity)

[1...8]

ベロシティの強弱による音量や音色等の変化は、ここで選択したカーブにしたがって、その度合いが変わります。

受信したノート・データのベロシティ値に対し、ベロシティ効果が、下のグラフのように変化します。外部のキーボードやシーケンサで本機の音源を発音させる場合、全体的に音が明るすぎたり、暗すぎたりするときは、ここで適切なベロシティ・カーブを選んでください。



7,8のカーブは、中打鍵時には一定の効果を得られるので、ペロシティを必要としない場合や音の強さをそろえたい場合等に向きますが、弱打鍵時のコントロールは難しい、というように、カーブにはそれぞれの特徴があるので、自分のペロシティの強さ、演奏スタイル、得たい効果などを考え、カーブを使い分けてください。

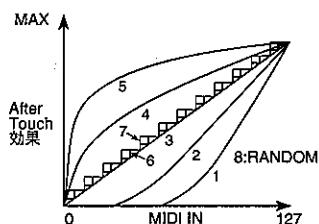
- 1: 強く弾かないと大きな効果が得られない
- 2: }
- 3: }
- 4: ペロシティの強弱で効果が調整できる(標準的なカーブ)
- 5: }
- 6: あまり強く弾かなくても大きな効果が得られる
- 7: 中打鍵時では、ほぼ一定した効果が得られる
- 8: 中打鍵時では、7より一定した効果が得られる

### A.T (Aftertouch)

[1...8]

アフタータッチの強弱による音量や音色等の変化は、ここで選択したカーブにしたがって、その度合いが変わります。

受信したアフタータッチに対し、アフタータッチ効果が、下のグラフのように変化します。

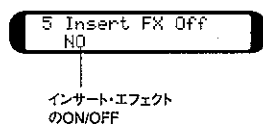


6,7のカーブは、それぞれ24, 12段階で変化します。

1~5のカーブは、細かくコントロールしたいときに使用します。  
8のカーブはランダムで、特殊効果を得たいときや、アフタータッチで不規則な揺らぎを得たいというときに使用します。

- 1: 強く押し込まないと大きな効果が得られない
- 2: }
- 3: アフタータッチの強弱で効果が調整できる(標準的なカーブ)
- 4: }
- 5: あまり強く押し込まなくても効果が得られる
- 6: アフタータッチの強弱で効果が調整できるが、変化が大きい(24段階)
- 7: アフタータッチの強弱で効果が調整できるが、変化が大きい(12段階)
- 8: ランダム

各モードで使用されているインサート・エフェクトをオフにするかどうかを設定します。



### Insert FX Off

[NO, YES]

YESにすると、すべてのインサート・エフェクトがOffになります。

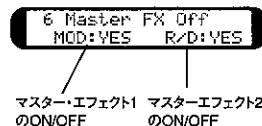
NOにすると、すべてのインサート・エフェクトは、Program Editモードの「Page16~19: IFX1~IFX4」、Combination Editモードの「Page28~31: IFX1~IFX4」、Multiモードの「Page19~22:

IFX1~IFX4」のOn/Offの設定になります。

本機の電源を入れ直すと、設定はNOになります。



各モードで使用されているマスター・エフェクトをオフにするかどうかを設定します。



### Mod

[NO, YES]

YESにすると、[MFX1] (モジュレーション系のマスター・エフェクト)がOffになります。

NOにすると、[MFX1]は、Program Editモード「Page25: MstrFX1-Mod」、Combination Editモード「Page37: MstrFX1-Mod」、Multiモードの「Page28: MstrFX1-Mod」のOn/Offの設定になります。

### R/D

[NO, YES]

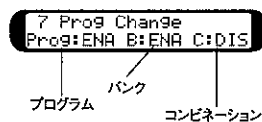
YESにすると、[MFX2] (リバブ/ディレイ系のマスター・エフェクト)がOffになります。

NOにすると、[MFX2]は、Program Editモード「Page26: MstrFX2-Rev」、Combination Editモード「Page38: MstrFX2-Rev」、Multiモードの「Page29: MstrFX2-Rev」のOn/Offの設定になります。

本機の電源を入れ直すと、設定はNOになります。



プログラム・チェンジ、バンク・セレクトを受信するかどうかを設定します。



### Prog (Enable Program Change)

[DIS, ENA]

MIDI MIDIプログラム・チェンジを受信するかどうかを設定します。

ENAにすると、プログラム・チェンジを受信します。ただし、B(Enable Bank Change)とC(Enable Combination Change)の設定に従います。

Program Playモードのときは、グローバルMIDIチャンネルとチャンネルが一致するプログラム・チェンジを受信すると、プログラムが切り替わります。

Combination Playモードのときは、グローバルMIDIチャンネルとチャンネルが一致するプログラム・チェンジを受信すると、コンビネーションが切り替わりますが、「Enable Combination Change」の設定によって、切り替わらないようにすることができます。

各ティンバーのチャンネル(Combination Editモード「Page3: Channel」で設定)とチャンネルが一致するプログラム・チェンジを受信すると、そのティンバーのプログラムが切り替わります。

Multiモードのときは、トラックに設定されているチャンネル(Multiモード「Page3: Channel」で設定)とチャンネルが一致するプログラム・チェンジを受信すると、そのトラックのプログラムが切り替わります。

DISにすると、プログラム・チェンジを受信しません。

**B (Enable Bank Change) [DIS, ENA]**

**MIDI** バンク・セレクトを受信するかどうかを設定します。

Prog(Enable Program Change)がENAのときに有効となります。

ENAにすると、バンク・セレクトとプログラム・チェンジの両方を受信します。

DISにすると、プログラム・チェンジだけを受信します。

**C (Enable Combination Change) [DIS, ENA]**

**MIDI** この設定は、Combination Playモード時に適用されます。

Prog(Enable Program Change)がENAのときに有効となります。

ENAにすると、グローバルMIDIチャンネルとチャンネルが一致するプログラム・チェンジによって、コンビネーションが切り替わります。

DISにすると、グローバルMIDIチャンネルとチャンネルが一致するプログラム・チェンジを受信してもコンビネーションは切り替わりません。

受信したプログラム・チェンジのMIDIチャンネルとティンバーのMIDIチャンネルが一致する場合は、そのティンバーのプログラムが切り替わります。ただし、そのチャンネルがグローバルMIDIチャンネルと一致するときだけ、この設定に従います。



アフタータッチ、コントロール・チェンジ等を受信するかどうかを設定します。



**A.T (Enable Aftertouch) [DIS, ENA]**

**MIDI** アフタータッチを受信するかどうかを設定します。

ENAにすると、アフタータッチを受信します。

DISにすると、アフタータッチを受信しません。

**Ctrl (Enable Control Change) [DIS, ENA]**

**MIDI** コントロール・チェンジ(ピッチベンド、ダンパーペダル、ボリューム、ジョイスティック等のコントローラのメッセージ)を受信するかどうかを設定します。

ENAにすると、コントロール・チェンジを受信します。

DISにすると、コントロール・チェンジを受信しません。

**Exclusive (Enable Exclusive) [DIS, ENA]**

**MIDI** システム・エクスクルーシブ・データ(プログラム、コンビネーション等の音色データ)を受信するかどうかを設定します。

ENAにすると、エクスクルーシブ・データを受信します。

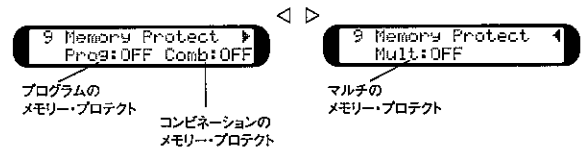
コンピュータなどを接続して、本機をエディットするときは、ENAにしておきます。

DISにすると、エクスクルーシブ・データを受信しません。通常は、DISにしておきます。

ただし、「Page11: Data Dump」を表示しているときは、この設定とは関係なく、送受信できます。



各メモリーにプロテクトをかけるかどうかを設定します。



**Prog (Protect Program Memory) [OFF, ON]**

本体内のプログラム・メモリーにプロテクトをかけるかどうかを設定します。

ONにすると、本体内のプログラム・メモリーにプロテクトがかかり、以下の書き込みが禁止されます。

- プログラムのライト
- プログラムのプリセット・データのロード
- MIDIデータ・ダンプでのプログラム・データの受信

OFFにすると、本体内のプログラム・メモリーに書き込みができます。

**Comb (Protect Combination Memory) [OFF, ON]**

本体内のコンビネーション・メモリーにプロテクトをかけるかどうかを設定します。

ONにすると、本体内のコンビネーション・メモリーにプロテクトがかかり、以下の書き込みが禁止されます。

- コンビネーションのライト
- コンビネーションのプリセット・データのロード
- MIDIデータ・ダンプでのコンビネーション・データの受信

OFFにすると、本体内のコンビネーション・メモリーに書き込みができます。

**Multi (Protect Multi Memory) [OFF, ON]**

本体内のマルチ・メモリーにプロテクトをかけるかどうかを設定します。

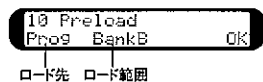
ONにすると、本体内のマルチ・メモリーにプロテクトがかかり、以下の書き込みが禁止されます。

- マルチのライト
- MIDIデータ・ダンプでのマルチ・データの受信

OFFにすると、本体内のマルチ・メモリーに書き込みができます。

## Page 10: Preload

各メモリーに出荷時のデータをロードします。



### ロード先 [Prog, Comb, All]

ロードするデータを選びます。

**Prog**にすると、プログラムメモリーに出荷時のデータがロードされます。

**Comb**にすると、コンビネーションメモリーのデータがロードされます。

**All**にすると、全プログラム、全コンビネーション、全ドラムキット、グローバルのデータがロードされます。

### ロード範囲 [All, BankA...D, A000...D127]

データのロード範囲を選びます。

ロード先がProgまたはCombの時のみ、選ぶことができます。

**All**にすると、全プログラムまたは全コンビネーションのデータがロードされます。

**BankA~D**にすると、ロード先で選択したプログラム(またはコンビネーション)のバンクの全データがロードされます。

**A000~D127**にすると、プログラム(またはコンビネーション)ナンバーのデータがロードされます。

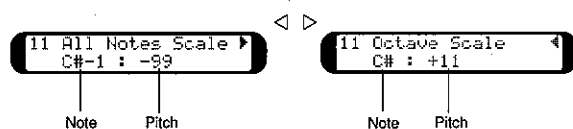
ロードの実行はカーソル[▶]キーを押し「OK」を点滅させ、[+1/YES]キーを押します。

ロードを行なう場合は、あらかじめGlobalモードの「Page9: Memory Protect」でメモリーのプロテクトをOFFにしてください。

## Page 11: All Note Scale/Octave Scale

2種類のユーザー・スケールを設定します。

ここで設定したスケールは、Combination Editモードの「Page44: Scale」やMultiモードの「Page35: Scale」で選択できます。



### All Note Scale

128鍵(C-1からG9)の音階を個別に設定し、オリジナルの音階をつくります。

#### Note [C-1...G9]

調整する音名を選びます。

#### Pitch [-99...+99]

平均律を基準にセント単位で調整します。

-99にすると、基準のピッチより約半音低くなります。

+99にすると、基準のピッチより約半音高くなります。

### Octave Scale

1オクターブ(C~B)分のピッチを設定します。

設定したピッチが全音域で反映されます。

#### Note [C...B]

調整する音名を選びます。

#### Pitch [-99...+99]

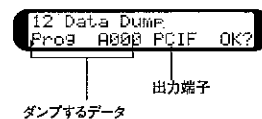
平均律を基準にセント単位で調整します。

-99にすると、基準のピッチより約半音低くなります。

+99にすると、基準のピッチより約半音高くなります。

## Page 12: Data Dump

接続したもう1台のTRINITYシリーズ、MIDIデータ・ファイラー、コンピュータなどへ、本体のエクスクルーシブ・データを送信します。



上のLCD画面はプログラムA000のデータをPC I/F端子から送信することを表しています。

ダンピングのしかたについては本誌 P.21を参照してください。

ページ12が選ばれているときは、「Page8: MIDI Filter」のExclusiveの設定とは関係なくダンピング・データを送受信します。

もう1台のTRINITYシリーズへMIDIデータを送信し、それらのプログラムや、コンビネーションを変えたいときは、双方のグローバルMIDIチャンネルを合わせます。

データ・ファイラーへMIDIデータを送信する場合、通常はMIDIチャンネルを合わせる必要はありません。

	送信データ
Dump Program	全バンクのプログラム、任意のバンクのプログラム、1プログラム、
Dump Combination	全バンクのコンビネーション、任意のバンクのコンビネーション、1コンビネーション、
Dump Drum Kit	全ドラムキット、1ドラムキット
Dump Global	グローバル・パラメータ
Dump Multi	マルチ
Dump All	全バンクのプログラム+コンビネーション+ドラムキット+グローバル・パラメータ+マルチ

⚠ データ・ダンピングの実行中は、本体のスイッチ類に触れないでください。

⚠ ダンピング・データ受信後のメモリーへの書き込み処理をしている途中で本機の電源をOFFしないでください。電源をONしても本機が正常に動作しなくなることがあります。このような場合は、[EDIT]キーと[A4]キーを押しながら電源を入れてください。ただし、このとき本機の内部データが初期化されますのでGlobalモード「Page10: Preload」で「ALL」を選択してプリロード・データの読み込みをしてください。

⚠ 本機では、ダンピング・データを受信するとメモリーへデータを書き込むために約6秒かかります。この間MIDIデータの送受信はできません。本機で複数のダンピング・データの受信を続け

て行なうときは必ず各ダンプ・データの送信間隔を6秒以上あけてください。メモリーへの書き込み処理中はLCD上の文字の点滅が止まります(文字を表示または表示せず)。

本機からダンプ・データをMIDIデータ・ファイラーに保存する場合は、複数のダンプ・データをまとめて保存しないでください。まとめて保存してしまうと、本機が受信できなくなります。

本機がメモリーへ書き込み処理をしている間は、MIDI OUT端子やPC/IF端子からのアクティブセンス(Feh)の出力が止まります。

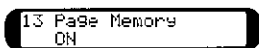
下の表は、ダンプを行なうデータのサイズと、ダンプ時の所要時間です。

ダンプするデータの種類	データ・サイズ(kBytes)	所要時間(Sec)
All Data	525.4	168.2
All Programs	253.4	81.1
1 Program Bank	63.3	20.3
1 Program	0.5	0.2
All Combinations	227.0	72.7
1 Combination Bank	56.8	18.2
1 Combination	0.4	0.2
All Drumkits	39.1	12.6
1 Drumkit	1.6	0.6
Global Parameter	1.3	0.5
Multi*1	4.6	1.5

\*1 マルチのデータはTRINITYシリーズのSequence Dataのフォーマットを利用してソング00として送信されます。同時にソング01~19、その他のデータも送信されますが無効なデータとなっています。TRINITYシリーズからTR-Rackへソング・データをダンプするとTR-RackはTRINITYシリーズのソング00のみを受信します。

### Page 13: Page Memory

ページ・メモリー機能のON/OFFを設定します。



ページ・メモリーの設定

### Page Memory [OFF, ON]

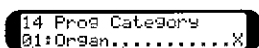
ONにすると、あるモードから抜けて他のモードに移り、また戻ってきたときに前回抜けたときに選んでいたページ(パラメータ)が表示されます。

OFFにすると、モード移動時に毎回そのモードの最初のページが表示されます。

### Page 14: Prog Category

Program Playモードでプログラムを検索するときに使用するカテゴリー名を設定します。

出荷時には、楽器別のカテゴリー名が登録されています。



Category No.  
Category Name

### Category No. [01...16]

カテゴリーを選びます。  
カテゴリーは16種類あります。

### Category Name

カーソル[◀]または[▶]キーで文字を選び、[+1/YES]または[-1/NO]キーで文字を変更します。

以下の文字が使用できます。

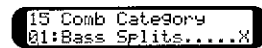
	!	"	#	\$	%	&	'	(	)	*	+	,	-	.	/
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	:	;	<	=	>	?
@	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	[	¥	]	^	_
`	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
P	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z	{		}	~	←

リネームしたカテゴリー名を記憶させる場合は、ライトの操作(※Basic編 P.10)を行なってください。ライトする前に他のモードに移ったり、電源をOFFにすると、せっかくリネームしたカテゴリー名が失われてしまいます。

### Page 15: Comb Category

Combination Playモードでコンビネーションを検索するときに使用するカテゴリー名を設定します。

出荷時には、楽器別のカテゴリー名が登録されています。



Category No.  
Category Name

### Category No. [01...16]

カテゴリーを選びます。  
カテゴリーは16種類あります。

### Category Name

カーソル[◀]または[▶]キーで文字を選び、[+1/YES]または[-1/NO]キーで文字を変更します。

以下の文字が使用できます。

	!	"	#	\$	%	&	'	(	)	*	+	,	-	.	/
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	:	;	<	=	>	?
@	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	[	¥	]	^	_
`	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
P	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z	{		}	~	←

リネームしたカテゴリー名を記憶させる場合は、ライトの操作(※Basic編 P.10)を行なってください。ライトする前に他のモードに移ったり、電源をOFFにすると、せっかくリネームしたカテゴリー名が失われてしまいます。

## Page 16: P/C Select

リア・パネルのPC I/F端子に接続したコンピュータとのデータの転送レートを設定します。

16 P/C Select  
31.25kBPS

P/C Selectの値

### P/C Select [31.25, 38.4]

IBM PC(互換機)と接続する場合、またはNEC PC-9800シリーズのSERIAL2端子を使って接続する場合は38.4に設定します。

Apple Macintoshと接続する場合、またはNEC PC-9800シリーズのSERIAL1(RS-232C)端子を使って接続する場合は31.25に設定します。

## Page 17: System Clock

本機のシステム・クロックを設定します。

オプションのDI-TRIを搭載したときに、ADAT Opticalフォーマット対応機器に同期させることができます。

17 System Clock  
Internal

### System Clock [Internal, Word Clock]

**Internal**にすると、本機内部のクロックで動作します。

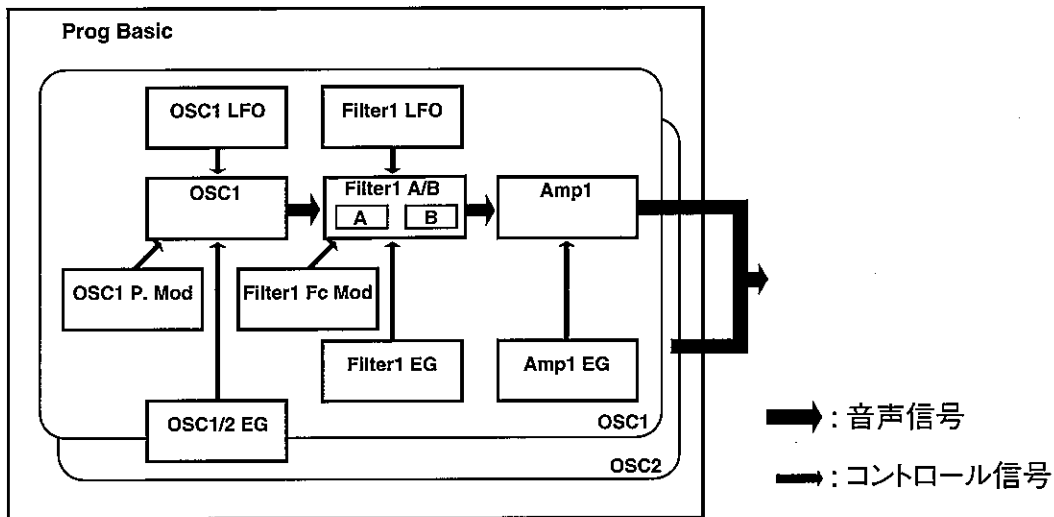
**Word Clock**にすると、接続されたADAT Opticalフォーマット対応機器のシステム・クロックに同期します。

- ⚠ オプションのDI-TRIを搭載していない場合はInternal固定となり、Word Clockは選択できません。
- ⚠ この設定は、電源をONにすると常に“Internal”に設定されます(ライトしてもメモリーに記憶されません)。

## 付録

## 1. TR-Rackの構造

TR-Rackでは、TRINITYシリーズで使用されているACCESS音源を搭載しています。  
 TR-Rack本機のプログラム・エディットは、あらかじめプリロードされているプログラム音色の調整だけにとどめていますが、TRINITYシリーズやエディット・ソフトを使用すると、プログラム音色のフルエディットやドラム・キットのエディットが可能になります。  
 本機内部の音源の構成図とパラメータは以下のとおりです。



- OSC:** オシレータの基本的な設定やマルチ・サンプル、ドラム・キットの選択をします。
- OSC P.Mod:** オシレータにモジュレーションをかけてピッチを変化させるための設定をします。
- OSC LFO:** オシレータのピッチを周期的に変化(ビブラート効果)させるLFOの設定をします。
- OSC EG:** オシレータにピッチの時間的変化を与えるオシレータEGの設定をします。
- FilterA/B:** フィルターA、Bの接続やカットオフ周波数を設定をします。
- Filter Fc Mod:** フィルターのカットオフ周波数にモジュレーションをかけて、音色を変化させるための設定をします。
- Filter LFO:** フィルターのカットオフ周波数を周期的に変化させるLFOの設定をします。
- Filter EG:** フィルターのカットオフ周波数を時間的に変化させるEGを設定します。
- Amp:** 音量と、その変化を設定します。
- Amp EG:** 音量の時間的変化を設定します。



## プログラムのパラメータ

	Parameter		Value		
OSC Basic	Oscillator Mode		single, double, drums		
	Assign/Hold	Key Assign		Poly, Mono	
		Legato		OFF, ON	
		Priority		Low, High, Last	
		Single Trig		OFF, ON	
		Hold		OFF, ON	
	Scale	Type		Equal Temp...User Scale	
		Key		C...B	
		Random		0...7	
	Velocity Switch	OSC1 Switch		1...127	
		OSC2 Switch		1...127	Oscillator Mode=doubleのみ
		OSC2 Bottom		1...127	Oscillator Mode=doubleのみ
OSC1 (Oscillator Mode =single,double)	OSC Multisample	Higher Multisample	0...374		
		Lower Multisample	0...374		
		Higher Start Offset	Normal, Offset		
		Lower Start Offset	Normal, Offset		
		Higher Level	0...127		
		Lower Level	0...127		
		Delay	0ms...5000ms, KeyOff		
		Octave	32...4		
		Transpose	-12...+12		
		Tune	-1200...+1200		
Drumkit (Oscillator Mode =drums)	Drumkit		0...23		
	Delay		0ms...5000ms, keyOff		
	Octave		32...4		
	Transpose		-12...+12		
	Tune		-1200...+1200		
OSC1 P.Mod	Pitch Slope		-1.0...+2.0		
	by Ribbon(X)		-12...+12		
	by JS(+X)	Intensity		-60...+12	
		Step		Continuous, 1/8...12	
	by JS(-X)	Intensity		-60...+12	
		Step		Continuous, 1/8...12	
	by Alternate Modulation	AMS		OFF...Tempo	
		Intensity		-12.00...+12.00	
	by Oscillator EG	Intensity		-12.00...+12.00	
		mod by Velocity		-99...+99	
		mod by Alternate Modulation	AMS	OFF...Tempo	
	by Oscillator1 LFO	Intensity		-12.00...+12.00	
mod by JS(+Y)			0...99		
mod by Aftertouch			0...99		
mod by Alternate Modulation		AMS	OFF...Tempo	OSC2では、OFF~Filter LFO	
Intensity			-12.00...+12.00		
OSC1 LFO	Wave form		Triangle 0...Random6		
	Frequency		00...99		
	Offset		-99...+99		
	Start Mode		Key On, Key Off, Both		
	Key Sync		Off/On		
	Delay		0...99		
	Fade		-99...+99		
	Frequency Modulation	by Keyboard Track		-99...+99	
by JS(+Y)			00...99		
by Alternate Modulation		AMS	OFF...Tempo	OSC2では、OFF~Filter LFO	
OSC1/2 EG	Level		Start	-99...+99	
			Attack	-99...+99	
			Release	-99...+99	
	Time		Attack	0...99	
			Decay	0...99	
			Release	0...99	
	Time Modulation	by Velocity		-99...+99	
		by Alternate Modulation	AMS	OFF...Filter1 LFO	
	Intensity		-99...+99		

Filter1	Routing			parallel, serial, single, thru				
	Filter1A	Type			Low Pass...Band Reject			
		Cutoff Frequency			00...99			
		Trim			00...99			
		Resonance			00...31			
	Filter1B	Resonance Mod By Vel			-99...+99			
		Type			Low Pass...Band Reject			
		Cutoff Frequency			00...99			
		Trim			00...99			
Filter1 Fc Mod	of Filter1A	Keyboard Track	Lower Key	C-1...G9				
			Higher Key	C-1...G9				
			Lower Ramp	-99...+99				
			Higher Ramp	-99...+99				
		by JS(X)		-99...+99				
		by Aftertouch		0...99				
	of Filter1B	Keyboard Track	AMS	OFF...Tempo	Filter2では、OFF~Filter LFO			
			Intensity	-99...+99				
			Lower Key	C-1...G9				
			Higher Key	C-1...G9				
		Lower Ramp	-99...+99					
		Higher Ramp	-99...+99					
	by JS(X)		-99...+99					
	by Aftertouch		0...99					
	of Filter1 EG	by Alternate Modulation	AMS	OFF...Tempo	Filter2では、OFF~Filter LFO			
			Intensity	-99...+99				
		Filter1A Int			-99...+99			
			Filter1B Int			-99...+99		
				Filter1A Int by Vel			-99...+99	
					Filter1B Int by Vel			-99...+99
	Alternate Modulation	AMS		OFF...Tempo				
		Intensity	-99...+99					
	by Filter1 LFO	Filter1A Int			-99...+99			
			Filter1B Int			-99...+99		
		mod by JS(-Y)				0...+99		
		mod by Aftertouch			0...99			
		mod Alternate Modulation	AMS	OFF...Tempo	Filter2では、OFF~Filter LFO			
			Intensity	-99...+99				
Filter1 EG	Level		Start	-99...+99				
			Attack	-99...+99				
			Break	-99...+99				
			Sustain	-99...+99				
			Release	-99...+99				
	Time		Attack	00...99				
			Decay	00...99				
			Slope	00...99				
			Release	00...99				
	Time Modulation	by Keyboard Track	Attack	-99...+99				
			Decay	-99...+99				
			Slope	-99...+99				
			Release	-99...+99				
		by Velocity	Attack	-99...+99				
			Decay	-99...+99				
			Slope	-99...+99				
			Release	-99...+99				
	by Alternate Modulation	AMS	OFF...Tempo					
		Intensity	-99...+99					
	Level Modulation	by Velocity	Start	-99...+99				
Attack			-99...+99					
Break			-99...+99					

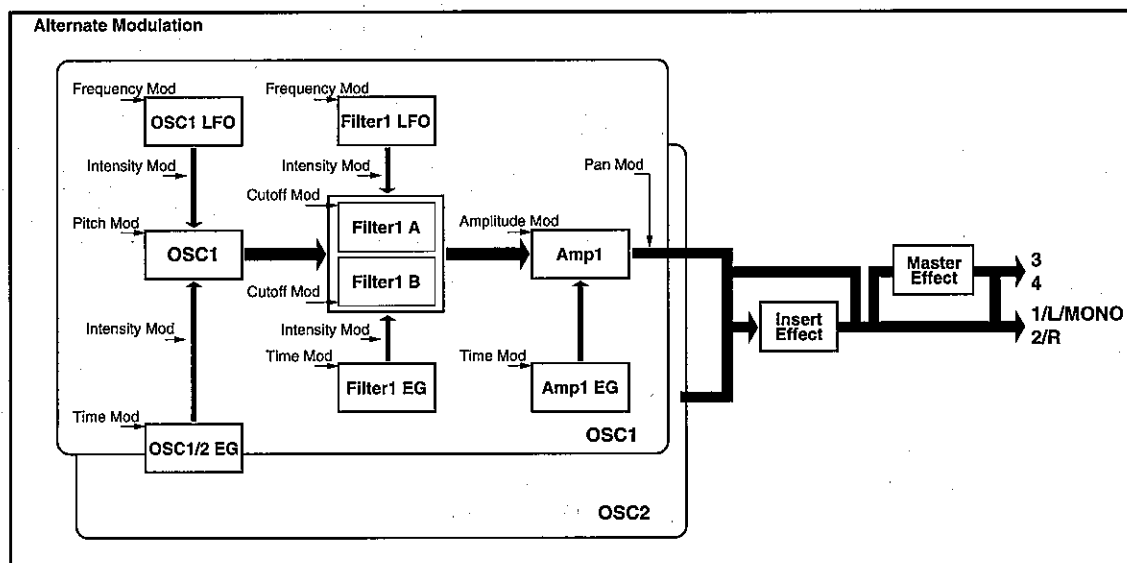
Filter1 LFO	Wave form			Triangle 0...Random6	
	Frequency			00...99	
	Offset			-99...+99	
	Start Mode			Key On, Key Off, Both	
	KeySync			Off, On	
	Delay			00...99	
	Fade			-99...+99	
	Frequency Modulation	by Alternate Modulation	AMS	OFF...Filter1 LFO	
		Intensity	-99...+99		
Amp1	Amp Level			0...127	
	Amp Modulation	by Keyboard Track	Lower Key	C-1...G9	
			Higher Key	C-1...G9	
			Lower Ramp	-99...+99	
		by Velocity	Higher Ramp	-99...+99	
				-99...+99	
		by Aftertouch		-99...+99	
	by Alternate Modulation	AMS	OFF...Tempo	Amp2では、OFF~Filter1 LFO	
		Intensity	-99...+99		
	Pan	by Alternate Modulation	AMS	OFF...Tempo	Amp2では、OFF~Filter1 LFO
Intensity			-99...+99		
Send	Send1		0...127		
	Send2		0...127		
Amp1 EG	Level		Start	00...99	
			Attack	00...99	
			Break	00...99	
			Sustain	00...99	
	Time		Attack	00...99	
			Decay	00...99	
			Slope	00...99	
			Release	00...99	
	Time Modulation	by Keyboard Track	Attack	-99...+99	
			Decay	-99...+99	
			Slope	-99...+99	
			Release	-99...+99	
		by Velocity	Attack	-99...+99	
			Decay	-99...+99	
			Slope	-99...+99	
			Release	-99...+99	
by Alternate Modulation	AMS	OFF...Filter1 LFO			
	Intensity	-99...+99			
Level Modulation	by Velocity	Start	-99...+99		
		Attack	-99...+99		
		Break	-99...+99		
OSC2	OSC Maltisample	OSC2を参照			
	Velocity Switch				
OSC2 P.Mod	Pitch Slope				
	by Ribbon (X)				
	by JS (+X)				
	by JS (-X)				
	by Alternate Modulation				
OSC2 LFO	by Oscillator EG				
	by Oscillator2 LFO				
	Wave form				
Filter2	Frequency				
	Offset				
	Start Mode				
	Key Sync				
	Delay				
	Fade				
	Frequency Modulation				
Filter2	Routing				
	Filter2A				
	Filter2B				

Filter2 Fc Mod	of Filter2A	OSC1を参照		
	of Filter2B			
	of Filter2 EG			
	by Filter2 LFO			
Filter2 EG	Level			
	Time			
	Time Modulation			
	Level Modulation			
Filter2 LFO	Wave form			
	Frequency			
	Offset			
	Start Mode			
	KeySync			
	Delay			
	Fade			
	Frequency Modulation			
Amp2	Amp Level			
	Amp Modulation			
	Pan			
	Send			
Amp2 EG	Level			
	Time			
	Time Modulation			
	Level Modulation			
Prog Basic	Program Name			
	Category	A	1...16	
		B	1...16	TRINITYのみで使用
	Panel Switch Assign	SW1	JS(X) Lock...Mod[CC#80]	TRINITYのみで使用
SW2		JS(X) Lock...Mod[CC#80]	TRINITYのみで使用	

## Alternate Modulationについて

**Alternate Modulation** (オルタネート・モジュレーション)は、個別に選んでおいた**AMS**(オルタネート・モジュレーション・ソース)で、それぞれモジュレーションをかけるものです。

下図のように14種27箇所を設定できます(OSC EGはOSC1,2で共有)。



## Alternate Modulation Source(AMS)について

AMSは26種類あり、これらのソースでAlternate Modulation がコントロールできます。

複数のAlternate Modulation で同じAMSを選択すると、1つのソースで複数のモジュレーションが行なえます。

Alternate Modulation Source	
OSC EG	オシレータEG
Filter EG	フィルターEG(同一オシレータ内のフィルターEG)
Amplifier EG	アンプEG(同一オシレータ内のアンプEG)
OSC LFO	オシレータLFO(同一オシレータ内のオシレータLFO)
Filter LFO	フィルターLFO(同一オシレータ内のフィルターLFO)
Velocity	MIDIのノート・オン・メッセージを受信すると動作します。
Note No.	MIDIのノート・オン・メッセージを受信すると動作します。
Poly After	MIDIのポリキー・プレッシャー・メッセージを受信すると動作します。
Aftertouch	MIDIのチャンネル・アフター・メッセージを受信すると動作します。
Joy Stick(X)	MIDIのピッチ・ベンダー・チェンジ・メッセージを受信すると動作します。
Joy Stick(+Y)	コントロール・チェンジCC#1を受信すると動作します。
Joy Stick(-Y)	コントロール・チェンジCC#2を受信すると動作します。
Ribbon(X)	コントロール・チェンジCC#16を受信すると動作します。
Ribbon(Z)	コントロール・チェンジCC#17を受信すると動作します。
Foot Pedal (CC#4)	コントロール・チェンジCC#4を受信すると動作します。
Value Slider (CC#18)	コントロール・チェンジCC#18を受信すると動作します。
MIDI(CC#19)	コントロール・チェンジCC#19を受信すると動作します。
SW1 (CC#80)	コントロール・チェンジCC#80を受信すると動作します。
SW2 (CC#81)	コントロール・チェンジCC#81を受信すると動作します。
Pedal SW (CC#82)	コントロール・チェンジCC#82を受信すると動作します。
MIDI(CC#83)	コントロール・チェンジCC#83を受信すると動作します。
Tempo	受信したテンポ(MIDIクロックからのテンポ情報)に同期して動作します。
Filter1 EG	フィルター1EG(オシレータ2のみで選択)
Amp1 EG	アンプ1EG(オシレータ2のみで選択)
OSC1 LFO	オシレータ1LFO(オシレータ2のみで選択)
Filter1 LFO	フィルター1LFO(オシレータ2のみで選択)

## Alternate Modulationの設定

AMS(オルタネート・モジュレーション・ソース)を操作すると、モジュレーションを受ける側(ディスティネーション)は以下の表のように変化します。

Parameter (AMS Intensity)	AMS	EG LFO	Amp EG	JS(X), Ribbon(X)	Controller*1	SW*2	Note No.*3	Tempo*4
		-99...0...+99	0...+99	-Max...0...+Max	0...+127	Off, On	...C2...C4...C6...	♩[...60...120...240...]
Pitch	(+12.00)	-1...0...+1 [Oct]	0...+1 [Oct]	専用パラメータ有	0...+1 [Oct]	0, +1 [Oct]	専用パラメータ有	...-1...0...+1... [Oct]
Cutoff*5	(+99)	-99...0...+99	0...+99	-99...0...+99	0...+99	0, +99	...-99...0...+99	...-99...0...+99
Amplitude	(+99)	設定値×(0...1...8)	専用パラメータ有	設定値×(0...1...8)	設定値×(1...8)	設定値×(1, 8)	設定値×(0...1...8...)	設定値×(0...1...8...)
EG/ LFO Time*6	(+99)	設定値×(64...1...1/64)	設定値×(1...1/64)	設定値×(64...1...1/64)	設定値×(1...1/64)	設定値×(1, 1/64)	設定値×(64...1...1/64...)	設定値×(64...1...1/64...)
EG/LFO Intensity*7	(+12.00) (+99)	-1...0...+1 [Oct] -99...0...+99	0...+1 [Oct] 0...+99	-1...0...+1 [Oct] -99...0...+99	-1...0...+1 [Oct] 0...+99	0...+1 [Oct] 0, +99	...-1...0...+1 [Oct] ... ...-99...0...+99...	...-1...0...+1... [Oct] -99...0...+99...
Panpot*8	(+99)	-127...0...+127	0...+127	-127...0...+127	0...+127	0, +127	-127...0...+127	-127...0...+127

\*1 Controller: Velocity, AfterTouch, Poly After, CC#17, CC#04, CC#01, CC#02, CC#18, CC#19, CC#83

\*2 SW: コントロール・チェンジCC#80, CC#81, CC#82

\*3 AMSにNote No.を選んだ場合、C4が基準になります。

\*4 AMSにTempoを選んだ場合、♩=120が基準になります。

\*5 Cutoffの値に加算させたように動作します。Cutoffの数値が10増えると、カットオフ周波数は2倍(1オクターブ上)になります。

\*6 EG Time: Attack Time, Decay Time, Slope Time, Release Time

LFO time: Delay, Fade, Frequency (Timeが短くなると、Frequencyは速くなります)

\*7 Oscillator EG/LFOのときAMS Intensityの最大値は、+12.00、Filter EG/LFO、Amp EGのときAMS Intensityの最大値は+99になります。

\*8 Note Onしたときの状態で決り、Panpotの設定値に加算(+で右方向)したように動作します。

## Alternate Modulationの応用例

- 各EG Time、各LFO Frequencyのモジュレーション・ソースにTempoを選ぶと、接続したMIDI機器のMIDIクロックのテンポに合わせてEGやLFOの速さが変化します。さらにPitch、Cutoff FrequencyをTempoでのコントロールに加えると、テープ・レコーダーの早送りなどと同じ効果が得られます。
- AMSにPoly Afterを選ぶと、EGやVelocityと同じようにある特定の音だけにモジュレーションをかけることができます。例えば和音が鳴っているとき、ある1つの音にだけピブラートをかけるなどできます。
- ベロシティやジョイスティックはもちろん、スイッチやペダルでも音色やEG、LFO等をコントロールできます。
- PanpotをジョイスティックやランダムLFOでコントロールできます。
- フィルターEGでCutoff FrequencyとPitchの両方をコントロールしたり、フィルター1のEGでフィルター2のCutoff Frequencyがコントロールできます。

## Dynamic Modulation Sourceについて

各エフェクトで設定したD/mod Src(ダイナミック・モジュレーション・ソース)を操作して、パラメータにモジュレーションをかけることができます。

コントロールできるパラメータはエフェクトの種類によって異なり、モジュレーション・ソースを複数持つエフェクトもあります。

D/mod Srcには26種類あり、これらのソースでDynamic Modulationがコントロールできます。

ダイナミック・モジュレーション・ソースの種類については別冊のEffect Guide P.10を参照してください。

## ドラムキットのパラメータ

ドラムサンプル(ドラム用PCM波形データ)を鍵盤の1鍵ずつにそれぞれ割当て、ピッチ、レベル等を調整したものをドラムキットといいます。

ドラムキットを使用するプログラムをドラム・オシレータのプログラムといい、マルチサンプル(PCM波形)を使用したプログラムをシングルオシレータのプログラムまたはダブルオシレータのプログラムをいいます。

ドラム・オシレータのプログラムとマルチサンプルを使用したプログラムとは、プログラム・パラメータの設定が異なります。

ドラムキットをエディットする場合、あらかじめプログラムのオシレータ・モードドラム・オシレータにしてからドラムキットのエディットをはじめてください。ドラム・オシレータのプログラムは、カテゴリーがDrums/Percになっています。

	Parameter	Value		
Drumkit	Assign		OFF, ON ONにすると、そのドラムサンプルが発音します	
	Higher	Drumsample	OFF, 1...258	Bottom Vel以上で発音するドラムサンプルを選びます
		Start Offset	ON/OFF	ドラムサンプル波形の発音位置を決めます
		Tune	-60.0...+24.0	ピッチを調整します
		Level	-99...+99	音量を調整します
		Decay	-99...+99	音の減衰時間を調整します
	Lower	Drumsample	OFF, 1...258	Bottom Vel未満で発音するドラムサンプルを選びます
		Start Offset	OFF, ON	ドラムサンプル波形の発音位置を決めます
		Tune	-60.0...+24.0	ピッチを調整します
		Level	-99...+99	音量を調整します
		Decay	-99...+99	音の減衰時間を調整します
	Bottom Vel of Higher		1...127	High, Lowを使い分けるベロシティ値を設定します
	Exclusive Assign		OFF, Group01...Group16	ドラムサンプルを割当てたキーをグループ化します
	Pan		OFF, L000...C064...R127	パン(パンポット)を設定します
	Send1		0...127	SEND1レベルを設定します
Send2		0...127	SEND2レベルを設定します	
Bypass Filter		Bypass, Filterd	プログラムでフィルターをかけるかどうかを設定します	
Insert FX Group		OFF, Inst1...Inst4	ドラムサンプルをどのエフェクトに出力するかを設定します	

## 2. TR-Rackの内部パラメータ

TR-Rackでは、Program Editモードでプログラムのパラメータ値を変更すると、下図のように音源内部の複数のパラメータの値が連動して変化するものがあります。

\*のInternal Parameterは、符号(+、-)のついた値になっています。Program Editモードのパラメータの値を変更するとInternal Parameterの値も変化しますが、0を越える変化はしません。例えば、Internal Parameterの値が+2に設定されている場合、Program Editモードのパラメータの値を-6に下げると、Internal Parameterの値は-1の値にはならず0になります。

Page	Parameter	Value	Internal Parameter
1	Octave	-3...+3	OSC1 Multisample-Octave
		-3...+3	OSC2 Multisample-Octave
2	Amp Level	-99...+99	Amp1-Amplitude Level
		-99...+99	Amp2-Amplitude Level
3	Filter Fc	-99...+99	Filter 1A-Cutoff Frequency
			Filter 1B-Cutoff Frequency
			Filter 2A-Cutoff Frequency Filter 2B-Cutoff Frequency
4	Filter EG Int	-99...+99	Filter1 EG-Intensity to Filter1A*
			Filter1 EG-Intensity to Filter1B*
			Filter1 EG-Velocity to Filter1A*
			Filter1 EG-Velocity to Filter1B*
		-99...+99	Filter1 EG-AMS-Intensity*
			Filter2 EG-Intensity to Filter2A*
			Filter2 EG-Intensity to Filter2B*
			Filter2 EG-Velocity to Filter2A* Filter2 EG-Velocity to Filter2B*
5	Resonance	-99...+99	Filter1A-Resonance Filter1B-Resonance
		-99...+99	Filter2A-Resonance Filter2B-Resonance
6	Attack Time	-99...+99	Amp1 EG-Attack Time ※1
			Amp1 EG-Start Level ※1
		-99...+99	Amp2 EG-Attack Time ※1
			Amp2 EG-Start Level ※1
7	Decay Time	-99...+99	Filter1 EG-Decay Time
			Amp1 EG-Decay Time
		-99...+99	Filter2 EG-Decay Time
			Amp2 EG-Decay Time
8	Release Time	-99...+99	Filter1 EG-Release Time
			Amp1 EG-Release Time
		-99...+99	Filter2 EG-Release Time
			Amp2 EG-Release Time
9	OSC1 Velocity	-99...+99	OSC1-Oscillator EG by Velocity*
			OSC1 EG-Time Modulation by Velocity*
			Filter1 EG by Velocity to Filter1A*
			Filter1 EG by Velocity to Filter1B*
			Filter1A-Resonance Mod By Velocity*
			Filter1B-Resonance Mod By Velocity*
			Filter1 EG-Time Modulation by Velocity-At*
			Filter1 EG-Time Modulation by Velocity-Dc*
			Filter1 EG-Time Modulation by Velocity-Sl*
			Filter1 EG-Time Modulation by Velocity-Rl*
			Filter1 EG-Start Level Modulation by Velocity*
			Filter1 EG-Attack Level Modulation by Velocity*
			Filter1 EG-Break Point Level Modulation by Velocity*
			Amp1-Amplitude Modulation by Velocity*
			Amp1 EG-Time Modulation by Velocity-At*
			Amp1 EG-Time Modulation by Velocity-Dc*
			Amp1 EG-Time Modulation by Velocity-Sl*
			Amp1 EG-Time Modulation by Velocity-Rl*
Amp1 EG-Level Modulation by Velocity-Sl*			
Amp1 EG-Level Modulation by Velocity-At*			
Amp1 EG-Br Level Modulation by Velocity*			



9	OSC2 Velocity	-99...+99	OSC2-Oscillator EG by Velocity*
			OSC2 EG-Time Modulation by Velocity*
			Filter2 EG by Velocity to Filter2A*
			Filter2 EG by Velocity to Filter2B*
			Filter2A-Resonance Mod By Velocity*
			Filter2B-Resonance Mod By Velocity*
			Filter2 EG-Time Modulation by Velocity-At*
			Filter2 EG-Time Modulation by Velocity-Dc*
			Filter2 EG- Time Modulation by Velocity-Sl*
			Filter2 EG-Time Modulation by Velocity-Rl*
			Filter2 EG-Level Modulation by Velocity-St*
			Filter2 EG-Level Modulation by Velocity-At*
			Filter2 EG-Level Modulation by Velocity-Br*
			Amp2 -Amplitude Modulation by Velocity*
			Amp2 EG-Time Modulation by Velocity-At*
			Amp2 EG-Time Modulation by Velocity-Dc*
			Amp2 EG-Time Modulation by Velocity-Sl*
			Amp2 EG-Time Modulation by Velocity-Rl*
			Amp2 EG-Level Modulation by Velocity-St*
Amp2 EG-Level Modulation by Velocity-At*			
Amp2 EG-Br Level Modulation by Velocity*			
10	After Touch	-99...+99	OSC1-Oscillator1 LFO by Aftertouch
			Filter1-Filter1 LFO-Aftertouch
			Filter1A Cutoff by Aftertouch
			Filter1B Cutoff by Aftertouch
			Amp1-Amplifier by Aftertouch
		-99...+99	OSC2-Oscillator2 LFO by Aftertouch
			Filter2-Filter2 LFO by Aftertouch
			Filter2A Cutoff by Aftertouch
			Filter2B Cutoff by Aftertouch
11	LFO Intensity	-99...+99	Oscillator1 LFO-Intensity to OSC1*
			Filter LFO-Intensity to Filter1A*
			Filter LFO-Intensity to Filter1B*
		-99...+99	Oscillator2 LFO-Intensity to OSC2*
			Filter LFO-Intensity to Filter2A*
			Filter LFO-Intensity to Filter2B*
12	LFO Frequency	-99...+99	OSC1 LFO-Freq
			Filter1 LFO-Freq
		-99...+99	OSC2 LFO-Freq
			Filter2 LFO-Freq
13	Panpot	OFF, L000...R127	Amp1-Pan
		OFF, L000...R127	Amp2-Pan
14	Send1	0...127	Amp1-Send1
		0...127	Amp2-Send1
15	Send2	0...127	Amp1-Send2
		0...127	Amp2 -Send2

※1: Start Level>0のとき、**TR-Rack**のValueを1下げることにより、Internal ParameterのStart Levelの値が5ずつ減ります。**TR-Rack**のValueを下げていき、Start Levelが0になった時点でAttack Timeの値が変化しはじめます(変化率1:1)。  
**TR-Rack**のValueを+の値に変更するときは、Start Levelは変わらずにAttack Timeだけが変化します。

### 3. Initialize実行時の設定データ

#### Combination

Combination Editモードの「Page45: Initialize」を実行すると、パラメータの値が以下のように変更されます。

Page	Parameter	Value		
1	Program	A000		
2	Level	127		
3	Channel	G		
4	Timbre SW	ON		
5	Transpose	00		
6	Detune	00		
7	Bend Range	PRG		
8	Delay Start	0000		
9	Key Zone Top	G9		
10	Key Zone Bottom	C-1		
11	K.Z Top Slope	00		
12	K.Z Bottom Slope	00		
13	Vel Zone Top	127		
14	Vel Zone Bottom	001		
15	V.Z Top Slope	00		
16	V.Z Bottom Slope	00		
17	Prog Change Filter	ENA		
18	Ctrl Change Filter	ENA		
19	After Touch Filter	ENA		
20	Sustain Pedal Filter	ENA		
21	Scale Select	PRG		
22	Hide OSC2	NO		
23	Force Poly	NO		
24	Panpot	PRG		
25	MFx Send1	PRG		
26	MFx Send2	PRG		
27	Insert FX Size	OFF		
28	IFX1	Effect On/Off	ON	
		Size	0	
		Effect Select	00	
29	IFX2	Effect On/Off	ON	
		Size	0	
		Effect Select	00	
30	IFX3	Effect On/Off	ON	
		Size	0	
		Effect Select	00	
31	IFX4	Effect On/Off	ON	(ドラム・オシレータのプログラムの場合)
		Size	0	(ドラム・オシレータのプログラムの場合)
		Effect Select	00	
34	IFX Chain	1>2	OFF	(ドラム・オシレータのプログラムの場合)
		2>3	OFF	(ドラム・オシレータのプログラムの場合)
		3>4	OFF	(ドラム・オシレータのプログラムの場合)
35	IFX Pan	IFX1 Pan	C064	
		IFX1 Width	000	
		IFX2 Pan	C064	(ドラム・オシレータのプログラムの場合)
		IFX2 Width	000	(ドラム・オシレータのプログラムの場合)
		IFX3 Pan	C064	(ドラム・オシレータのプログラムの場合)
		IFX3 Width	000	(ドラム・オシレータのプログラムの場合)
36	IFX Send	IFX4 Pan	C064	(ドラム・オシレータのプログラムの場合)
		IFX4 Width	000	(ドラム・オシレータのプログラムの場合)
		IFX1 Send1	000	
		IFX1 Send2	000	
		IFX2 Send1	000	(ドラム・オシレータのプログラムの場合)
		IFX2 Send2	000	(ドラム・オシレータのプログラムの場合)
37	Master FX(Rev)	IFX3 Send1	000	(ドラム・オシレータのプログラムの場合)
		IFX3 Send2	000	(ドラム・オシレータのプログラムの場合)
		IFX4 Send1	000	(ドラム・オシレータのプログラムの場合)
		IFX4 Send2	000	(ドラム・オシレータのプログラムの場合)
		Effect On/Off	OFF	
		Effect Select	04: Chorus	
38	Master FX Chain	Effect On/Off	OFF	
		Effect Select	04: Reverb-Hall	
40	Master FX Return	Effect On/Off	OFF	
		Effect Select	04: Reverb-Hall	
41	Master EQ dB	MFX1	000	
		MFX2	000	
42	Master EQ dB	Lo	00.0	
		Hi	00.0	
43	MFx Pan to Out3/4	M1	L	
		M2	R	
44	Scale	Type	Equal Temp	
		Key	C	
		Random	0	
46	Rename	Initial Combi		
47	Category	00		

## Multi

Multiモードの「Page36: Initialize」を実行すると、パラメータの値が以下のように変更されます。

Page	Parameter	Value		
1	Program	A000		
2	Level	127		
3	Channel	G		
4	Track SW	ON		
5	Transpose	00		
6	Detune	00		
7	Bend Range	PRG		
8	Prog Change	ENA		
9	Ctrl Change	ENA		
10	After Touch	ENA		
11	Sustain Pedal	ENA		
12	Scale Select	PRG		
13	Hide OSC2	NO		
14	Force Poly	NO		
15	Panpot	PRG		
16	MFX Send1	PRG		
17	MFX Send2	PRG		
18	Insert FX Size	OFF		
19	IFX1	Effect On/Off	ON	
		Size	0	
		Effect Select	00	
20	IFX2	Effect On/Off	ON	
		Size	0	
		Effect Select	00	
21	IFX3	Effect On/Off	ON	
		Size	0	
		Effect Select	00	
22	IFX4	Effect On/Off	ON	(ドラム・オシレータのプログラムの場合)
		Size	0	(ドラム・オシレータのプログラムの場合)
		Effect Select	00	
25	IFX Chain	1>2	OFF	(ドラム・オシレータのプログラムの場合)
		2>3	OFF	(ドラム・オシレータのプログラムの場合)
		3>4	OFF	(ドラム・オシレータのプログラムの場合)
26	IFX Pan	IFX1 Pan	C064	
		IFX1 Width	000	
		IFX2 Pan	C064	(ドラム・オシレータのプログラムの場合)
		IFX2 Width	000	(ドラム・オシレータのプログラムの場合)
		IFX3 Pan	C064	(ドラム・オシレータのプログラムの場合)
		IFX3 Width	000	(ドラム・オシレータのプログラムの場合)
		IFX4 Pan	C064	(ドラム・オシレータのプログラムの場合)
IFX4 Width	000	(ドラム・オシレータのプログラムの場合)		
27	IFX Send	IFX1 Send1	000	
		IFX1 Send2	000	
		IFX2 Send1	000	(ドラム・オシレータのプログラムの場合)
		IFX2 Send2	000	(ドラム・オシレータのプログラムの場合)
		IFX3 Send1	000	(ドラム・オシレータのプログラムの場合)
		IFX3 Send2	000	(ドラム・オシレータのプログラムの場合)
		IFX4 Send1	000	(ドラム・オシレータのプログラムの場合)
		IFX4 Send2	000	(ドラム・オシレータのプログラムの場合)
28	Master FX(Mod)	Effect On/Off	OFF	
		Effect Select	04: Chorus	
29	Master FX(Rev)	Effect On/Off	OFF	
		Effect Select	04: Reverb-Hall	
31	Master FX Chain	OFF		
32	Master FX Return	MFX1	000	
		MFX2	000	
33	Master EQ dB	Low	00	
		High	00	
34	MFX Pan to Out3/4	1	L	
		M2	R	
35	Scale	Type	Equal Temp	
		Key	C	
		Random	0	

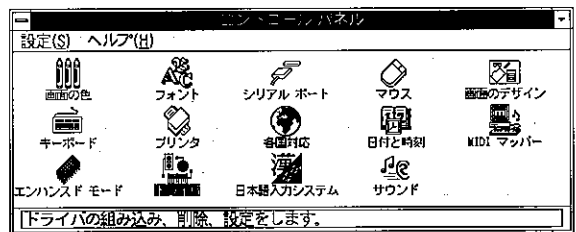
## 4. KORG MIDI Driverのインストールとセットアップ

TR-Rackには、KORG MIDI Driverが付属されています。IBM PC(互換機)、NEC PC-9800シリーズでお使いになるアプリケーション(シーケンサー)がWindowsに対応している場合にKORG MIDI Driverを使用しますと、シリアルポート(COM,RS-232C,SERIAL2)に接続したTR-RackをMIDIデバイスとして扱えるようになります。また、Apple Macintoshシリーズでお使いになるアプリケーション(シーケンサー)がApple MIDI Managerに対応している場合にKORG MIDI Driverを使用しますと、シリアルポート(モデム、プリンタ)に接続したTR-RackとMacintoshとの間で相互に情報のやり取りが行なえるようになります。

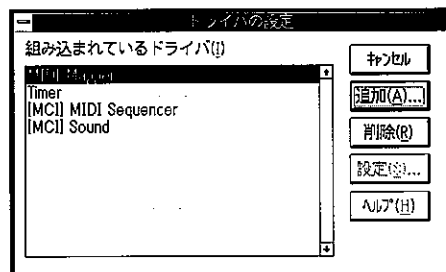
### KORG MIDI DriverのWindows 3.1へのインストール

お使いのコンピュータの処理速度が十分に速くない場合、MIDI INデータを正しく受信できないことがあります。

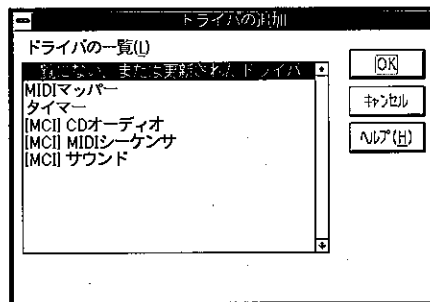
- ① コントロールパネルの中のドライバアイコンをダブルクリックします。



- ② [追加]ボタンをクリックします。

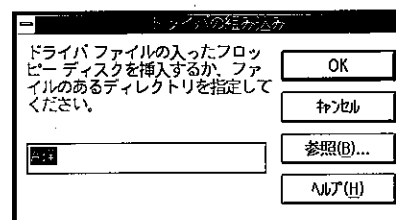


- ③ ドライバの一覧の中から[一覧にない、または更新されたドライバ]を選び、[OK]ボタンをクリックします。

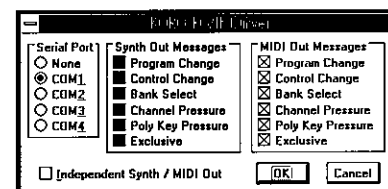


- ④ KMD-01の付属ディスクをコンピュータのドライブに挿入します。Aドライブに入れた場合は“A:¥”(Bドライブの場合は“B:¥”)と入力し、[OK]ボタンをクリックします。

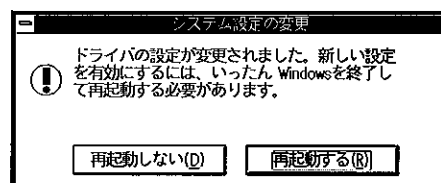
ただし、PC-9800シリーズでSERIAL2を利用して接続する場合は、ディスクをAドライブに入れ、“A:¥PC98”(Bドライブの場合は“B:¥PC98”)と入力し、[OK]ボタンをクリックしてください。



- ⑤ KORG PC/IF Driverを選び、[OK]ボタンをクリックすると、セットアップの画面になります。次の「KORG MIDI Driver (Windows)のセットアップ」に従って、セットアップを行なってください。

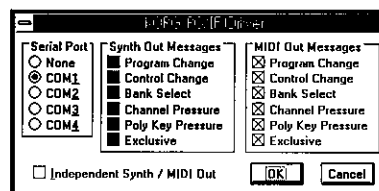


- ⑥ セットアップ後、ドライバを有効にするために、ディスクを取り出し、[再起動する]を選択します。



## KORG MIDI Driver (Windows) のセットアップ

- ① コントロールパネルの中のドライバアイコンをダブルクリックし、[KORG PC/IF Driver] を選び、設定のボタンをクリックするとセットアップの画面になります。



- ② Serial Port では **TR-Rack** を接続したシリアルポートを [COM1] ~ [COM4] の中から選びます。PC-9800 シリーズでは RS-232C (SERIAL1) に接続している場合は [COM1] に、SERIAL2 に接続している場合は [COM2] を選んでください。

KORG MIDI Driver を組み込んだ後に、シリアルポートを別の用途に使うときには、ドライバを削除 (Delete) するか、または [None] を選んでドライバを無効にしてください。

- ③ [Independent Synth / MIDI Out] をチェックします。チェックすると **TR-Rack** 内部の音源と MIDI Out を独立して使用することができます。

Default MIDI に出力されたデータは、MIDI OUT 端子および内部音源の両方に出力します。

MIDI Out に出力されたデータは MIDI OUT 端子のみに出力され、**TR-Rack** の内部音源は鳴りません。Synth-A に出力されたデータは、内部音源に送られます (Synth-B は使用しないでください)。

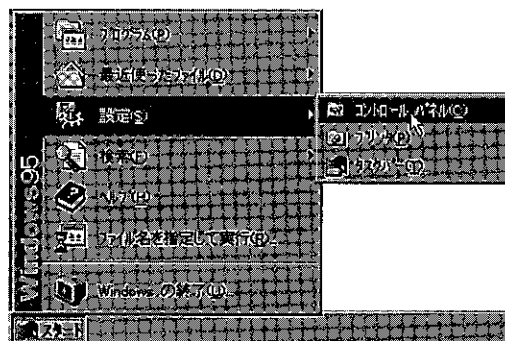
[Independent Synth/MIDI Out] がチェックされていないときは、Default MIDI のみ使用できます。

- ④ [MIDI Out Messages] では **TR-Rack** へ送るメッセージを選ぶことができます。  
⑤ 選択が終わったら [OK] ボタンをクリックします。また、無効にしたい場合は [Cancel] をクリックします。

## KORG MIDI Driver の Windows 95 へのインストール

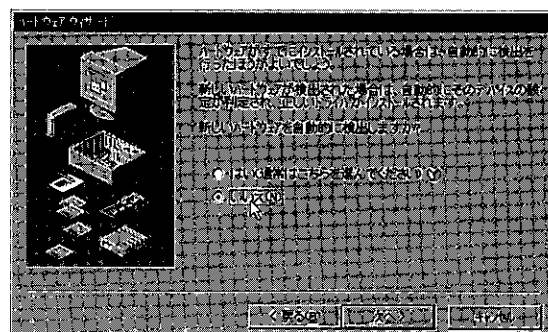
▲ お使いのコンピュータの処理速度が十分に速くない場合、MIDI IN データを正しく受信できないことがあります。

- ① タスクバーの [スタート] ボタンをクリックして、[設定] の中の [コントロールパネル] をクリックします。

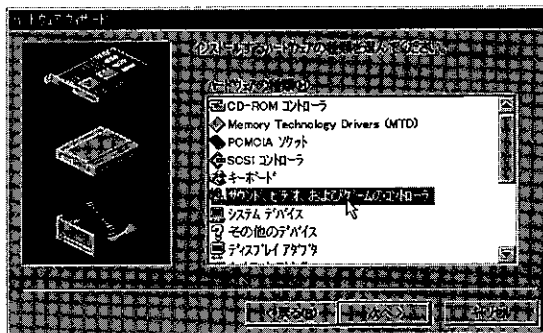


- ② コントロールパネルの中の [ハードウェア] アイコンをダブルクリックすると、ハードウェアウィザードが起動するので [次へ>] ボタンをクリックします。

- ③ 「新しいハードウェアを自動的に検出しますか?」という質問に対して、必ず [いいえ] を選び、[次へ>] ボタンをクリックします。



- ④ [サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ]を選び、[次へ>]ボタンをクリックします。

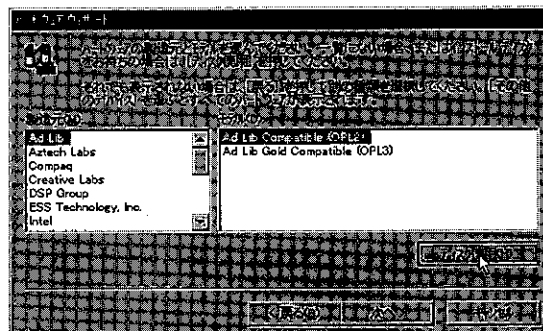


- ⑤ [ディスク使用]をクリックします。

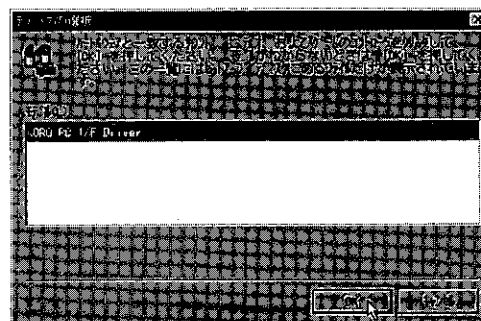
ドライブとディレクトリを指定するダイアログが表示されます。

- ⑥ KMD-01の付属ディスクをコンピュータのドライブに挿入します。Aドライブに入れた場合は“A:¥”(Bドライブの場合は“B:¥”)と入力し、[OK]ボタンをクリックします。

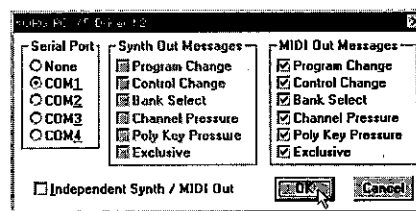
ただし、PC-9800シリーズでSERIAL2を利用して接続する場合は、ディスクをAドライブに入れ、“A:¥PC98”(Bドライブの場合は“B:¥PC98”)と入力し、[OK]ボタンをクリックしてください。



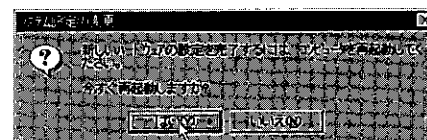
- ⑦ [OK]ボタンをクリックして、[完了]をクリックします。



- ⑧ 「KORG MIDI Driver (Windows)のセットアップ」(本書P.77)に従ってセットアップを行ない、[OK]ボタンをクリックします。



- ⑨ ドライバーを有効にするために必ず再起動させてください。



## KORG MIDI DriverのWindows95のセットアップを変更する場合

- ① コントロールパネルの中の[マルチメディア]アイコンをダブルクリックすると、マルチメディアのプロパティダイアログが表示されます。
- ② 右上の[詳細設定]タブをクリックします。
- ③ [MIDIデバイス]の[+]をクリックして(表示が[-]に変わります)[KORG PC I/F MIDI Port]をクリックします。
- ④ [プロパティ]ボタンをクリックします。  
KORG PC I/F MIDI Portのプロパティが表示されます。



- ⑤ [設定]ボタンをクリックします。

「KORG MIDI Driver (Windows)のセットアップ」(本書P.77)に従ってセットアップを行ない、[OK]ボタンをクリックします。

設定を変更した場合にはWindowsを再起動させてください。

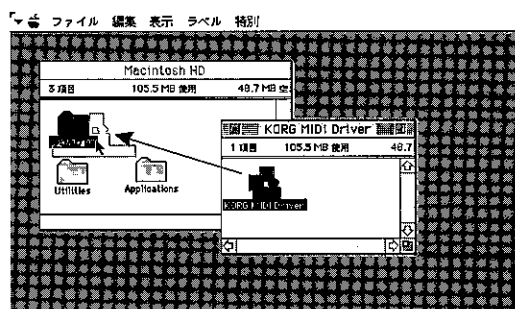


## KORG MIDI DriverのMacintoshへのインストール

- ▲ KORG MIDI Driverを使用するには、あらかじめApple MIDI ManagerおよびPatchBayがインストールされている必要があります。Apple MIDI ManagerおよびPatchBayは、お使いのMIDIアプリケーションに付属されているものをお使いください。TR-Rackには付属されていません。

KORG MIDI Driverを使うと、“Modem MIDI Out/Port setting”ダイアログ(本書P.80)でTR-Rackに送るMIDIチャンネルとメッセージの種類を設定することができます。そのような機能が必要ない場合は、KORG MIDI Driverを使わずに、Apple MIDI Driverをそのまま使用することができます。Apple MIDI Driverを使う場合や、Apple MIDI Managerを使用しないMIDIアプリケーション(シーケンサ)を使う場合はP.80をご覧ください。

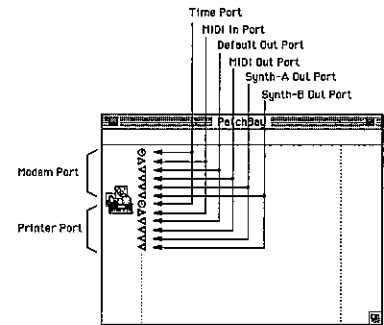
- ① KMD-01の付属ディスク内のKORG MIDI Driverを起動ディスクのシステムフォルダにコピーします。
- ② システムフォルダ内にApple MIDI Driverがあるときは削除するか、他のフォルダに移動してください。Apple MIDI Managerは削除や移動を行なわないように注意してください。  
※KORG MIDI Driverは、Apple MIDI Driverの機能を含んでいます。
- ③ 特別メニューから“再起動”を選択します。



## KORG MIDI Driver (Macintosh) のセットアップ

### ① PatchBayを起動します。

インストールが正しく行われた後、PatchBayを起動すると右図のようにPatchBayウィンドウ内にKORG MIDI Driverのアイコンが表示されます。(Modem/Printerの各ポートはセットアップの状態により表示が異なる場合があります。)



### ② PatchBayの中のKORG MIDI Driverのアイコンをダブルクリックします。

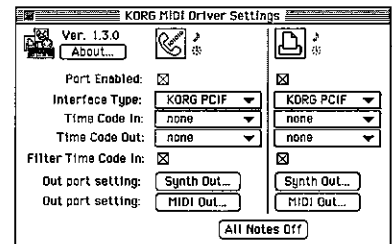
セットアップダイアログが表示されます。

### ③ TR-Rackを接続しているポートの Port Enable をチェックし、Interface Type を[KORG PCIF]または[1MHz]に設定します。

Interface Type に“KORG PCIF”を選んだとき、Default Out、MIDI Out、Synth-A Outが使えるようになります (Synth-B Outは使用しないでください)。

Default Outを選ぶと、MIDI OUT端子と内部音源の両方に出力します。

MIDI OutではMIDI OUT端子のみ、Synth-A Outでは、内部音源のみに出力します。

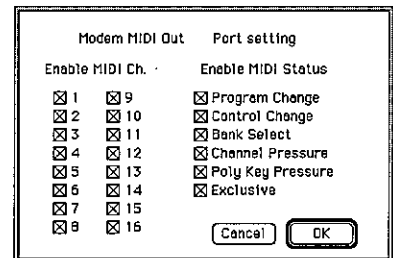



### ④ [Out Port Setting] ボタンを押します。

次のダイアログが現れます。ここで各ポートへ出力されるMIDIチャンネル/メッセージを選択することができます。チェックされているチャンネル/メッセージのみ出力します。

### ⑤ 設定後、[OK] ボタンを押します。

### ⑥ MIDIアプリケーション(シーケンサ)を起動して、MIDIアプリケーションのOut Portの◀からマウスをドラッグしてMIDI DriverのMIDI Outに接続します。



・ PatchBayの使用方法については、“”メニューの“About PatchBay...”等の説明をご覧ください。

**Apple MIDI Driver**を使う場合は、(KORG MIDI Driverがシステムフォルダ内にあるときは、削除または移動した後)PatchBayを起動し、その中のApple MIDI Driverのアイコンをダブルクリックして、**TR-Rack**を接続したPortのEnabledをチェックし、Interface Typeを[1MHz]に設定して、ダイアログを閉じます。PatchBay上で、MIDIアプリケーション(シーケンサ)のOutPortの◀からマウスをドラッグして、MIDI Outに接続します。

**Apple MIDI Manager**を使用しないMIDIアプリケーション(シーケンサ)を使う場合は、**TR-Rack**が接続されているPortを選択し、クロックの設定があるアプリケーションでは[1MHz]に設定してください。



## 5. DI-TRI デジタル/Fオプションについて

別売のDI-TRIデジタル/Fオプションを搭載することによって、TR-RackにDIGITAL OUT端子とWORD CLOCK IN端子が加わります。

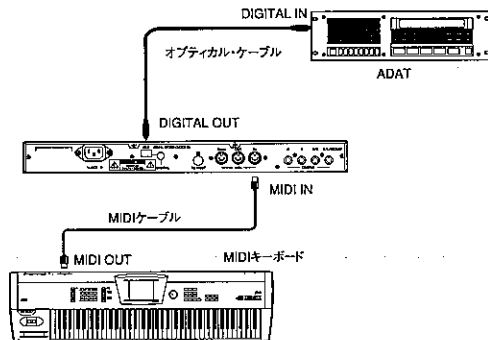
DIGITAL OUT端子はADAT Compatible OUTPUTです。Opticalフォーマット対応のミキサー、アンプ、レコーダー等のDIGITAL IN端子と本機のDIGITAL OUT端子を接続すると、本機の1/L/MONO、2/R、3、4端子(アナログ音声信号)からの4つの出力がデジタル信号で出力できます。

この4つの信号の出力には、ADAT Opticalフォーマットの8チャンネルのうちチャンネル1、2、3、4を使用しています。

WORD CLOCK IN端子は、システム・クロックの入力端子です。WORD CLOCK IN端子を持つADAT Opticalフォーマット対応のミキサーやリモート・コントローラ等のWORD CLOCK OUT端子と、本体のWORD CLOCK IN端子を接続すると、接続した機器に同期させることができます。

### 接続方法

#### TR-Rackのサウンドをデジタル・レコーディングするとき



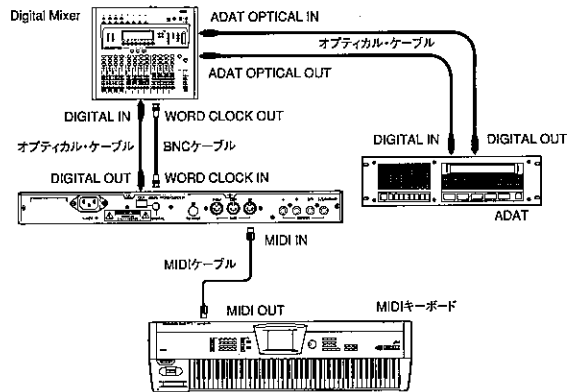
- ① TR-RackのDIGITAL OUT端子とADATのDIGITAL INPUT端子を接続します。

接続にはAlesis社のADAT-OpticalケーブルやCD/DAT用のオプティカル・ケーブル(共に別売)を使用します。

- ② TR-RackのGlobalモード「Page 17: System Clock」を「Internal」に設定します。

ADATの設定や録音方法については、ADATの取扱説明書を参照してください。

#### デジタル・ミキサーでミキシングしたTR-RackのサウンドをADATにデジタルレコーディングするとき



- ① TR-RackのDIGITAL OUT端子とADAT Opticalフォーマット対応のミキサーのADAT Optical IN端子を上図のように接続します。
- ② ADAT Opticalフォーマット対応のミキサーとADATのINとOUTを上図のように接続します。
- ③ ミキサーのWORD CLOCK OUT端子とTR-RackのWORD CLOCK IN端子を接続します。
- ④ TR-RackのGlobalモード「Page 17: System Clock」を「Word Clock」に設定します。

接続には、Alesis社のBNC Coaxケーブルやビデオ用のBNCケーブル(共に別売)を使用します。

ADATやミキサーの設定については、各機器の取扱説明書を参照してください。

WORD CLOCK IN端子に入力されるクロック信号に合わせてDIGITAL OUT端子からデジタル信号が出力され、機器間を同期させることができます。

- ⚠ BNCケーブルが抜けるなどしてクロックが正しく検出できない状態になったときは、LCD画面の上段の文字と「Di-tri clock error」のメッセージが交互に表示され、音程が下がる等の症状が起ります。このときは、BNCケーブルに問題がないかどうかチェックしてください。

取付けに関するお問い合わせは、コルグ製品取扱店又は、最寄のコルグ営業所までお問い合わせください。

## 6. 各種メッセージ

### Effect Size overflow

内容: インサート・エフェクトをコピーする際、コピー先のエフェクト・サイズがコピー元よりも小さいとき。

対策: まず、[+1/YES]または[-1/NO]キーで抜けてください。そして、サイズ内で収まるように、コピー先またはコピー元のエフェクト・サイズを調整してください。

### Memory protected

内容: ライトやダンプ・データ受信先のメモリーにプロテクトが掛かっています。

対策: 該当するメモリーのプロテクトを解除(Globalモードの「Page9: Memory Protect」を“OFF”)してください。

### MIDI receiving error

内容: 受信中のシステム・エクスクルーシブ・データが“F7” (End of Exclusive)で終了しないまま新しく別のMIDIメッセージが送られてきています。

対策: 送信側はシステム・エクスクルーシブ・データの最後には“F7”を付けて送ってください。送信側の問題なので、TR-Rackでは対処できません。

### Source FX is empty

内容: インサート・エフェクトの設定をコピーする際、コピー元のティンバーやトラックのエフェクト・サイズが“OFF”になっています。

対策: まず、[+1/YES]または[-1/NO]キーで抜けてください。そして、適切なコピー元を選び直してください。

### Size4 Placement err

内容: コンビネーションやマルチで、インサート・エフェクトの設定をコピーまたはスワップする際、実行後のサイズがFX1=2、FX2=4、FX3=2やFX1=2、FX2=4、FX3=1という禁止の組み合わせになっています。

対策: まず、[+1/YES]または[-1/NO]キーで抜けてください。そして、このような組み合わせにならないように調整してください。

## 7. 仕様とオプション

### 仕様

音源システム	ACCESS
音源部	32ボイス、32オシレータ(シングル・オシレータ時) 16ボイス、32オシレータ(ダブル・オシレータ時)
波形メモリー	PCM ROM 32Mbytes
プログラム数	512(128×4バンク)
コンビネーション数	512(128×4バンク)、コンビネーション・ティンバー数: 8
ドラムキット数	24
マルチ・トラック数	16
エフェクト	プログラム(シングル/ダブル・オシレータ時):3インサート・エフェクト+2マスター・エフェクト プログラム(ドラム・オシレータ時):4インサート・エフェクト+2マスター・エフェクト コンビネーション:8インサート・エフェクト+2マスター・エフェクト マルチ:8インサート・エフェクト+2マスター・エフェクト
エフェクト種類	100(インサート・エフェクト)、14(マスター・エフェクト)
アウトプット	1/L/MONO、2/R、3、4、ヘッドホン
ディスプレイ	バックライト付LCD、20文字×2行
MIDI	IN、OUT、THRU
通信端子	TO HOST
電源	AC100V
消費電力	18W
外形寸法(W×D×H)	482mm×264mm×45mm
重量	2.8kg
付属品	AC電源コード フロッピー・ディスク: KMD-01、SoundDiverTrinity (Mac/Win) 絶縁ワッシャー

ACCESS: Advanced Control Combined Synthesis System

### オプション(別売)

DI-TRI Digital I/F Option



## アフターサービス

- 製品をお買い上げいただいた日より一年間は保証期間です。万一保証期間内に、製造上の不備による故障が生じた場合は無償修理いたしますので、お買い上げの販売店に保証書を提示して修理をご依頼ください。ただし次の場合の修理は有償となります。
  - ①消耗部品（電池など）を交換する場合。
  - ②輸送時の落下、衝撃などお客様の取扱方法が不適当のため生じた故障。
  - ③天災（火災等）によって生じた故障。
  - ④故障の原因が本製品以外の他の機種にある場合。
  - ⑤コルグ・サービスステーション及び、コルグ指定者以外の手で修理、改造された部分の処理が不適当であった場合。
  - ⑥保証書に販売店名、お客様氏名、ご住所、お買い上げ日等が記入されていない場合。
  - ⑦保証期間が切れている場合。
  - ⑧日本国外で使用される場合。
- 当社が修理した部分が再度故障した場合は、保証期間外であっても3ヵ月以内に限り無償修理いたします。また仕様変更に関しては有償になりますのでご了承ください。
- お客様が保証期間中に移転された場合でも、保証書は引き続きお使いいただけます。移転先のコルグ製品取扱店、またはコルグ・インフォメーションまでお問い合わせください。
- 保証期間が切れますと修理は有償になりますが、引き続き製品の修理は責任を持ってさせていただきます。修理用性能部品（電子回路など）は通常8年間を基準に保有しております。ただし外装部品（パネルなど）の修理は、類似の代替品を使用することもありますのでご了承ください。
- その他、アフターサービスについてご不明の点は下記へお問い合わせください。

### ▼▲▼▲▼▲▼株式会社コルグ▼▲▼▲▼▲▼

インフォメーション	〒168 東京都杉並区下高井戸1-15-12	☎ (03)5376-5022
東京営業所	〒168 東京都杉並区下高井戸1-11-17	☎ (03)3323-5241
名古屋営業所	〒466 名古屋市昭和区八事本町100-51	☎ (052)832-1419
大阪営業所	〒531 大阪市北区豊崎3-2-1淀川5番館7F	☎ (06) 374-0691
福岡営業所	〒810 福岡市中央区白金1-3-25第2池田ビル1F	☎ (092)531-0166

■修理等のお問い合わせは最寄りの営業所、または下記までお問い合わせください。

営業技術課 〒168 東京都杉並区下高井戸1-15-12 ☎(03)3309-7004

#### 《WARNING》

This product is only suitable for sale in Japan. Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection. (この英文は、日本国内で本製品を購入された外国人のお客様のための注意事項です。)